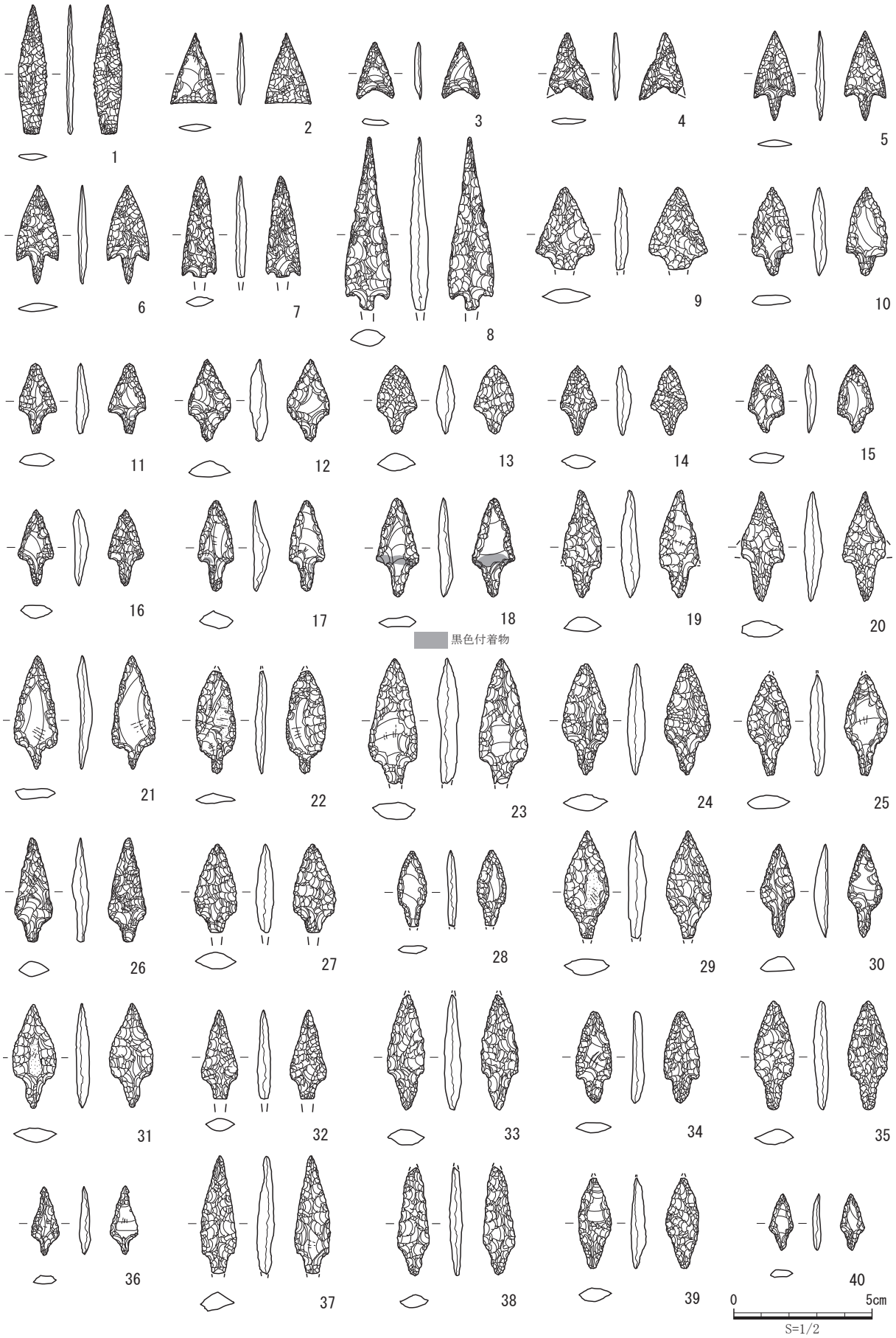
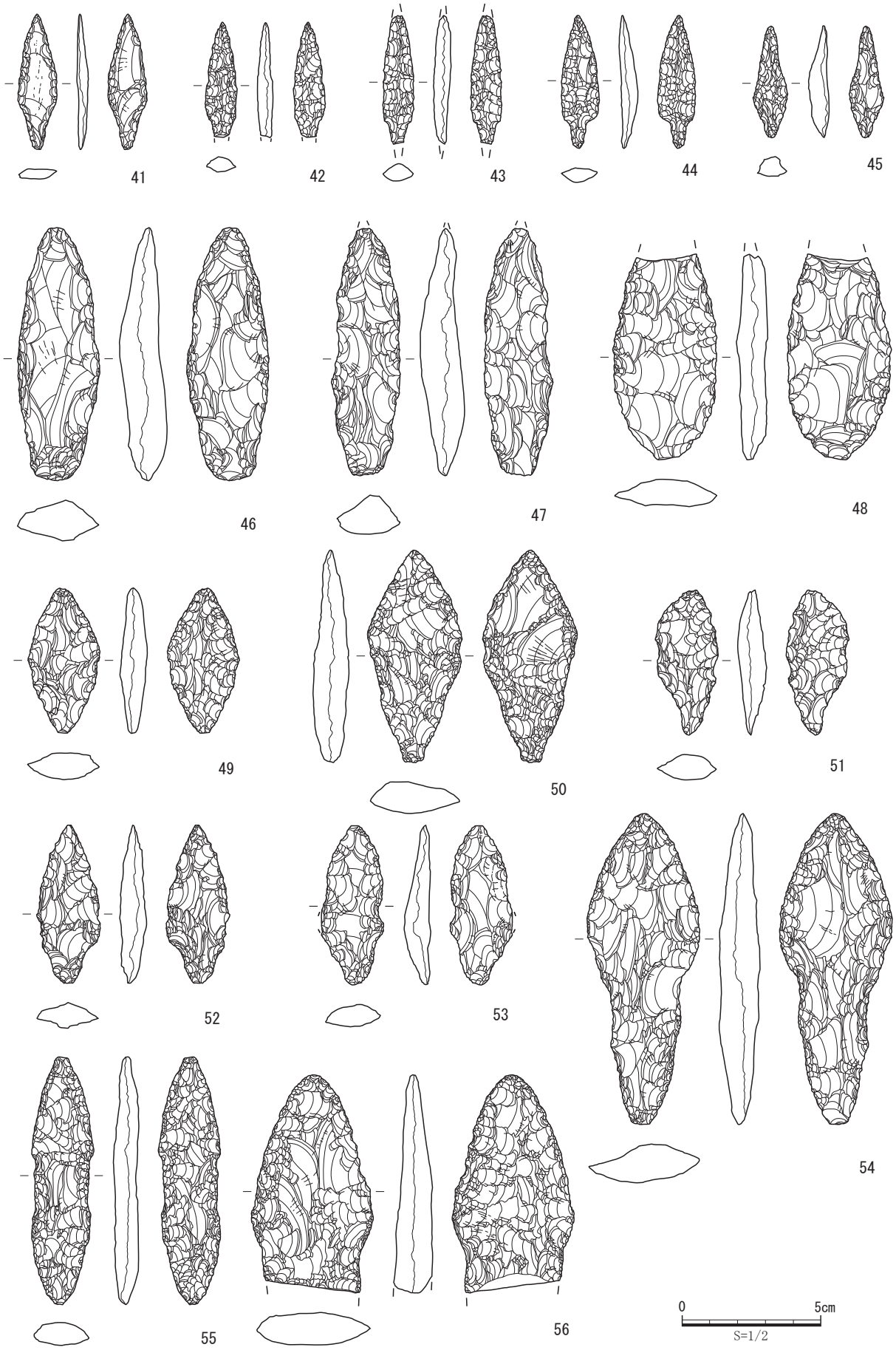
第Ⅱ－82図　遺構外出土の土器(42)

(2)剥片石器（第Ⅱ－83～94図、写真図版54～58）

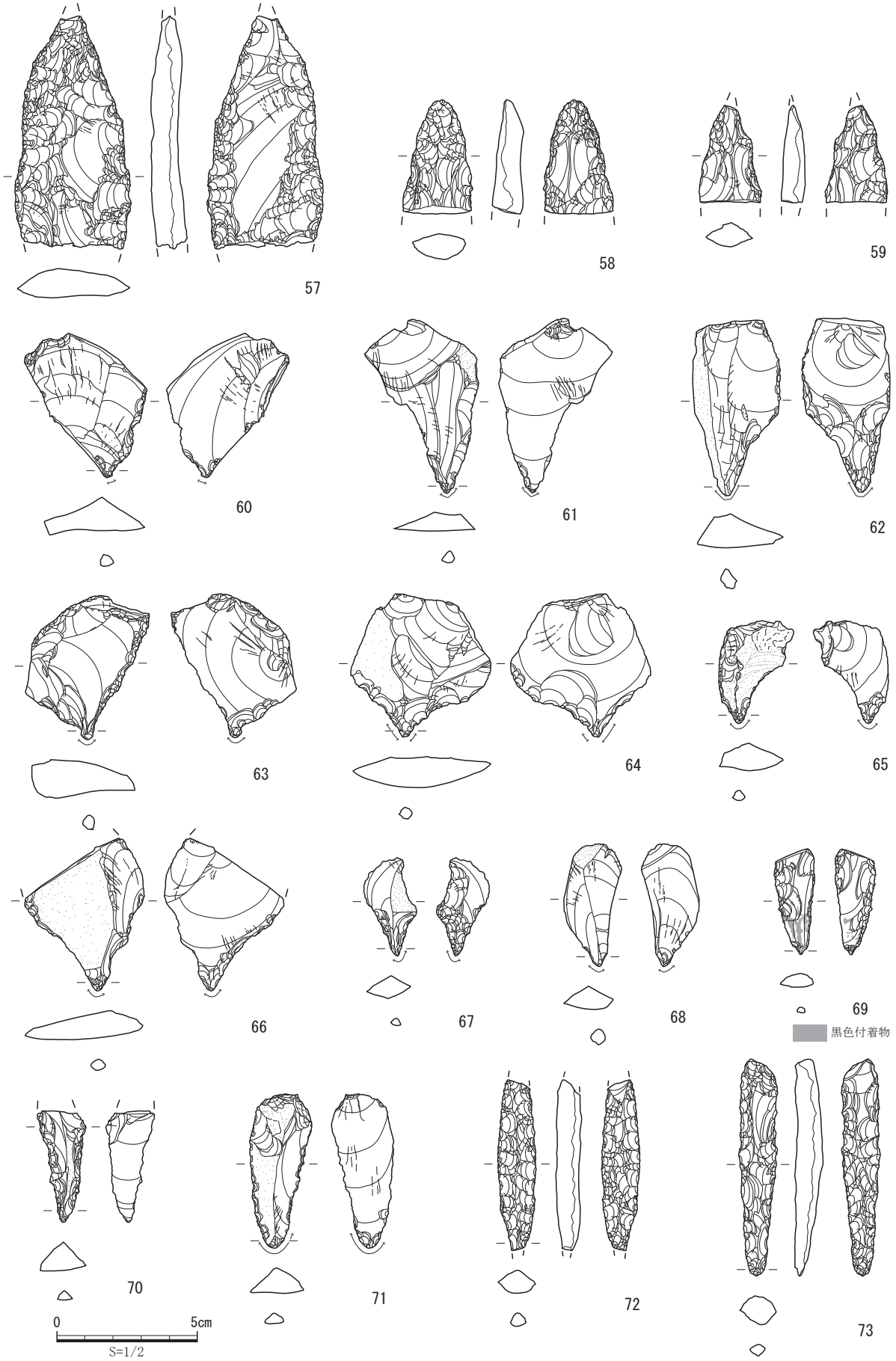
１～45 は石鏃。素材として使用された石材は、13・14・25・27 はメノウ、22・26 は黒曜石、29・33 は珪化岩、他はすべて珪質頁岩である。形態的には無茎のものと有茎ものとに大別することができ、基部の形状により、それぞれ平基、凹基、凸基に細分される。１～４は無茎のもの。１・２は平基、３・４は凹基。１は柳葉形状、２～４は二等辺三角形状に整形される。いずれも器厚は薄く、背腹両面に丁寧な調整加工が施される。２・３は素材面を残す。４は基部の一部を欠損する。５～45 は有茎のもの。５～８は凹基、10・11・16・17・20 は平基、他はすべて凸基形のものである。39・45 は返し部の作出が不明瞭で菱形状を呈している。素材面を残すものも多くみられ、その中でも 18・21・28・40 ・41 は周縁の浅い調整加工で整形が施されている。10・11・17・18 は基部に黒色付着物が認められる。46～59 は石槍。素材となる石材は 50・55～57 は黒曜石、他はすべて珪質頁岩である。形状は 47・48 が柳葉形、48・49 が木葉形、51～54 は有茎のものである。55 は上下部に先頭部と返し部状の括れが丁寧な調整加工で作出される。56～59 は下部の大部分を欠損しており全体的な形状は不明である。多くのものは背腹全面に及ぶ丁寧な調整加工で整形が施されるが、46・47 は素材面を残し、調整がやや粗い。60～77 は石錐。素材となる石材はすべて珪質頁岩である。形態的には剥片の一端に機能部が作出されるもの、棒状のもの、石鏃の転用品とみられるものがある。60～71 は剥片の一端に機能部が作出されるもの。61・67・68 は機能部のみ調整が施されるもので、他のものは側縁部に浅い調整加工が加えられている。69 は機能部の背腹両面に黒色付着物が認められる。72・73 は棒状のもの。72 は上下端部を欠損、いずれも両面全面に丁寧な調整加工が施されている。74～77 は石鏃の転用品。いずれも機能部に顕著な磨滅痕がみられる。74・77 は基部に黒色の付着物が認められる。78～107 は石匙。素材となる石材は 82 が黒曜石、他はすべて珪質頁岩である。87～89 は横長剥片を素材とするもの。他はすべて縦長剥片を素材としている。82・83・88・89・94・105 を除き、つまみ部はすべて打点側に作出される。78～101 は周縁の一辺から三辺に浅い調整加工が施されるもので、片面加工によるものが多い。102～105 は一部素材面を残すが深い剥離



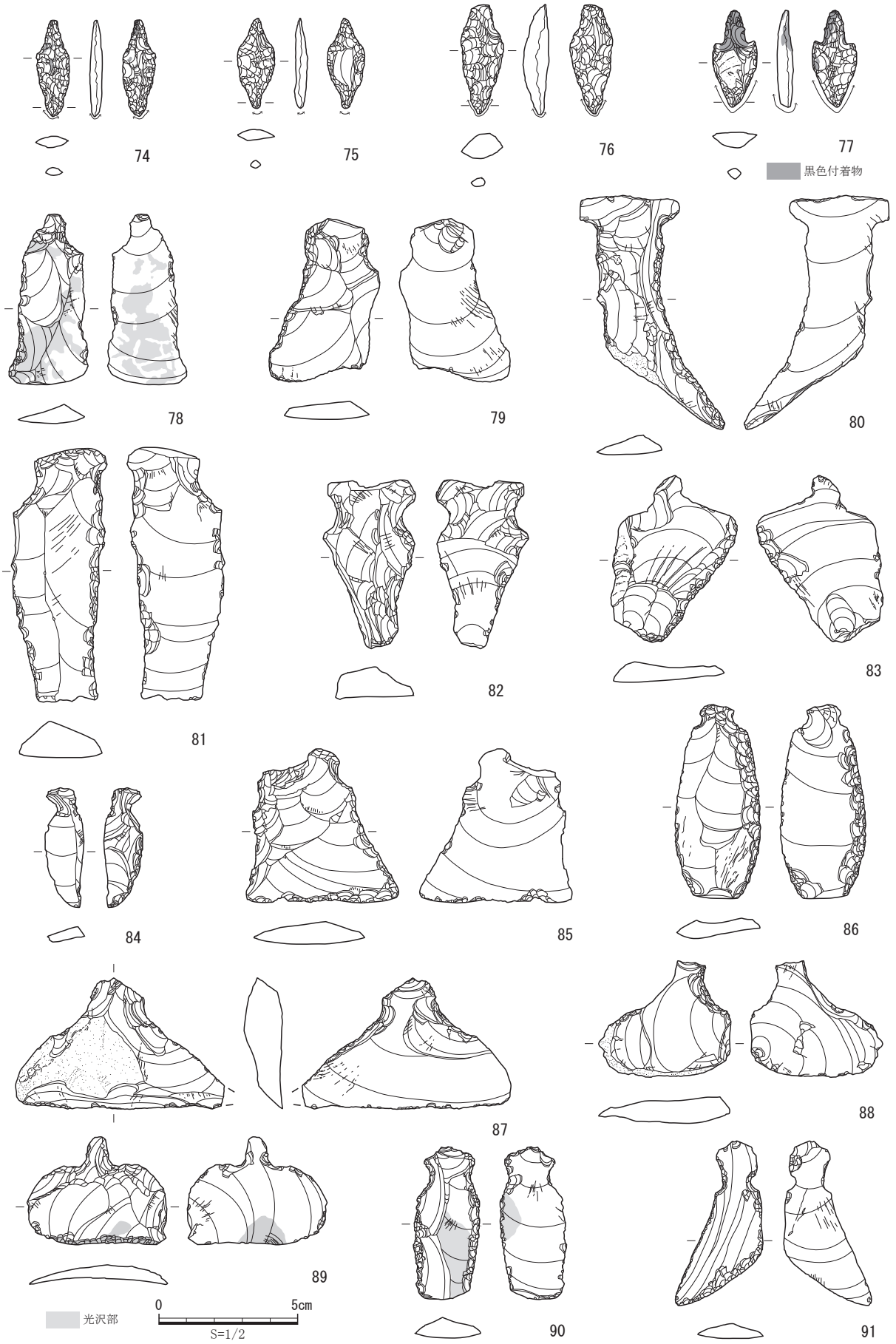
第Ⅱ－83図　遺構外出土の剥片石器（1）



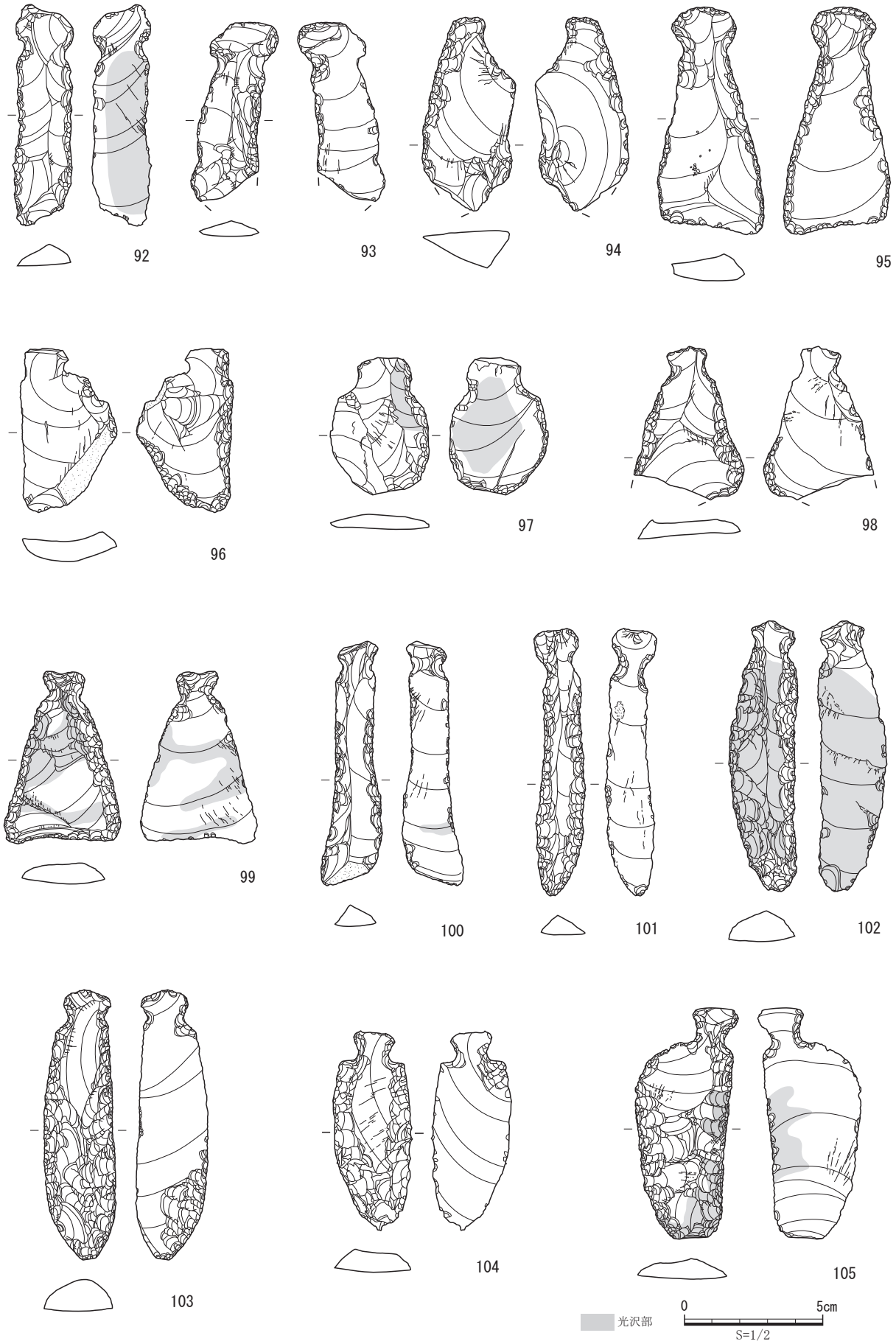
第Ⅱ－84図　遺構外出土の剥片石器（2）



第Ⅱ－85図　遺構外出土の剥片石器（3）



第Ⅱ－86図　遺構外出土の剥片石器（4）



第Ⅱ－87図　遺構外出土の剥片石器（5）

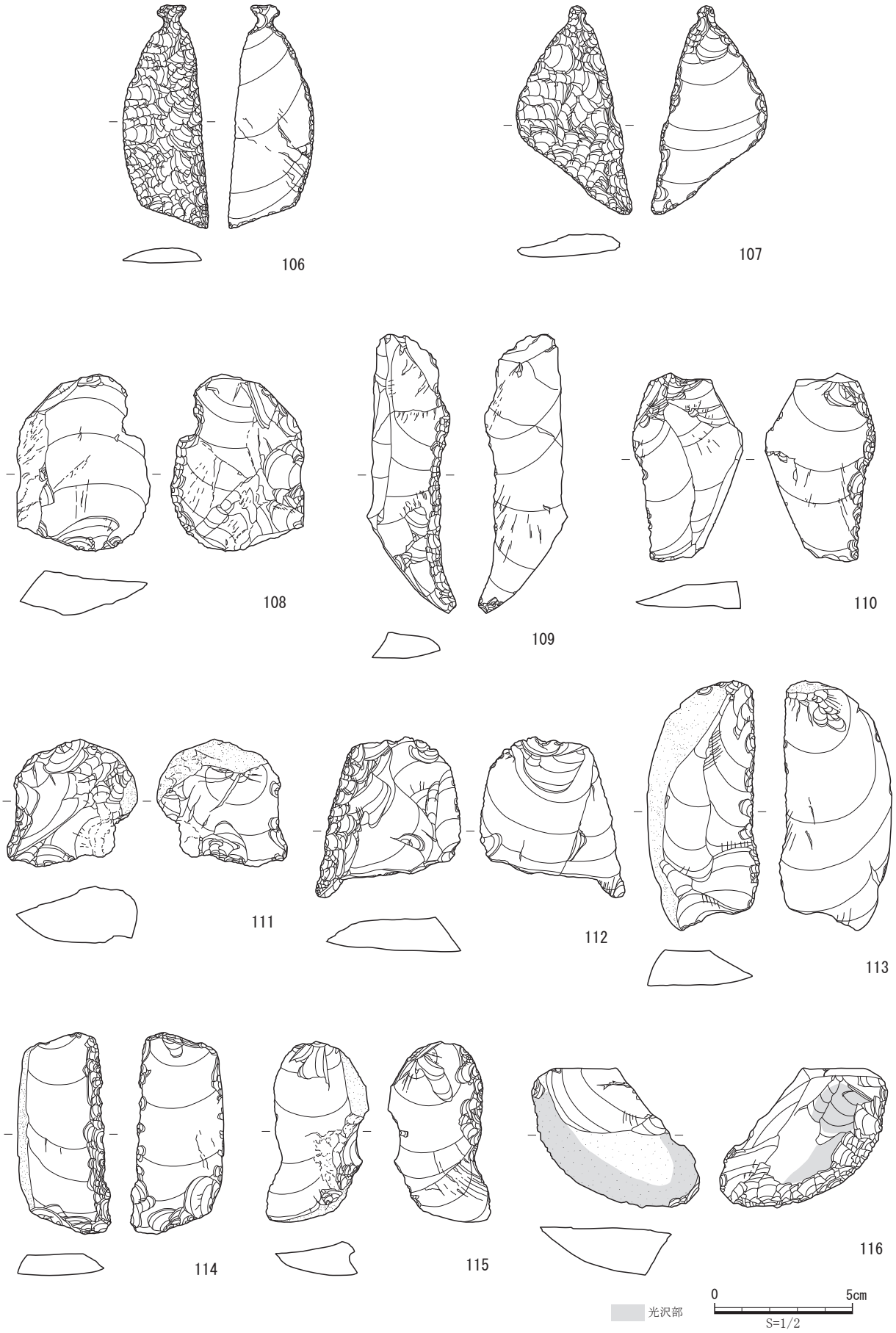
調整により整形が施されるもの。106・107 は丁寧な調整加工が背面全面に施されるもので、腹面周縁にも微細な調整が施されている。78・89・90・92・97・99・100・102・105 には光沢をもつ部分が認められる。108～144 はスクレイパー。素材となる石材は 142 が強珪化岩、他はすべて珪質頁岩である。118～121・140・141 は横長剥片を素材とするもので、他はすべて縦長剥片を素材としている。108～130 は周縁の一辺から三辺に調整加工が施されるもので、121・130・131・133 は両面、他はすべて片面加工によるものである。131～142 は全周縁に調整加工が施されるもので、137・138・141・142 は一部両面に調整が施される。143・144 は背面全面に調整加工が施されるもので、腹面周縁の一部にもやや粗い加工が施されている。130 は黒色付着物、116・119・121・125・129・133～138・140 には光沢をもつ部分が認められる。145～154 は箆状石器。素材となる石材は、すべて珪質頁岩である。145・146 は短冊状を呈するもので、いずれも刃部は凸弧状に作出される。146 は基部の調整がやや粗い。147～151・153・154 は撥状を呈するもの。刃部は 148・149 が直線状、他はすべて凸弧状に作出される。152 は左右非対称で刃部の幅は広く凸弧状に作出されるもの。148・154 は腹面、150～153 は背腹両面に素材面が残る。153・154 は調整加工が粗く、未製品と考えられる。155～157 は粗工調整品。石質はいずれも珪質頁岩である。155 は主に背面、156・157 は背腹両面に粗い加工が施される。157 は背面に比熱による剥離がみられる。158～162 は石核。いずれも石質は珪質頁岩で礫皮を残している。剥離の規則性はみられない。（三上）

(3) 礫石器（第Ⅱ－95～109 図、写真図版 59～67）

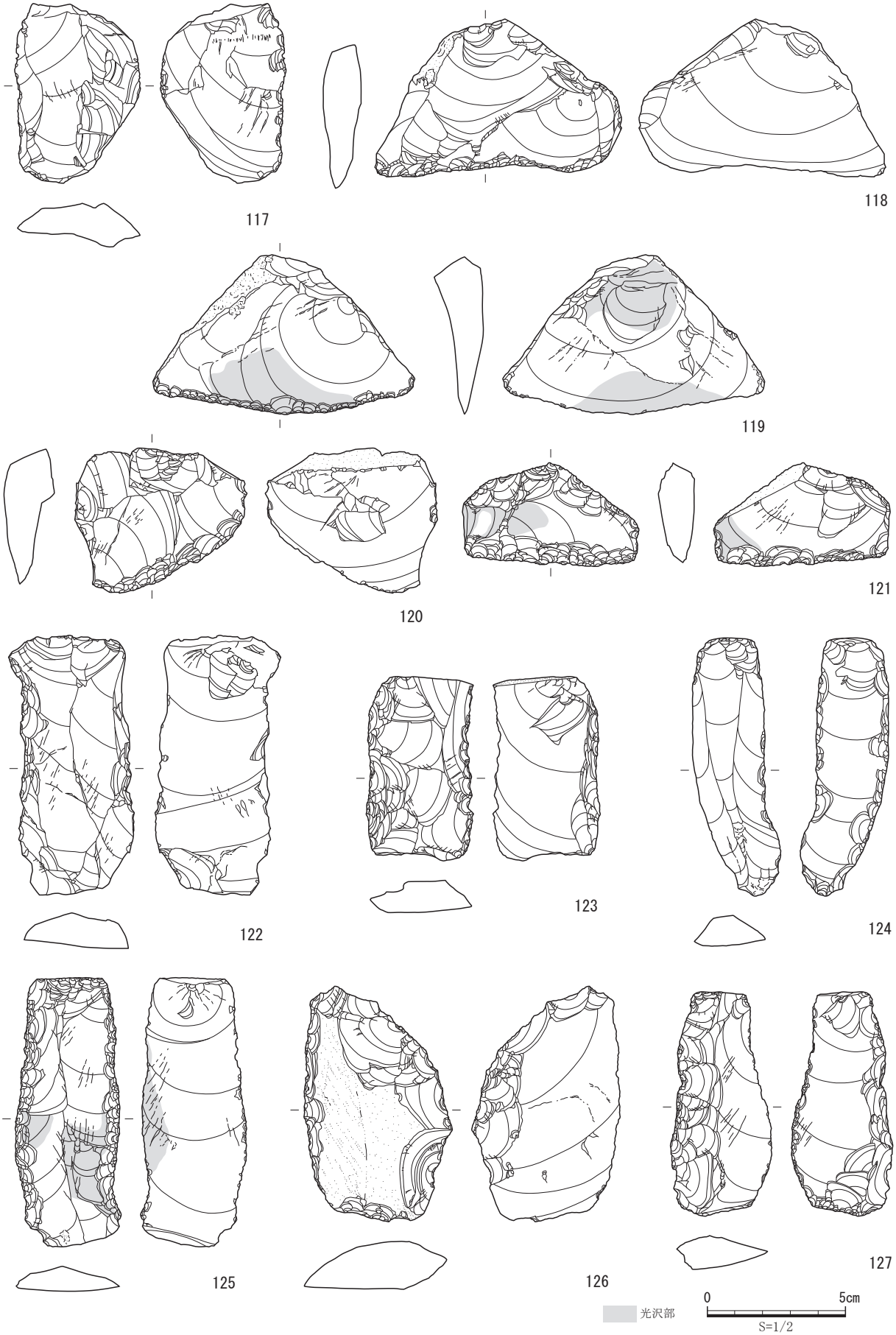
１～15 は石斧類。全て磨製石斧で、長さ 10 ㎝前後の比較的小型のものが多い。１～３・６・９は両刃。２・５・７は片刃である。２・８・９～11 の断面は扁平で薄く、ほかはやや厚みがある。１は敲打による整形痕が残る。10 は自然礫の一端を研磨し刃部を作出している。11 は側縁に擦切痕が確認される。１・９～14 は刃部に潰れや使用によると思われる剥離がみられる。また 14 は破損した刃部を再加工している。16・17 は石ノミ。どちらも扁平な自然礫に刃部を作出したもの。石質は、１～３・５～７・13・14 はアオトラ、４は砂質片岩、８・９・11・15 は藍閃石片岩、10 は変形砂岩、12 はドレライト、16 は黒色片岩、17 は珪質頁岩。出土層位はすべてⅢ層。

18～115 は敲磨器類。18～35・52・56・61・62 は擦石。自然礫の稜や側縁をそのまま使用しているもの、楕円形礫の長軸一端あるいは両端を打ち欠き、その長軸の一辺あるいは二辺を使用したものなどがある。18 は断面三角形の自然礫の二稜に幅２㎝ほどの使用面をもつもの。19・20・22～26・52 は、扁平な自然礫の一側縁に使用痕がみられるもの。使用面は、幅２㎝以下で狭長である。27～35・56・61・62 は扁平な自然礫を用い、長軸の両端にあるいは一端に抉りを作出したもの。使用面は、幅２㎝以下の狭長なもの（27～29・31・32～35）が主体で、幅２㎝を超えるのもの（30・32）は僅かで、幅３㎝を超えるものはみられない。また刃部状に打ち欠かれ、擦面がみられないものも認められる（20・22・25・61・62）。36～51・53～55・57～60・63・64 は扁平打製石器で、自然礫の周縁を打ち欠きにより半円状もしくは長方形に整形したもの。使用面は幅１㎝前後のものが多く、擦面の無いものも認められる（42・44・46・49・51）。擦石及び扁平打製石器のなかに特徴的な抉りをもつものがあり、総括にて若干記したいと思う。これら擦石と扁平打製石器の石質は、18 輝石安山岩、19・27・31・35・46・47 が変形砂岩、20・22～26・28・29・32・34・36～41・45・48～51・53・54・56～64 は流紋岩、21 は凝灰質砂岩、30・43・44・55 はドレライト、33 は変はんれい岩、42 は凝灰岩、52 は角閃石安山岩。出土層位は 21・52・61（撹乱）を除きⅢ層。22・37・40・45・58・64 には被熱痕があり、特に 40 の被熱は著しい。

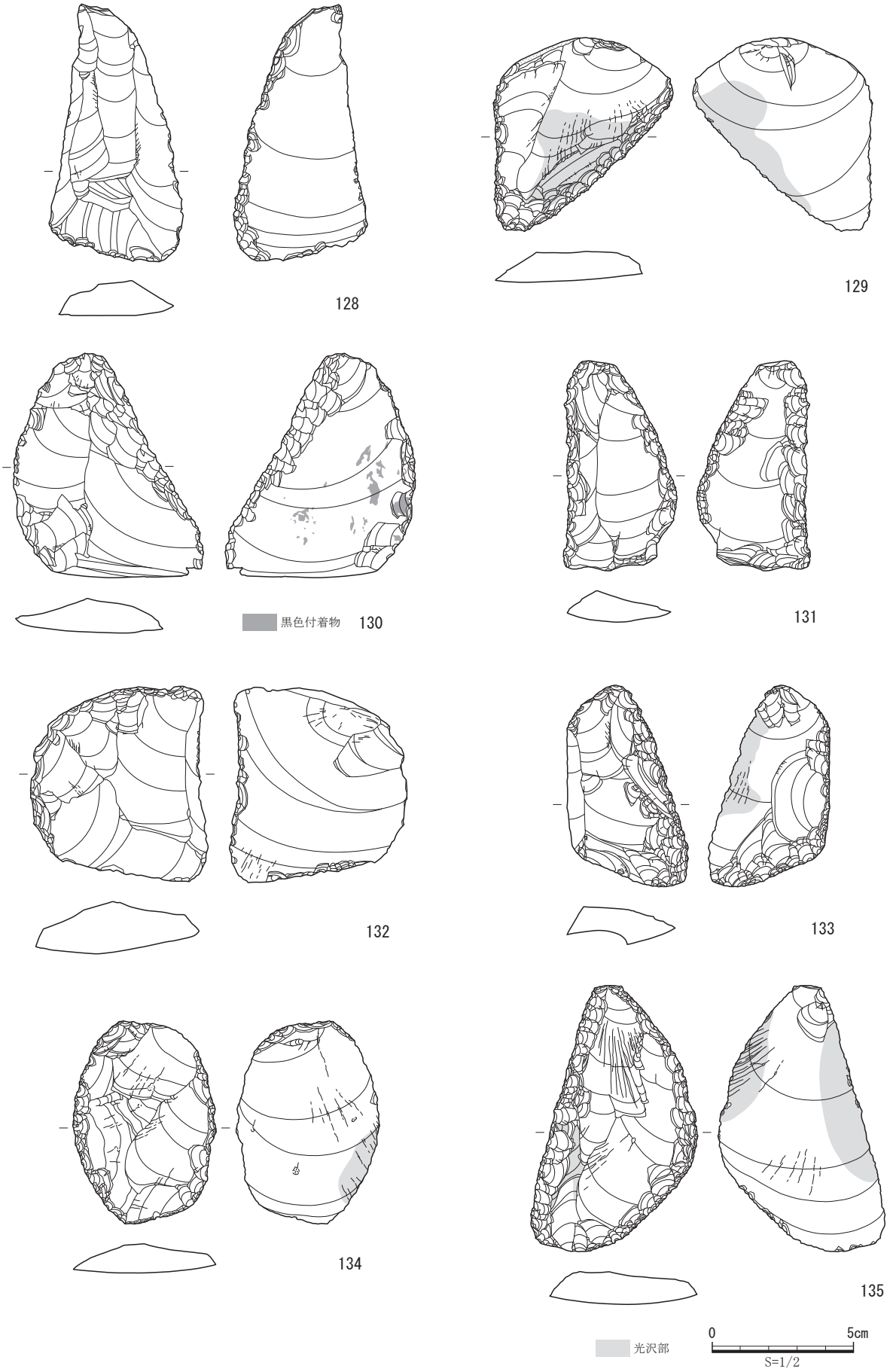
65～91 は北海道式石冠。自然礫を半割し、敲打により握部を作出するもの、全面が敲打され礫皮面を残さないものもある。擦面の幅は５㎝前後のものが多く、擦石や扁平打製石器よりも広い。65・66 は、頭部に近い側に横位の溝が巡るもの。この２点以外は胴部のほぼ中央に溝が巡る。67～74 は、使用面の断面が比較的フラットなもの。75～91 の使用面は凸状で、片減りの傾向がみられ、76・77・79・86 は顕



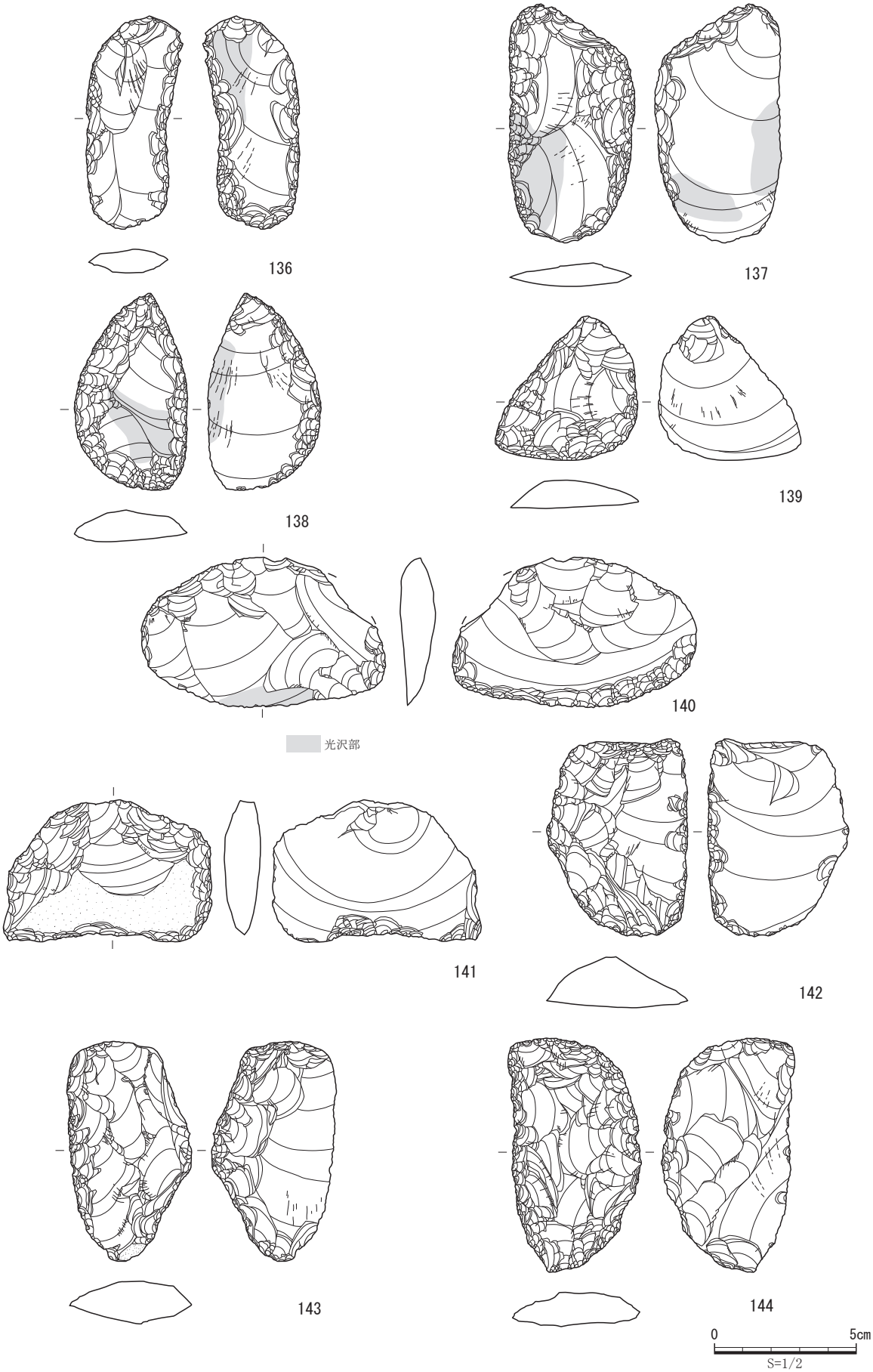
第Ⅱ－88図　遺構外出土の剥片石器（6）



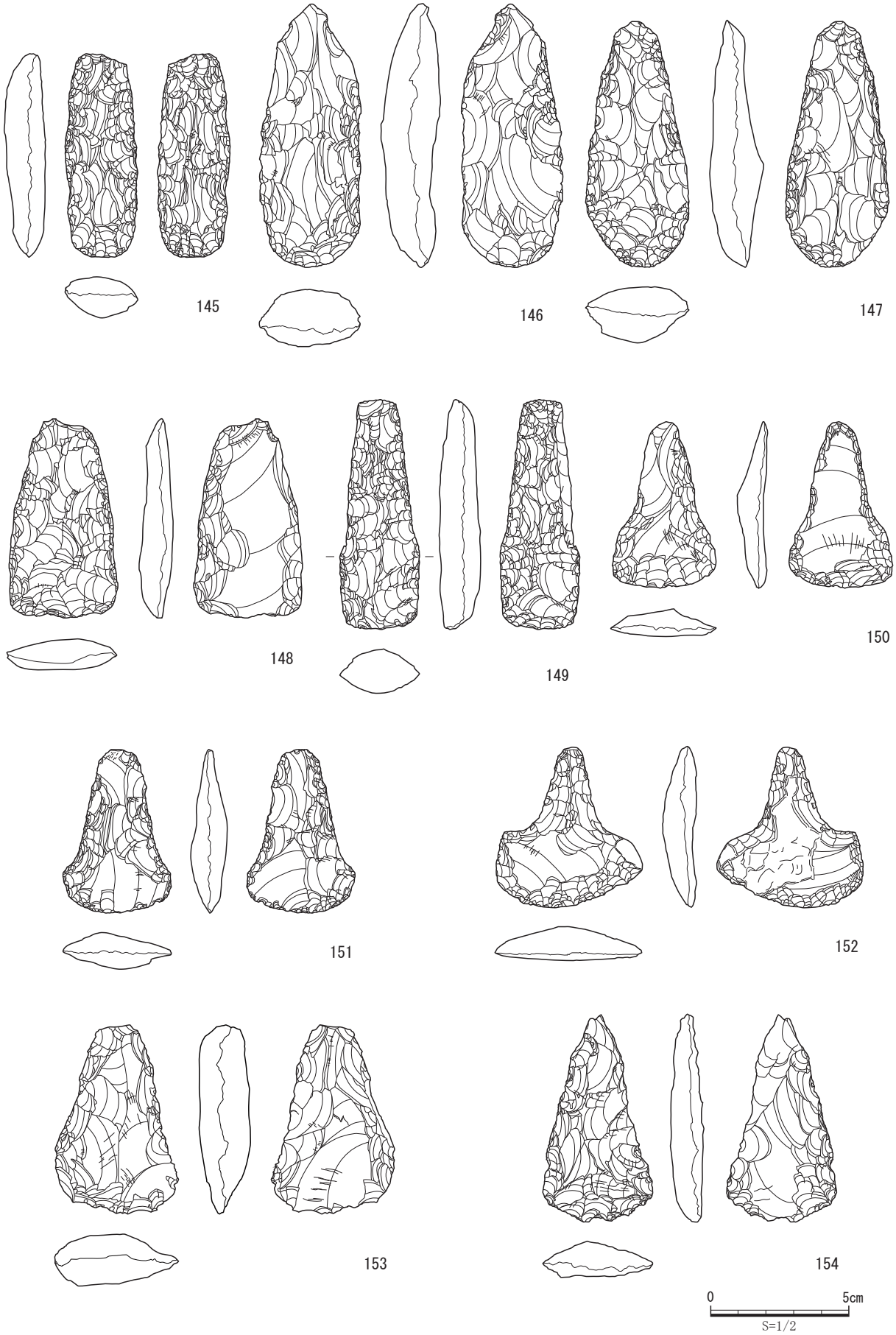
第Ⅱ－89図　遺構外出土の剥片石器（7）



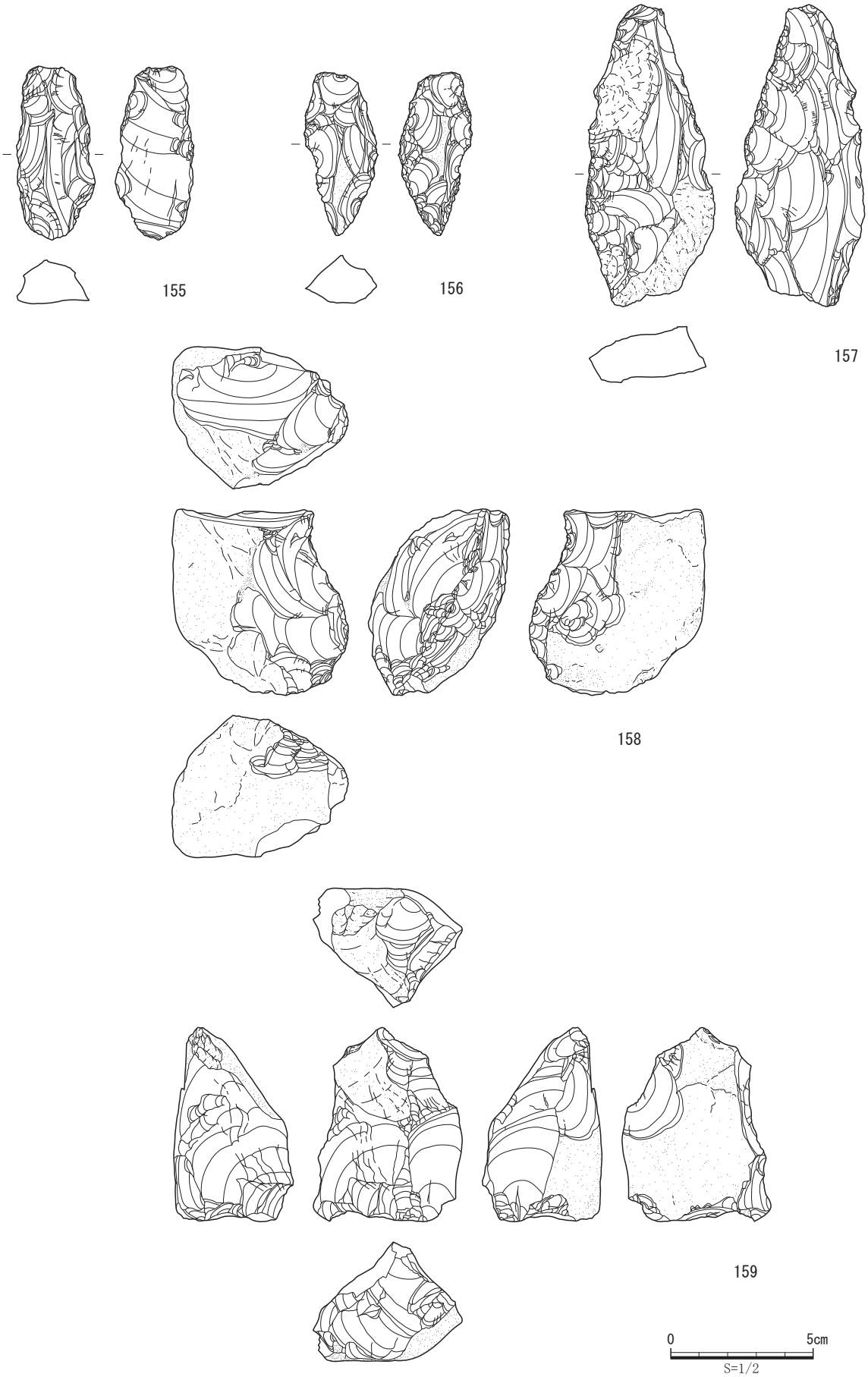
第Ⅱ－90図　遺構外出土の剥片石器（8）



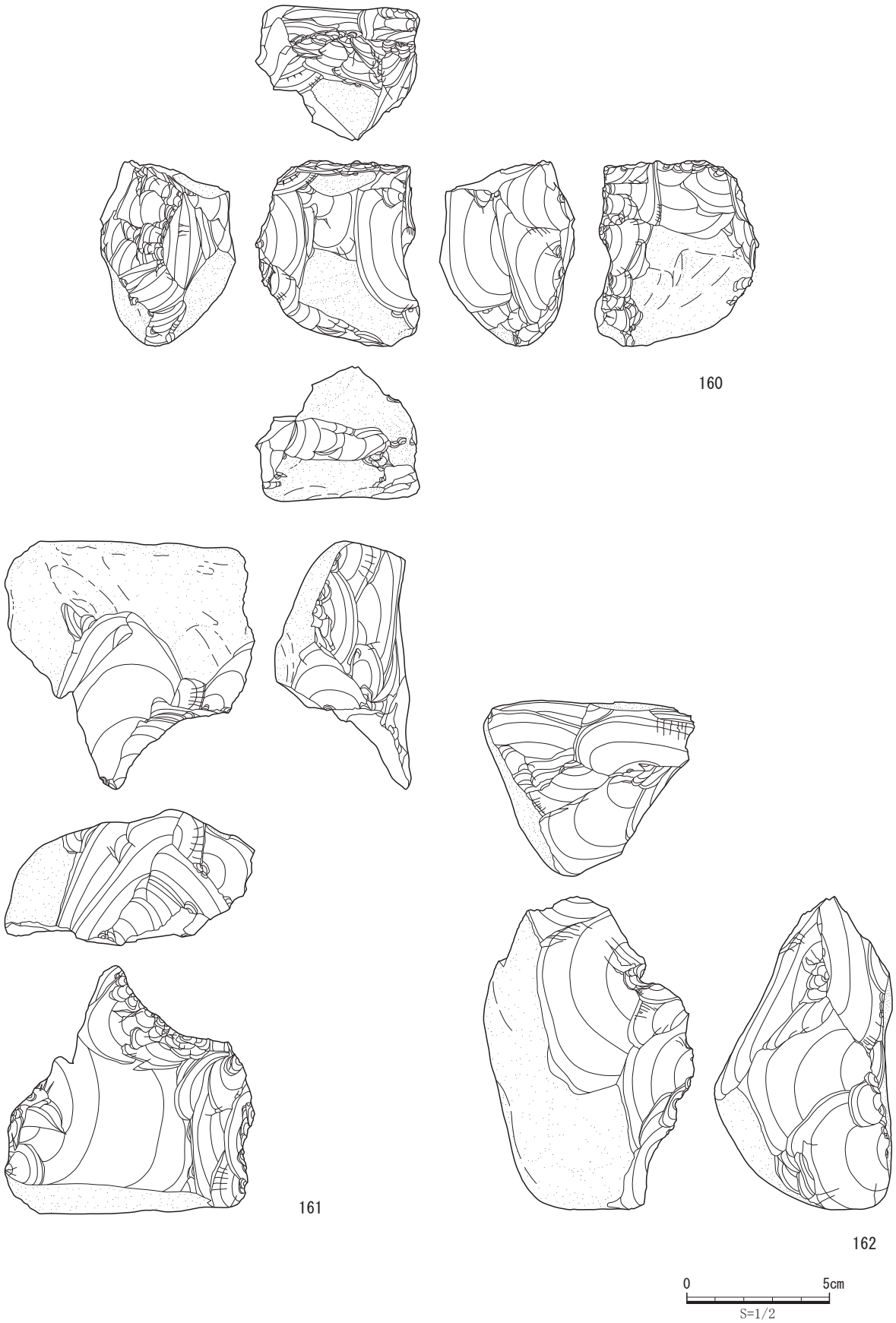
第Ⅱ－91図　遺構外出土の剥片石器（9）



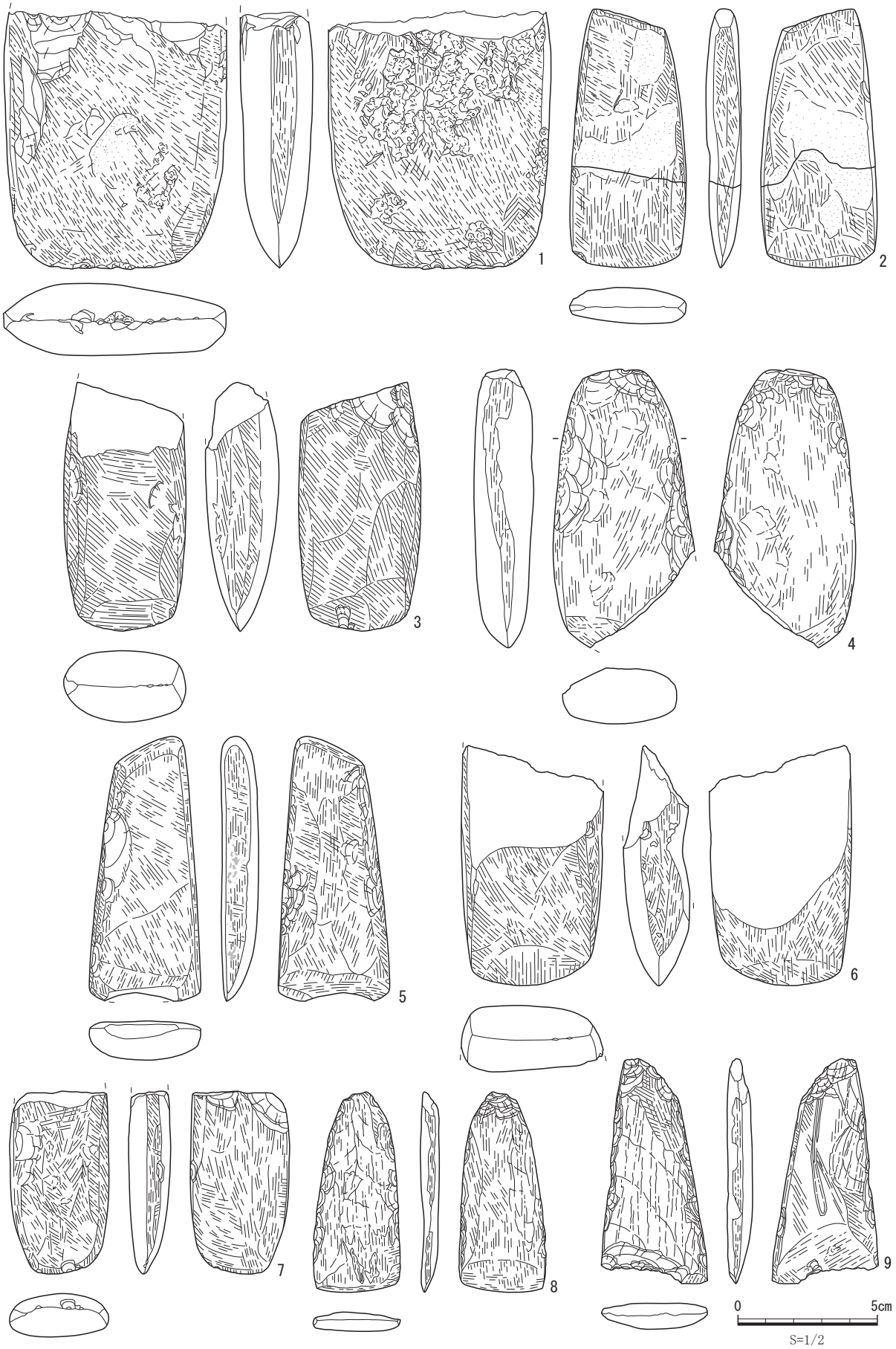
第Ⅱ－92図　遺構外出土の剥片石器（10）



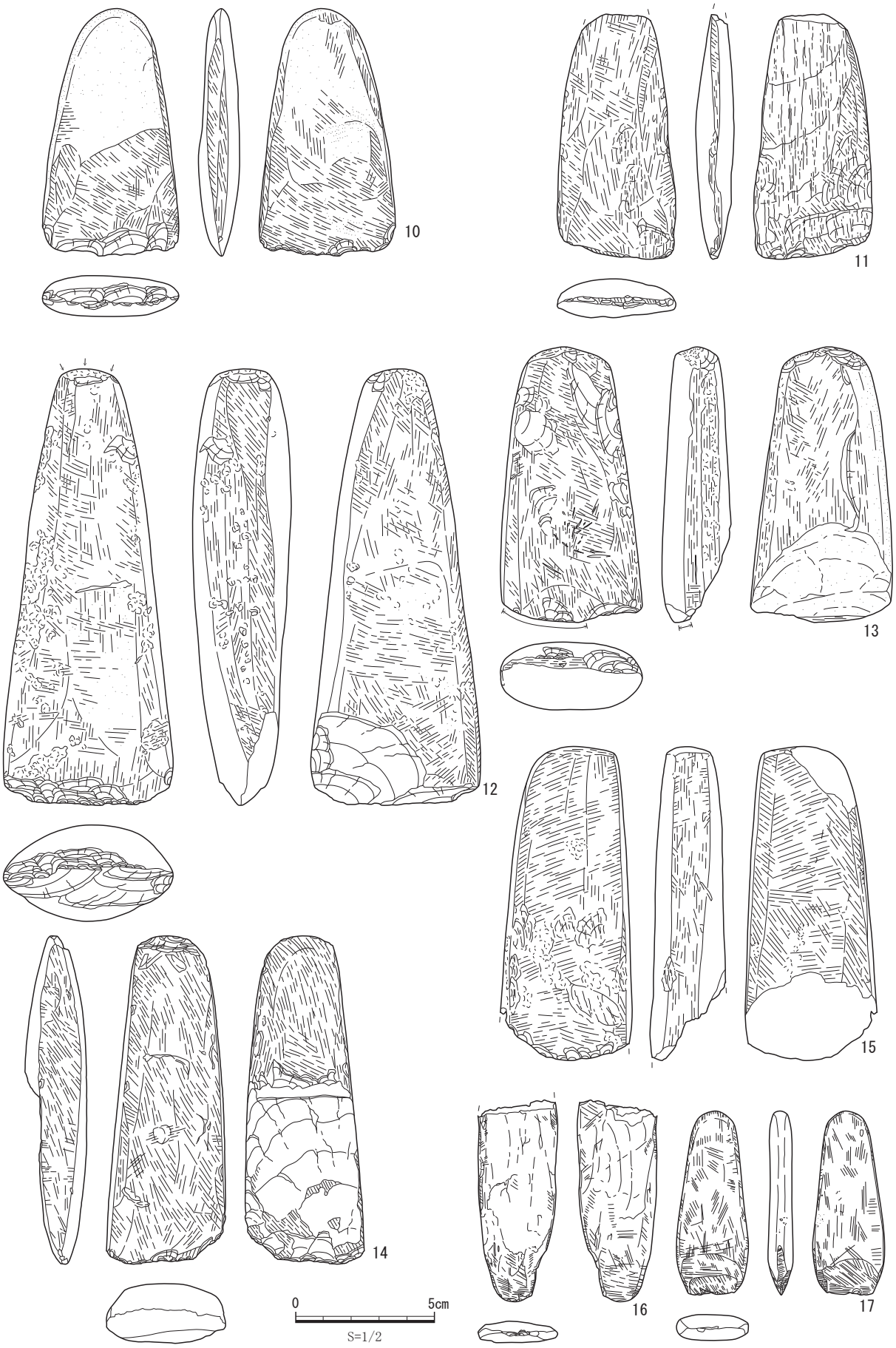
第Ⅱ－93図　遺構外出土の剥片石器（11）



第Ⅱ－94図　遺構外出土の剥片石器（12）

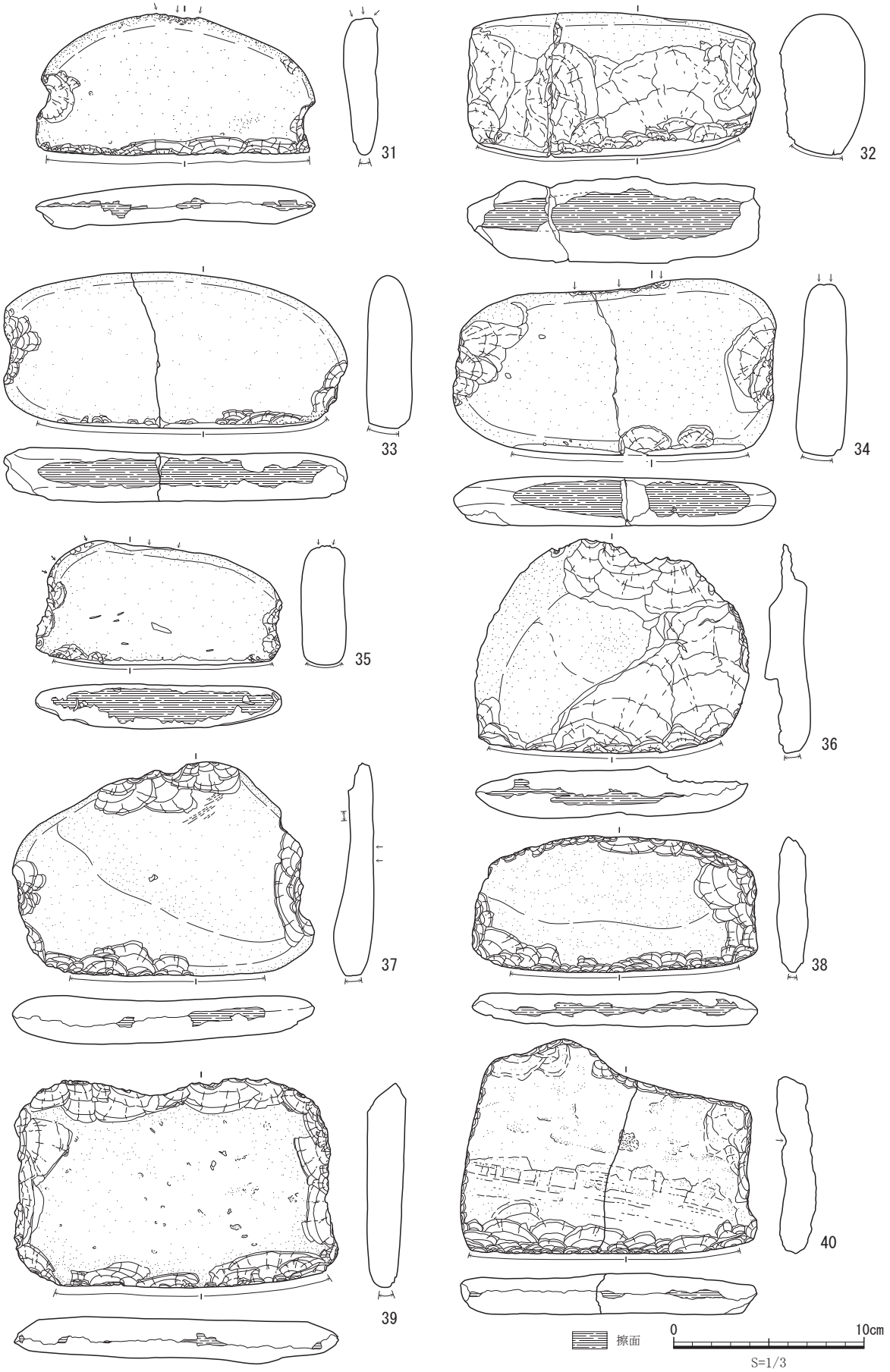


第Ⅱ－95図　遺構外出土の礫石器（1）



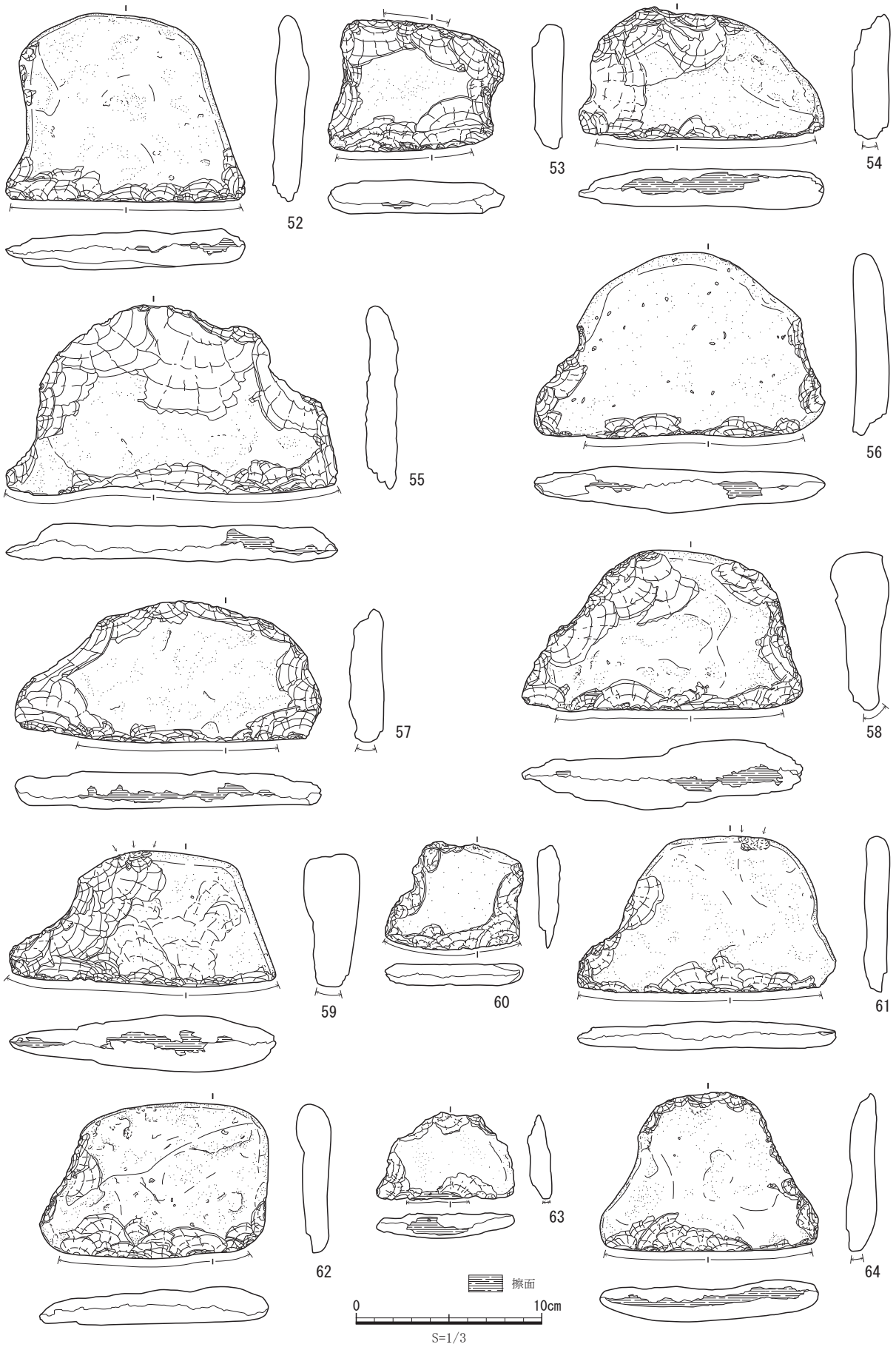
第Ⅱ－96 図　遺構外出土の礫石器 (2)

第Ⅱ－97図　遺構外出土の礫石器 (3)



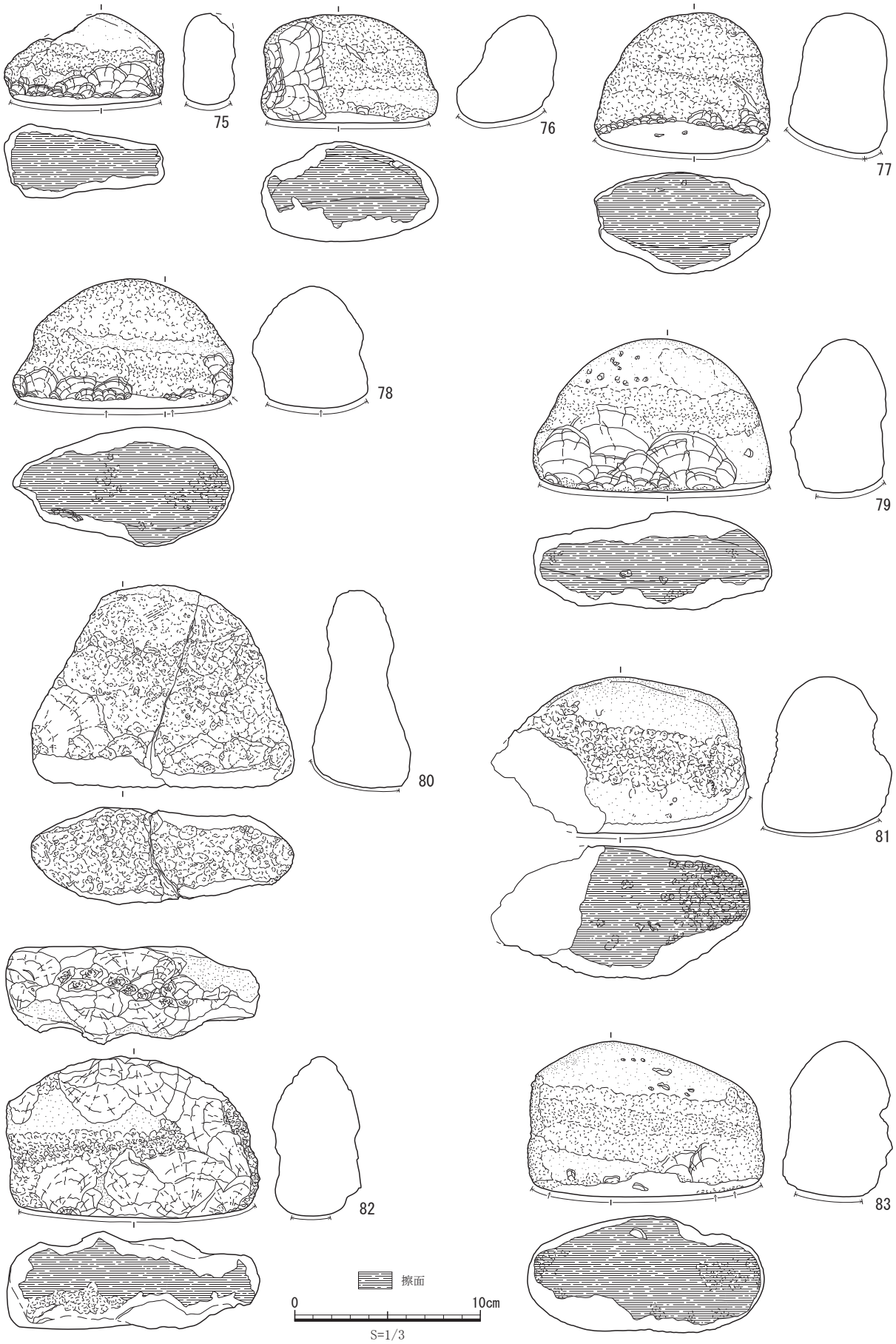
第Ⅱ－98 図　遺構外出土の礫石器 (4)

第Ⅱ－99 図　遺構外出土の礫石器 (5)

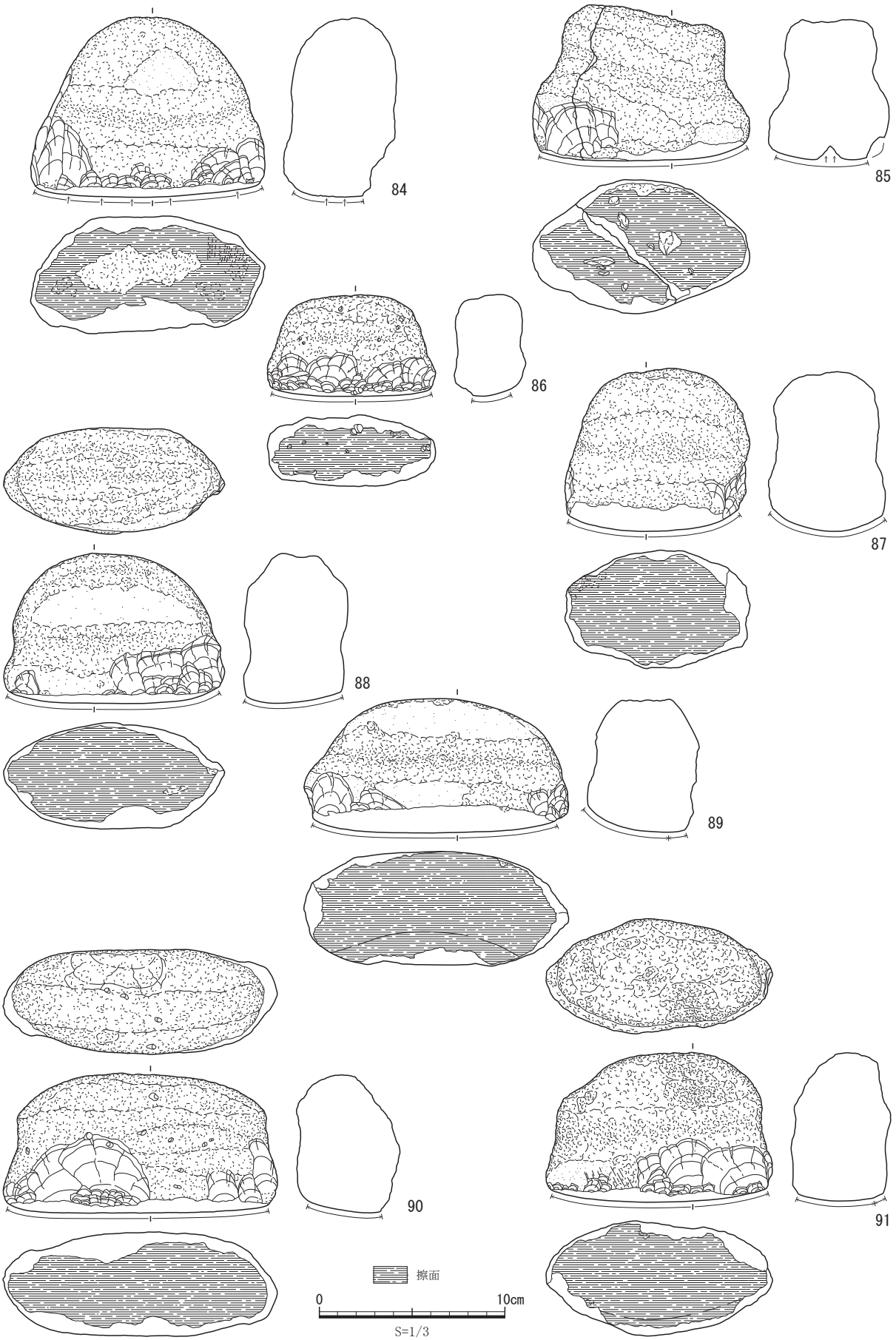


第Ⅱ－100 図　遺構外出土の礫石器 (6)

第Ⅱ－101 図　遺構外出土の礫石器 (7)



第Ⅱ－102図　遺構外出土の礫石器 (8)



第Ⅱ－103 図　遺構外出土の礫石器 (9)

著である。73 は半割礫の胴部にのみ溝がみられるもの。67・72・75・79・81・83 の頭頂部には礫皮面が残る。85・86・89 の頭頂部はほぼ平坦に敲打され、87 は頭頂部中央とその両側縁に溝が作出されている。80 は使用面に擦面がみられないことから、未成品か未使用品と思われる。これらの石質は、65・66・69・77 が輝石安山岩、67 は変形砂岩、68・71・76・78～80・82・84・86～91 はドレライト、70・73・83 はひん岩、74 は中粒砂岩、75 は泥岩、81 は粗粒砂岩。85 はデイサイト。出土層位は全てⅢ層。

92～109 は敲石。92～95・98 は、厚みのある礫に敲打痕をもつもの。複数の敲打面がみられ 98 は一端が尖る。96・99 は扁平礫の広い面に敲打痕がみられるもの。97・100 は扁平礫の縁辺に著しい使用痕がみられる。101～109 は、幅：長さ比が 1：2 を超える棒状礫もしくは扁平礫を素材としたもの。101～103 は、使用部と柄部と想定される部分があり、ハンマー的な要素を有すると推測する。104～109 は比較的重さがあるもので、長軸端部や、側縁部に主な使用痕がある。104・107・109 の広い面には敲打痕や擦痕がみられ、台石としての用途も想定される。105・107・109 は被熱痕がみられる。石質は、92 は晶洞石英、93 は泥岩、94 は石英岩、95 はチャート、96・99・100・104 は変形砂岩、97・108 は中粒砂岩、98 は凝灰岩、101・102・105・109 は流紋岩、103 は珪質頁岩、106 は粗粒砂岩、107 は角閃石安山岩。出土層位は 109 が不明、97 は表採、他は全てⅢ層。

110～113 は凹石。扁平礫の表裏に１～２ヶ所の敲打による凹みがみられる。石質は 110 が変形砂岩、111・112 は流紋岩、113 は凝灰質砂岩。出土層位は全てⅢ層。

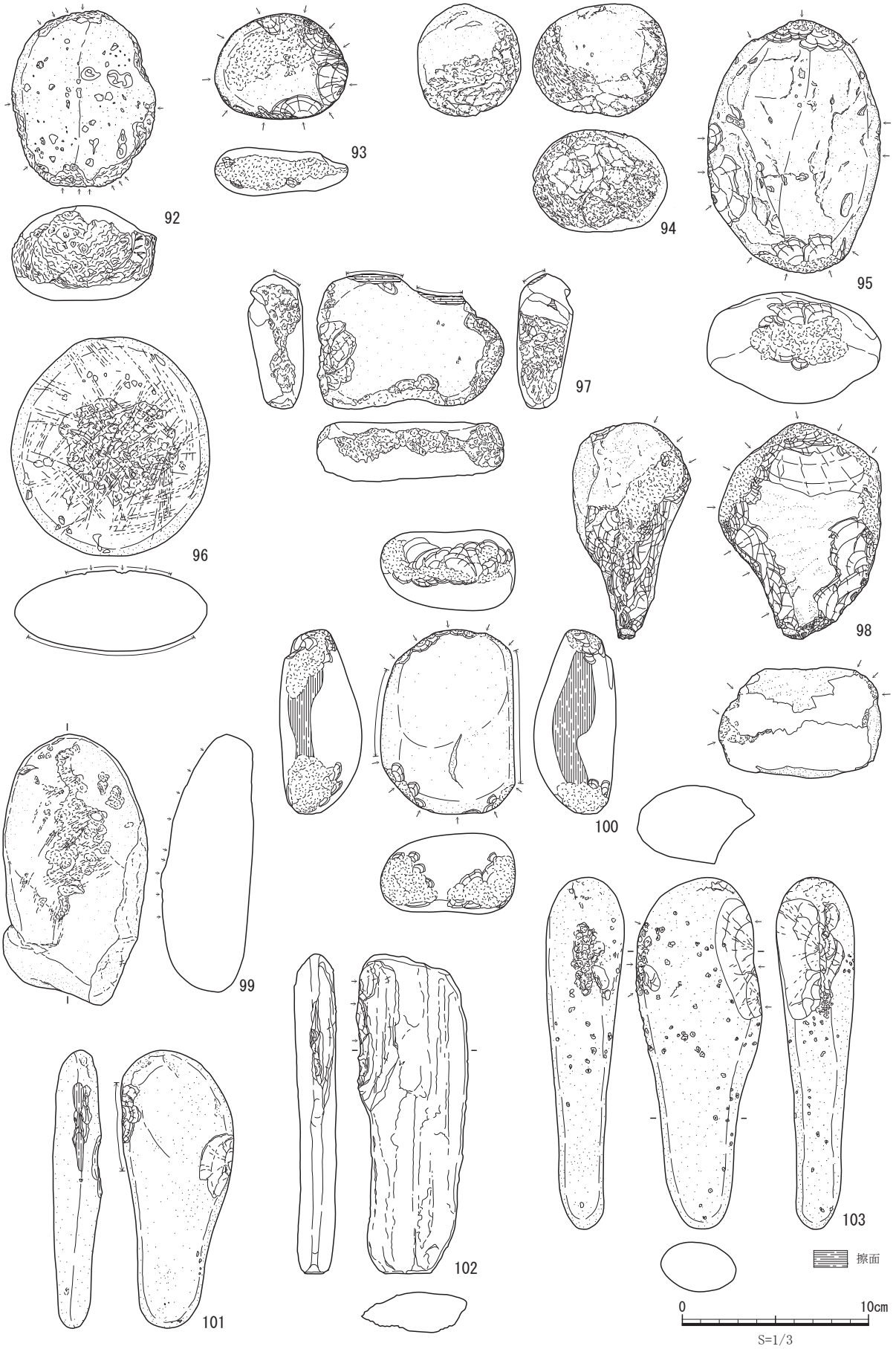
114・115 は石鋸。114 は、板状礫の一側縁に直線状の刃部がみられるもので、刃部断面形はＶ字状を呈する。115 は、薄手の自然礫を利用し、やや弧状に張り出す刃部を三辺にもつ。刃部断面形は、Ｕ字状である。石質は 114 が流紋岩。115 は凝灰質砂岩。出土層位はいずれもⅢ層。

116～122 は、扁平礫の長軸両端に打ち欠きがみられる石錘。117 は短軸にも打ち欠きがあり、短軸両側縁には擦痕も認められる。118・122 は短軸両側縁に敲打痕がみられるもので、122 は一面にもみられる。使用痕なのかは不明。118・120・122 は長軸 15 ㎝ほどの大型の石錘。形態的には長軸両端に打ち欠きをもつ擦石に似るが、側縁に使用面がみられないことから、石錘と判断した。120 には、炭化物と思われる付着物が認められる。石質は 116・119～122 は変形砂岩、117 は流紋岩、118 はドレライト。出土層位はいずれもⅢ層。

123～133 は石皿類。123～127 は石皿。123 は、1.7㎝～2.0㎝ の深さがある皿状のもので、平面形は隅丸長方形を呈する。内面は敲打により整形され、外面は底面を研磨するほかは原礫面を残す。礫面の残り方から、隅丸長方形に整形されたのではなく、素材礫の形状をそのまま利用していると推察される。124 は、皿状に凹んだ著しく滑沢な使用痕が表裏面にみられるもの。大きく欠損しているが、使用痕は破断面にも及んでいる。125 は、破片３点が接合したもので、うち１点の出土位置は 10ｍほど離れている。石皿の中央部は最深部で 1.0 ㎝ほど浅い皿状に窪み、滑沢な使用痕がみられる。126 は、厚さ約８㎝の板状で一面全体に擦痕や疎らな敲打痕が認められる。ごく浅い皿状の凹みも２ヵ所みられる。裏面にも狭い範囲で擦痕が確認される。127 は、厚さ 10 ㎝ほどの平板な礫の一面が使用された石皿である。使用部の凹みは最深で 1.2㎝ を計る。擦痕は全面に及び、一縁側に敲打痕の集中や連続した剥離がみられる。石質は 123・125 がデイサイト、124・126 が石英安山岩、127 が輝石安山岩。出土層位はいずれもⅢ層。

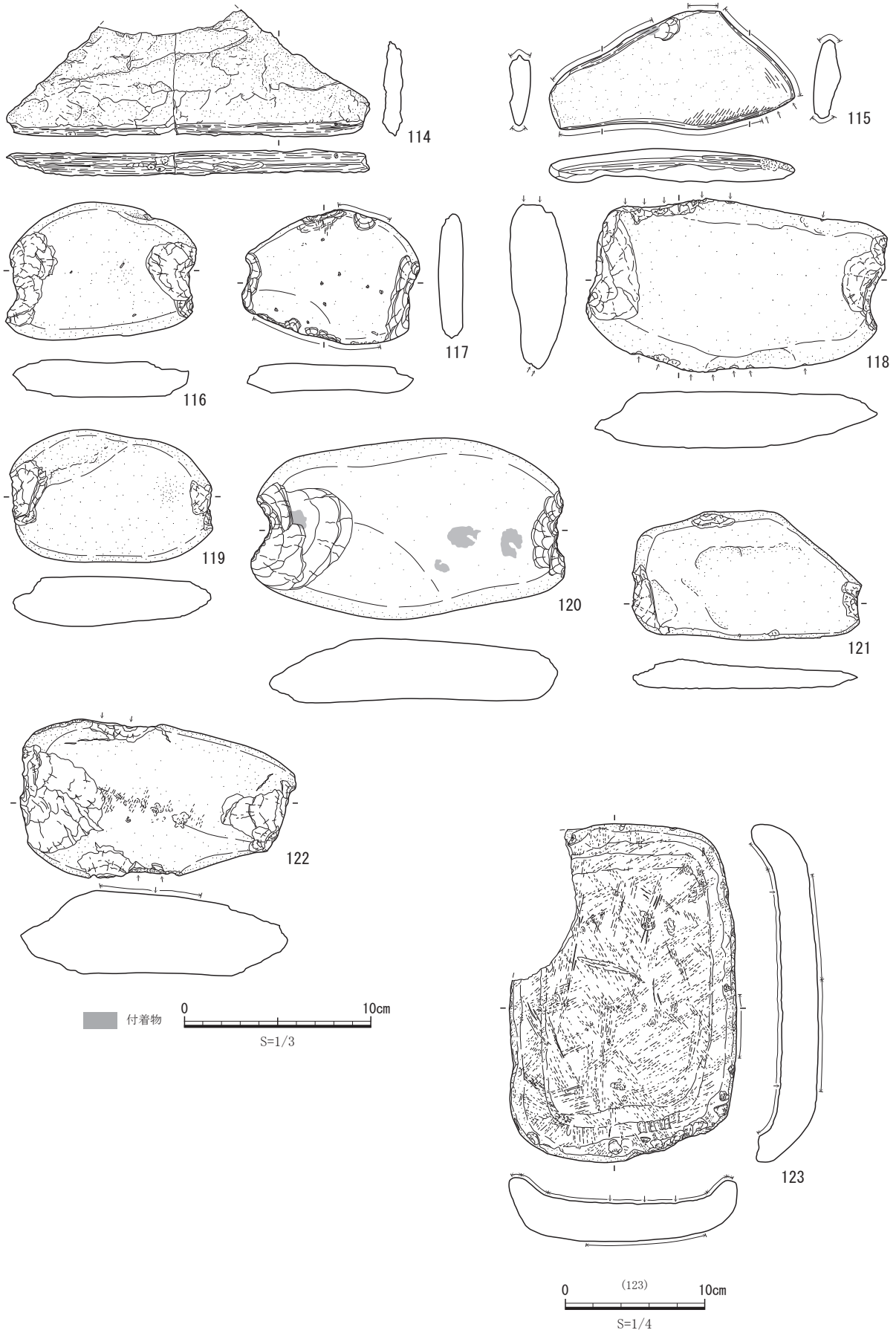
128・129 は台石。共に一部欠損しているが、厚さ約 10 ㎝の平面円形もしくは楕円形の礫を素材としている。使用面には、擦痕や敲打痕が認められ、裏面にも若干の使用痕が認められる。石質は 128 が輝石安山岩、129 がデイサイト。出土層位はいずれもⅢ層。

130～133 は砥石。130 は厚さ３㎝ほどの扁平礫を用い、使用により中央にごく浅い凹みがみられる。131 は平面が三角形状、薄手で小型の砥石。断面が半円状の浅い溝が２条並列して認められる。軽く脆い素材である。132 は手の平に収まるほどの楕円形で扁平なもの。中央の実線で囲った部分は、光沢のある滑沢な使用痕範囲である。両側縁の一部に、狭い帯状の擦痕がみられる。133 は、平面長方形で板状の砥

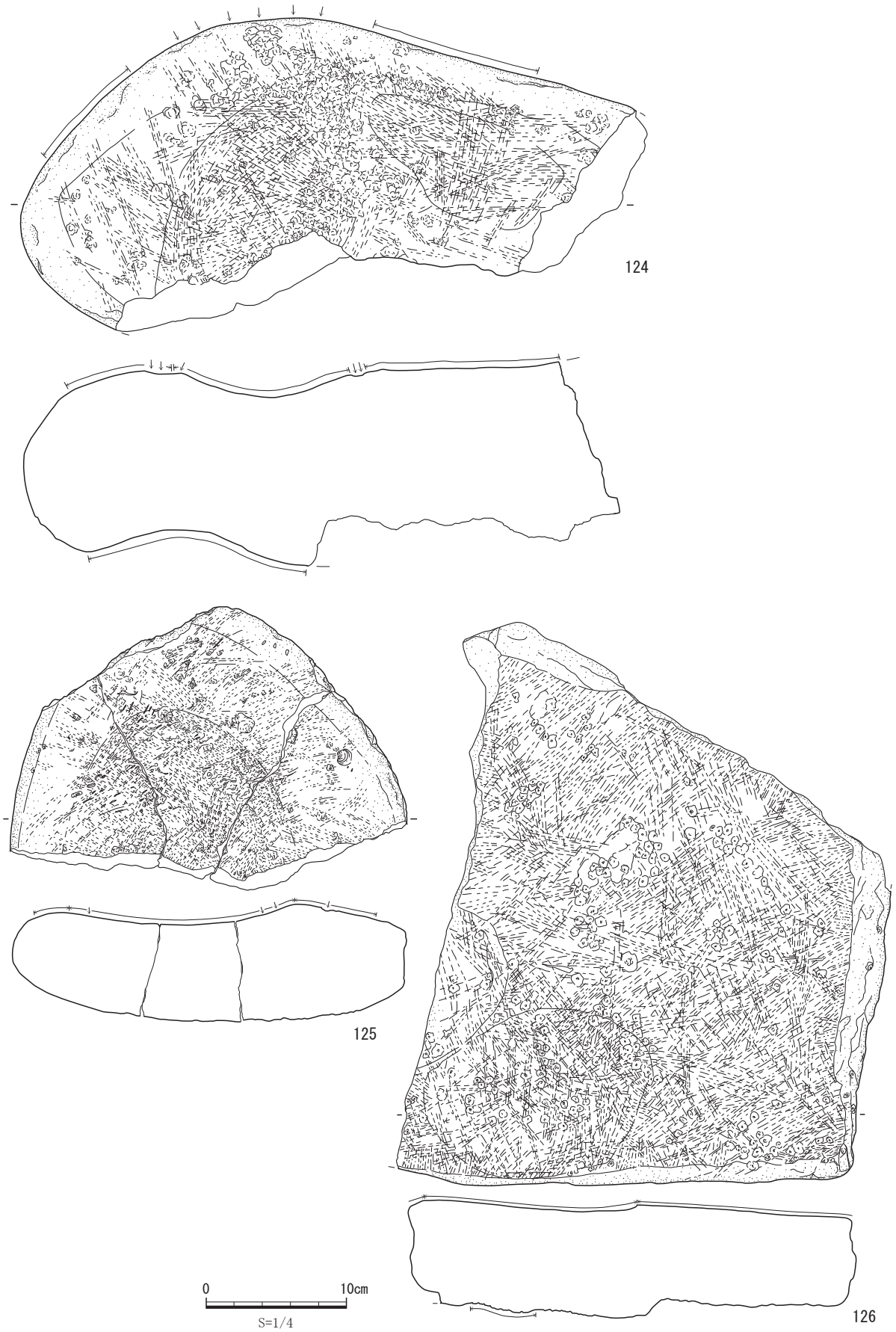


第Ⅱ－104図　遺構外出土の礫石器（10）

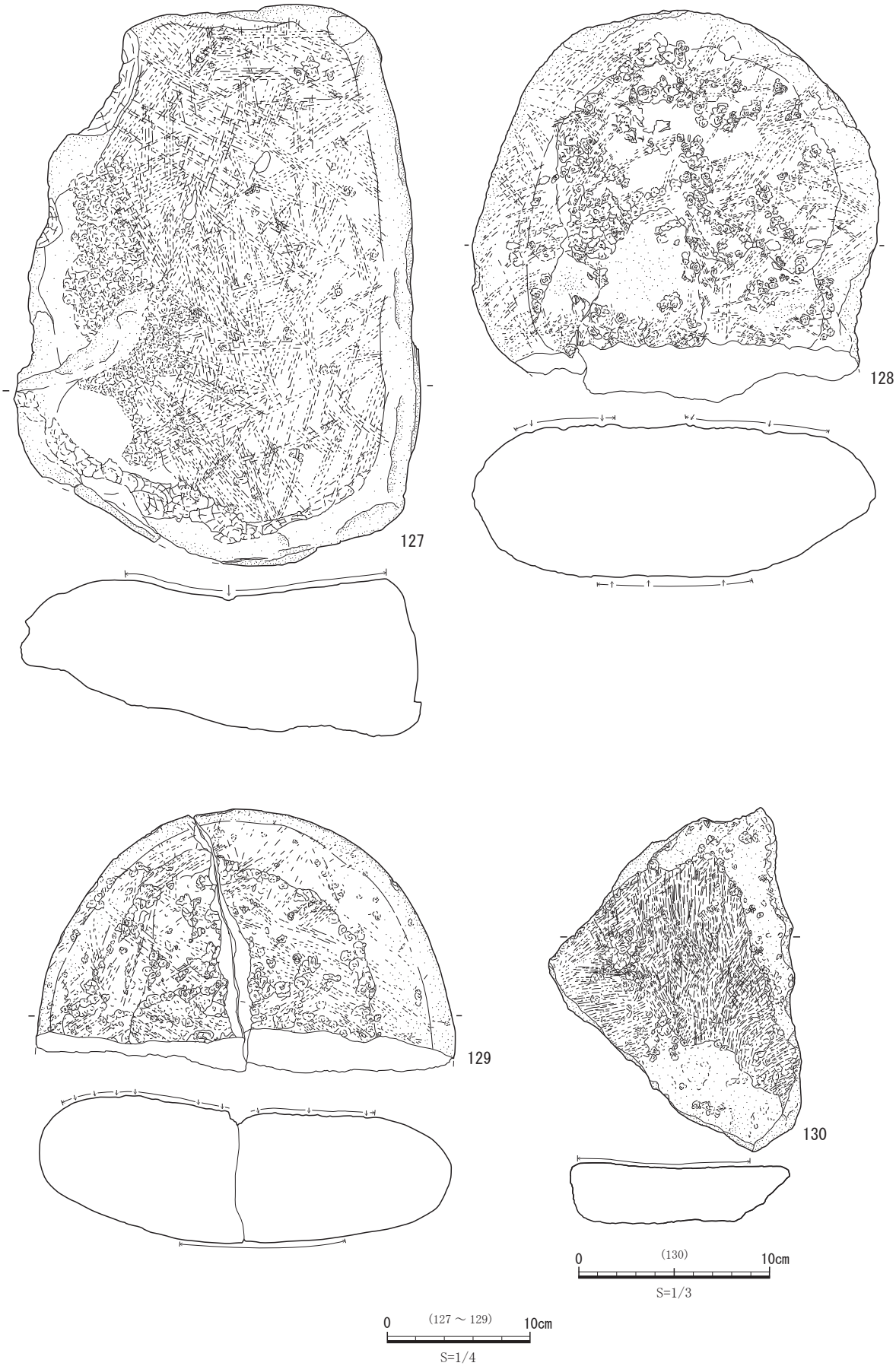
第Ⅱ－105図　遺構外出土の礫石器（11）



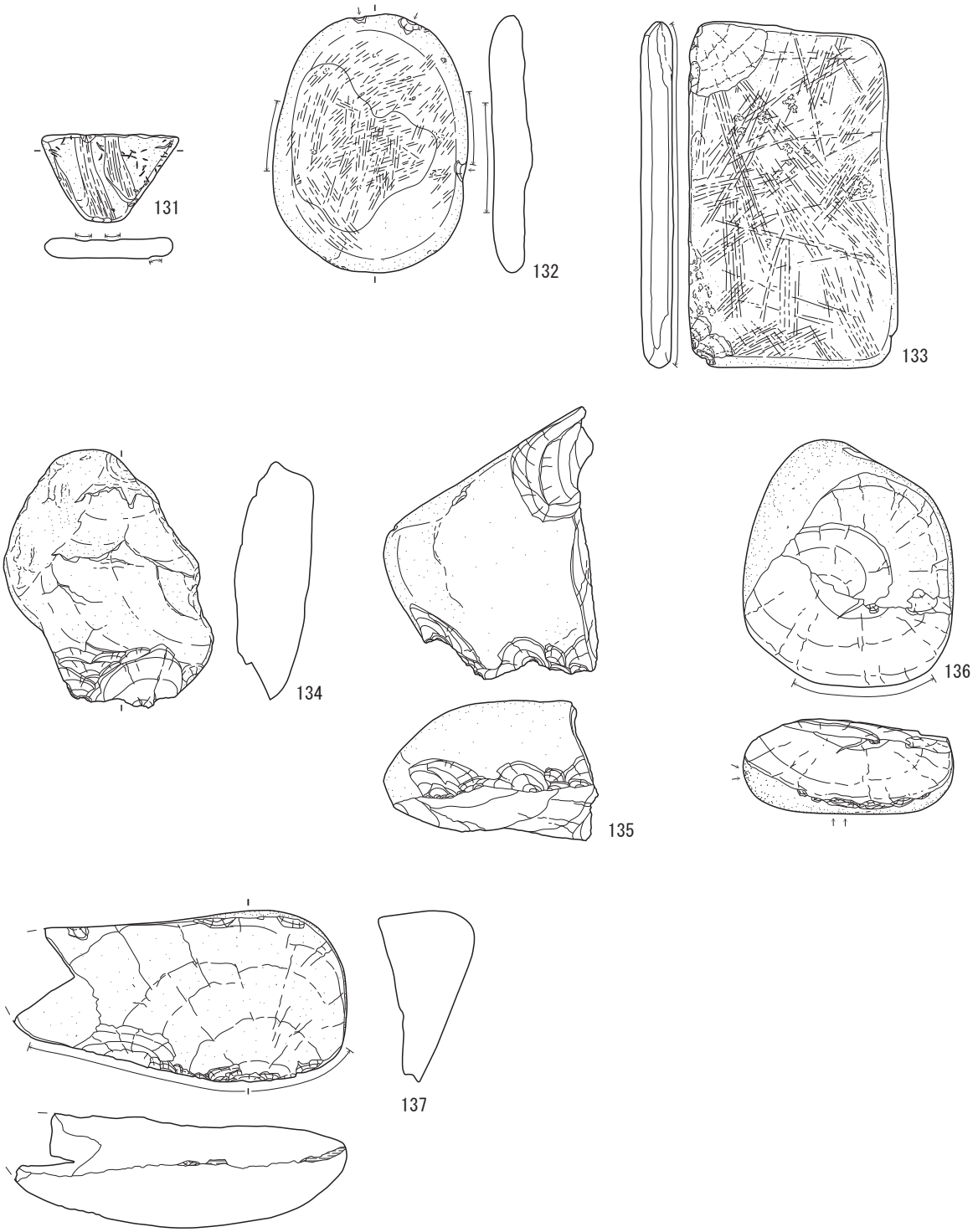
第Ⅱ－106 図　遺構外出土の礫石器 (12)



第Ⅱ－107 図　遺構外出土の礫石器 (13)



第Ⅱ－108 図　遺構外出土の礫石器 (14)



第Ⅱ－109 図　遺構外出土の礫石器 (15)

石。脆い石質の為、整形痕・使用痕の判別が難しいが、中央に若干の凹みが認められる。石質は 130 が粗粒砂岩、131・133 は珪藻質泥岩、132 が変形砂岩。出土層位は 130・131・133 がⅢ層、132 は撹乱。

134・135 は加工痕のある礫。134 はやや厚みのある扁平礫の長軸先端部に、片面から複数回の打ち欠きがみられるもの。135 は、大きく打ち欠いた礫片の一側縁に連続した剥離を施し、刃部状を呈する。石質はいずれも変形砂岩。出土層位はⅢ層。

136・137 は使用痕のある礫。これらは割れた面がやや風化していることから、整形等を加えず使用したものと考えられる。刃部状の側縁には、擦りや敲打の痕跡が残る。石質はいずれも変形砂岩。出土層位はⅢ層。（山田）

(4) 土製品（第Ⅱ－110～112 図、写真図版 67～69）

１～７は土偶。１～４は板状土偶。１は本遺跡出土品では最も大きなもので、頭部・両腕部・脚部を欠損する。やや内よりの乳房状突起と、体部中央に正中線様の垂下隆帯・臍状突起が貼付される。器面には躯体縁辺に沿って縄線文による装飾がなされ、両肩上－腋下間に貫通孔が穿たれている。２は半完形、小型の板状土偶。乳房状突起が貼付され、臍部にも貼付の剥落痕が遺る。頭部・右腕・脚部先端を欠損する。３・４は板状土偶の脚部片で、いずれも端部を爪先・踵状に作出している。これらの例と残存部から勘案して、２においても脚部先端は同様に作出されていたものと推定される。4 は正中線様の垂下沈線が器面に遺る。5 は手捏により成形された土偶。十字形の躯体は板状土偶のそれに近似する。両腕部尖端より水平に孔が穿たれているが細く貫通はしていない。6 は極小の土偶。全高全幅ともに 2.5cm 前後。菱形に近い十字形を呈し、両腕部尖端同士を繋ぐ貫通孔が穿たれている。脚部先端は欠損しているが、２～４と同様に爪先状に作出されていた可能性がある。躯体のサイズ・貫通孔等より、垂飾品としての機能を有していた可能性がある。7 は所謂Ｘ字形土偶の腕部と推定されるもの。帰属時期は、１～６については縄文時代中期前葉～中葉・円筒上層式期、7 については縄文時代晩期と推定される。

８～10 はミニチュア土器。８は底部から大きく開く器形、連弧状沈線、口唇キザミ等から縄文時代中期中葉、円筒上層式後半・上層ｄ式～e 式期に帰属するものと推定される。

11・12 は匙形土製品片。11 は匙部、12 は把手部で、全体形はＰ-25 出土品（第Ⅱ－36 図－35）と同様の散蓮華様の形状をなすものと推定される。13～14 はいずれも欠損が多く不詳であるが、広く平らな底面・外壁様の周縁などから舟形土製品片と推定されるもの。15 は匙形・舟形いずれかと見られる破片。

16 は茸状あるいはスタンプ状の形状をもつ土製品。

17～19 は棒状に成形された土製品。

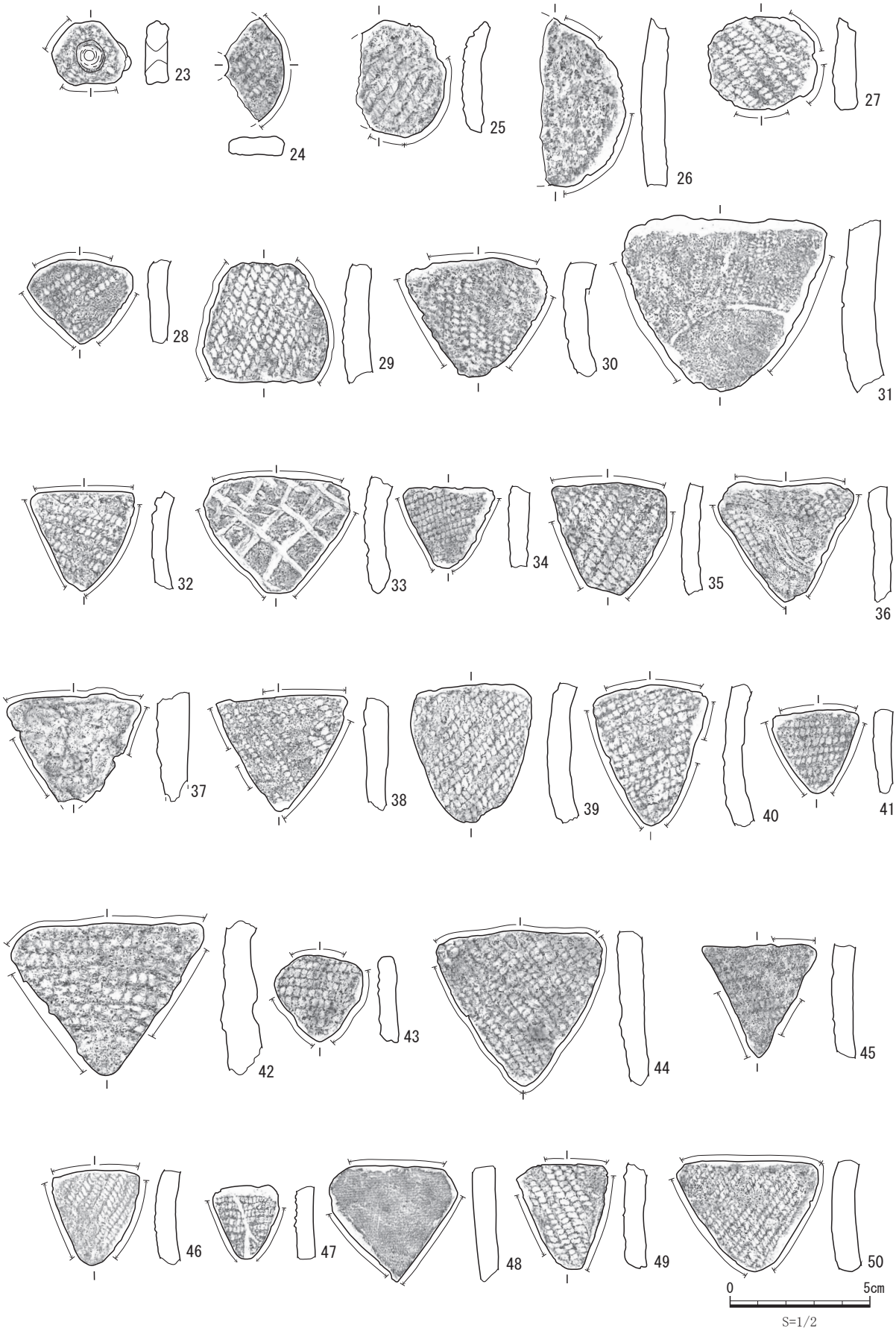
20 は獣牙様に大きく屈曲する土製品で、尖端に貫通孔が穿たれるもの。一端を欠損し全体形は不明であるが、残存部形状からみて牙製装身具あるいは釣り針様の形状を呈するものと推定される。

21・22 は環状土製品。胎土を環状に成形し、器面に篦状工具によるキザミ列を同心円状に施すもの。21 は小型のもので、表面の一端につまみ状の貼付が付与され、貼付基部を貫通するように孔が穿たれる。裏面は無文で、密に調整が加えられている。22 は大型のもので、つまみ状の貼付けはなされず、キザミ列は表裏両面にくまなく施される。同様の環状土製品は本遺跡のほか洞爺湖町入江高砂貝塚・八雲町栄浜１遺跡や、函館市サイベ沢遺跡などで類例がみられ、中期前葉・円筒上層式前半の土器群と伴出している（第Ⅳ章２(3)にて後述）。本遺跡でも同期の土器群が出土しており、その分布域内同一層での出土であることから、21・22 も同様の時期に帰属するものと推定される。

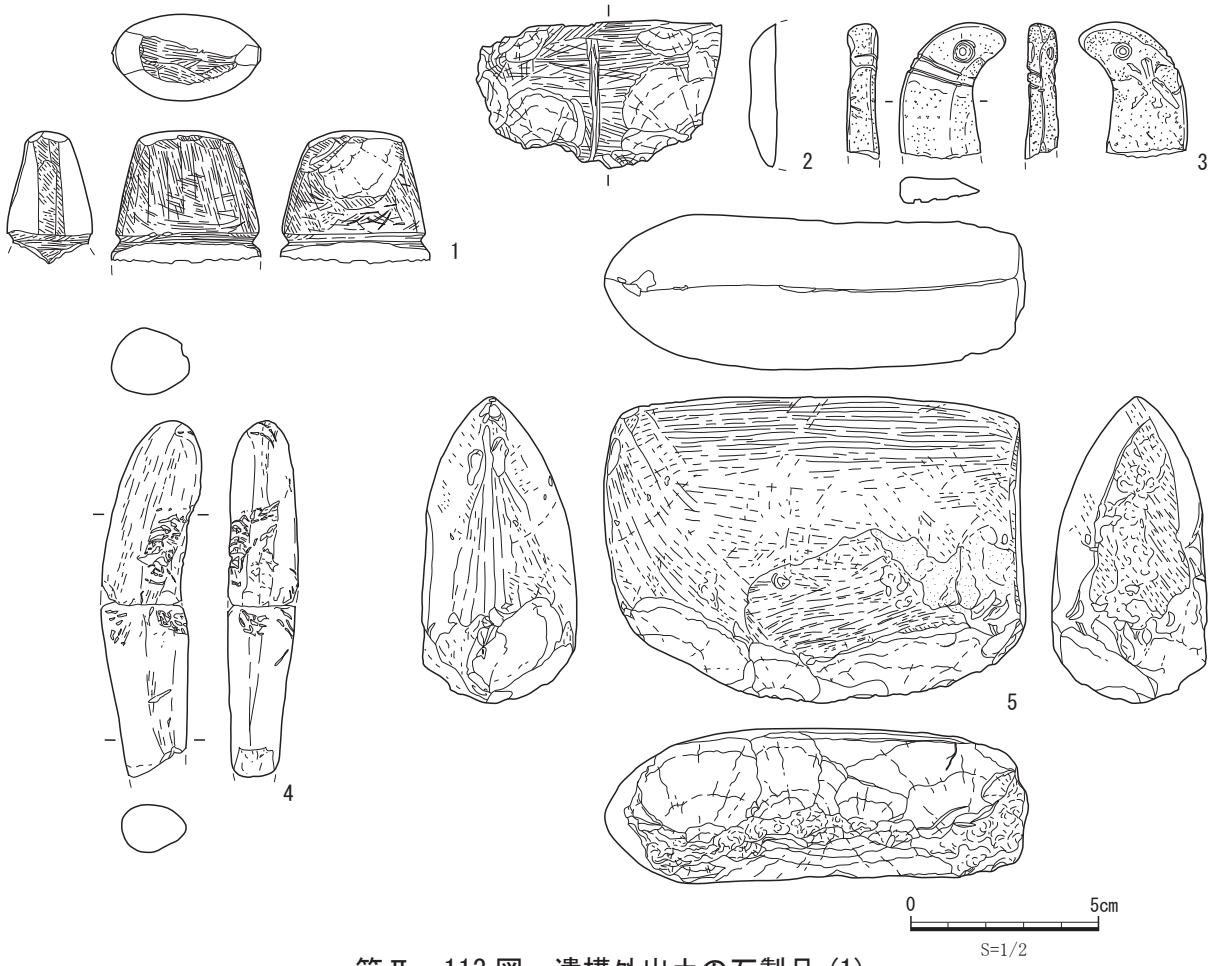
23～50 は土器片加工品。23～27 は円形土器片版。23 は中央に孔を穿つ。28～50 は三角形土器片版。中期土器群に特徴的な結束・結節縄文が見られず、後期初頭土器群に見られる充填縄文（31）や網目状文（33）などが見られることから、後期初頭以降の時期に帰属するものと推定される。（時田）

第Ⅱ－110図　遺構外出土の土製品 (1)

第Ⅱ－111 図　遺構外出土の土製品 (2)



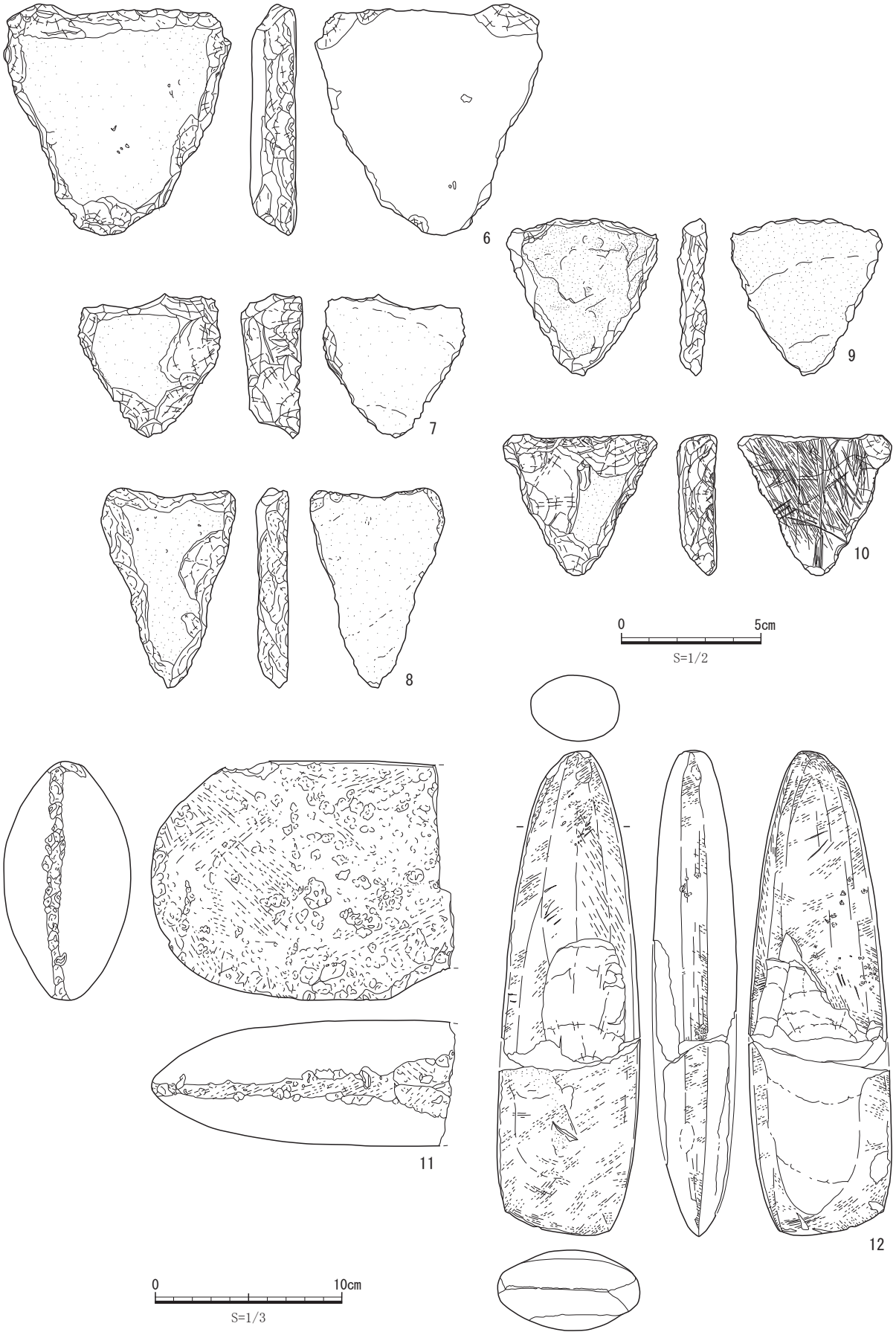
第Ⅱ－112図　遺構外出土の土製品 (3)



第Ⅱ－113 図　遺構外出土の石製品 (1)

(5) 石製品（第Ⅱ－113・114 図、写真図版 70）

１は磨製の石製品で、平面が台形状、側面が二等辺三角形を呈する。体部を欠損する。頂部はやや丸味を帯びる。横断面は楕円形を呈し、断面Ｖ字状の溝が一周する。石質はアオトラで、丹念な整形が施される。石斧製作途中に、基端部を折り取った擦切残片か、石棒等の一部の可能性がある。２は破片資料だが、細く鋭い１条の刻線と筋状の整形痕がみられるもの。全体の形態は不明だが石刀類の可能性がある。石質は泥岩。３は扁平な自然礫に穿孔し、片面に２条の溝を刻んだもので、一部欠損するが垂飾品と考えられる。石質は泥岩。４は、若干湾曲した棒状礫の一部に不規則な爪型状の刻みが集中するもの。一部を欠損する。石質は凝灰質砂岩。５は石冠状石製品。平面形は長方形で頭頂部はやや張り出す刃部状。側面は各辺が張り出す二等辺三角形。一側面は丸味を帯び、もう一方は平坦に整形される。底面には剥離と潰れがみられる。石質は凝灰岩。６～10 は三角形石製品。全て扁平な自然礫の三稜を打ち欠いたもの。６は一辺約８㎝で大型のもの。７はやや厚手の素材を用い、８は逆二等辺三角形を呈する。９の縁辺は緩く張り出している。10 は裏面に多数の条痕を有するもの。６・８・９は流紋岩、７は粗粒砂岩、10 は泥岩。11 は、柄部が欠損した青龍刃型石製品。全面が敲打整形された後、擦りによりやや滑らかな仕上げとなっている。刀身の断面は楕円形で、刃部の縁は５㎜程の幅を維持し刃区へ向かい、滑らかな段状となって柄に至ると考えられる。石質はドレライト。12 は長さ 26.1㎝で本遺跡出土中、最大の石斧状を呈するもの。脆い凝灰質砂岩製で、石斧の使用目的に適さないことから儀礼的なものと判断し石斧状石製品とした。蛤刃でやや偏刃、基部の断面は楕円状、基端部は鈍角である。（山田）



第Ⅱ－114 図　遺構外出土の石製品 (2)

Ⅲ　自然科学的手法による分析

１　放射性炭素年代測定・火山灰分析・出土骨資料同定

北斗市村前ノ沢遺跡出土試料の分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

北斗市に所在する村前ノ沢遺跡では、発掘調査により、縄文時代中期を中心とする遺物や遺構が多数確認されている。本報告では、遺跡から出土した土器の付着物や炭化材を対象として放射性炭素年代測定を行うことにより、遺物や遺構の帰属時期や相関関係に関する資料を作成する。また、確認された火山灰とされる堆積物の特性を明らかにすることにより、火山灰であれば、噴出年代や給源の明らかなテフラとの対比を行う。さらに、出土した動物骨の同定を行い、生業に関わる資料を作成する。

1.放射性炭素年代測定

(1)試料

試料は、村前ノ沢遺跡から出土した土器の付着物３点、住居跡内から出土した炭化材２点、遺構外から出土した炭化材３点の計８点(サンプルＡ～サンプルＨ)である(表１)。

表1. 村前ノ沢遺跡の放射性炭素年代測定試料一覧

試料名	種類	状態	形状	樹皮	年輪数	測定試料	土器(型式)	遺構・位置 時期
サンプ								
サンプ								
サンプ	器付着炭化物	炭質物	炭粉状	―	―	全量	復元土器No.148(大安在B式相当)	PD-2床面 縄文時代中期後半
サンプルD	住居内採取炭化物	炭化材(クリ)	破片	無	10年	外5年		PD-1覆土 縄文時代中期後半
サンプルE	住居内採取炭化物	炭質物	塊状	―	―	全量		PD-2覆土 縄文時代中期後半
サンプルF	遺構外採取炭化物	炭化材(クリ)	節部分の破片	無	15年以上	外5年		L-13-16
サンプルG	遺構外採取炭化物	炭化材(コナラ節)	柾目状	無	6年	全量		沢下位層
サンプルH	遺構外採取炭化物	炭化材(コナラ節)	ミカン割状	無	11年	全量		O-12-20

(2)分析方法

試料表面の汚れや付着物をピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。次に塩酸や水酸化ナトリウムを用いて、試料内部の汚染物質を化学的に除去する。(酸-アルカリ-酸処理;AAA処理)。その後超純水で中性になるまで洗浄し、乾燥させる。なお、アルカリ処理は、0.001M～1Mまで濃度を上げ、試料の様子をみながら処理を進める。１Mの水酸化ナトリウムで処理が可能であった場合はAAAと記す。一方、試料が脆弱で１Mの水酸化ナトリウムでは試料が損耗し、十分な炭素が得られないと判断された場合は、薄い濃度の水酸化ナトリウムの状態で処理を終える。その場合はAaAと記す。

精製された試料を燃焼してCO_2を発生させ、真空ラインで精製する。鉄を触媒とし、水素で還元してグラファイトを生成する。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置を用いて、^{14}Cの計数、^{13}C濃度(13C/12C)、^{14}C濃度(14C/12C)を測定する。AMS測定時に、標準試料とバックグラウンド試料の測定も行う。δ^{13}Cは試料炭素の^{13}C濃度(13C/12C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表したものである。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver and Polach ,1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。

表2. 村前ノ沢遺跡の放射性炭素年代測定結果

試料名	種別	分析方法	補正年代BP（暦年較正用）	δ13C（‰）	暦年較正年代 年代値														相対比	Code №.
サンプルA	炭化物	AaA	4,500± 20	−26.66±0.29	σ	cal	BC	3,336	−	cal	BC	3,311	cal	BP	5,285	−	5,260	0.169		YU−5405
			(4,502± 22)			cal	BC	3,295	−	cal	BC	3,286	cal	BP	5,244	−	5,235	0.057		
						cal	BC	3,275	−	cal	BC	3,265	cal	BP	5,224	−	5,214	0.060		
						cal	BC	3,239	−	cal	BC	3,209	cal	BP	5,188	−	5,158	0.208		
						cal	BC	3,193	−	cal	BC	3,151	cal	BP	5,142	−	5,100	0.290		
						cal	BC	3,138	−	cal	BC	3,107	cal	BP	5,087	−	5,056	0.216		
					2σ	cal	BC	3,343	−	cal	BC	3,263	cal	BP	5,292	−	5,212	0.342		
						cal	BC	3,246	−	cal	BC	3,100	cal	BP	5,195	−	5,049	0.658		
サンプルB	炭化物	AaA	4,740± 25	−26.66±0.32	σ	cal	BC	3,631	−	cal	BC	3,578	cal	BP	5,580	−	5,527	0.708		YU−5406
			(4,741± 23			cal	BC	3,573	−	cal	BC	3,567	cal	BP	5,522	−	5,516	0.042		
						cal	BC	3,535	−	cal	BC	3,518	cal	BP	5,484	−	5,467	0.224		
						cal	BC	3,393	−	cal	BC	3,389	cal	BP	5,342	−	5,338	0.025		
					2σ	cal	BC	3,634	−	cal	BC	3,552	cal	BP	5,583	−	5,501	0.636		
						cal	BC	3,541	−	cal	BC	3,508	cal	BP	5,490	−	5,457	0.204		
						cal	BC	3,426	−	cal	BC	3,381	cal	BP	5,375	−	5,330	0.160		
サンプルC	炭化物	AaA	4,295± 20	−27.14±0.32	σ	cal	BC	2,911	−	cal	BC	2,895	cal	BP	4,860	−	4,844	1.000		YU−5407
			(4,295± 22		2σ	cal	BC	2,922	−	cal	BC	2,885	cal	BP	4,871	−	4,834	1.000		
サンプルD	炭化材	AAA	3,885± 20	−31.33±0.29	σ	cal	BC	2,455	−	cal	BC	2,417	cal	BP	4,404	−	4,366	0.379		YU−5408
			(3,886± 21)			cal	BC	2,409	−	cal	BC	2,343	cal	BP	4,358	−	4,292	0.621		
					2σ	cal	BC	2,462	−	cal	BC	2,299	cal	BP	4,411	−	4,248	1.000		
サンプルE	炭化物	AaA	4,040± 20	−28.73±0.29	σ	cal	BC	2,580	−	cal	BC	2,562	cal	BP	4,529	−	4,511	0.293		YU−5409
			(4,039± 21)			cal	BC	2,534	−	cal	BC	2,493	cal	BP	4,483	−	4,442	0.707		
					2σ	cal	BC	2,620	−	cal	BC	2,488	cal	BP	4,569	−	4,437	1.000		
サンプルF	炭化材	AAA	4,440± 25	−27.90±0.64	σ	cal	BC	3,264	−	cal	BC	3,242	cal	BP	5,213	−	5,191	0.177		YU−5410
			(4,440± 24)			cal	BC	3,103	−	cal	BC	3,023	cal	BP	5,052	−	4,972	0.823		
					2σ	cal	BC	3,328	−	cal	BC	3,218	cal	BP	5,277	−	5,167	0.303		
						cal	BC	3,178	−	cal	BC	3,159	cal	BP	5,127	−	5,108	0.028		
						cal	BC	3,123	−	cal	BC	3,010	cal	BP	5,072	−	4,959	0.645		
						cal	BC	2,979	−	cal	BC	2,961	cal	BP	4,928	−	4,910	0.015		
						cal	BC	2,952	−	cal	BC	2,941	cal	BP	4,901	−	4,890	0.009		
サンプルG	炭化材	AAA	4,155± 20	−30.26±0.39	σ	cal	BC	2,866	−	cal	BC	2,840	cal	BP	4,815	−	4,789	0.206		YU−5411
			(4,154± 22)			cal	BC	2,814	−	cal	BC	2,804	cal	BP	4,763	−	4,753	0.080		
						cal	BC	2,775	−	cal	BC	2,769	cal	BP	4,724	−	4,718	0.033		
						cal	BC	2,764	−	cal	BC	2,677	cal	BP	4,713	−	4,626	0.681		
					2σ	cal	BC	2,875	−	cal	BC	2,833	cal	BP	4,824	−	4,782	0.195		
						cal	BC	2,819	−	cal	BC	2,660	cal	BP	4,768	−	4,609	0.771		
						cal	BC	2,650	−	cal	BC	2,635	cal	BP	4,599	−	4,584	0.034		
サンプルH	炭化材	AAA	3,160± 25	−30.63±0.56	σ	cal	BC	1,489	−	cal	BC	1,485	cal	BP	3,438	−	3,434	0.056		YU−5412
			(3,158± 24)			cal	BC	1,451	−	cal	BC	1,412	cal	BP	3,400	−	3,361	0.944		
					2σ	cal	BC	1,497	−	cal	BC	1,398	cal	BP	3,446	−	3,347	1.000		

1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1を使用。
2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。
4)AAAは、酸、アルカリ、酸処理、AaAは、アルカリの濃度を薄くした処理を示す。
5)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1を使用
6)計算には表に示した丸める前の値を使用している。
7)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
8)統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である
9)相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。
10)中央値は、確率分布図の面積が二分される値を年代値に換算したもの。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5,730±40年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正のもとになる直線は暦時代がわかっている遺物や年輪(年輪は細胞壁のみなので、形成当時の^{14}C年代を反映している)等を用いて作られており、最新のものは2013年に発表されたIntcal13(Reimer et a l.,2013)である。また、較正年代を求めるソフトウエアはいくつか公開されているが、今回はRADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1を用いる。なお、年代測定値に関しては、国際的な取り決めにより、測定誤差の大きさによって値を丸めるのが普通であるが(Stuiver and Polach,1977)、将来的な較正曲線ならびにソフトウエアの更新に伴う再計算ができるようにするため、表には丸めない値(１年単位)も記す。

(3)結果

放射性炭素年代測定結果を表、図１に示す。同位体補正を行った年代値は、サンプルＡが4,500

±20BP、サンプルＢが4,740±25BP、サンプルＣが4,295±20BP、サンプルＤが3,885±20BP、サンプルＥが4,040±20BP、サンプルＦが4,440±25BP、サンプルＧが4,155±20BP、サンプルＨが3,160±25BPである。

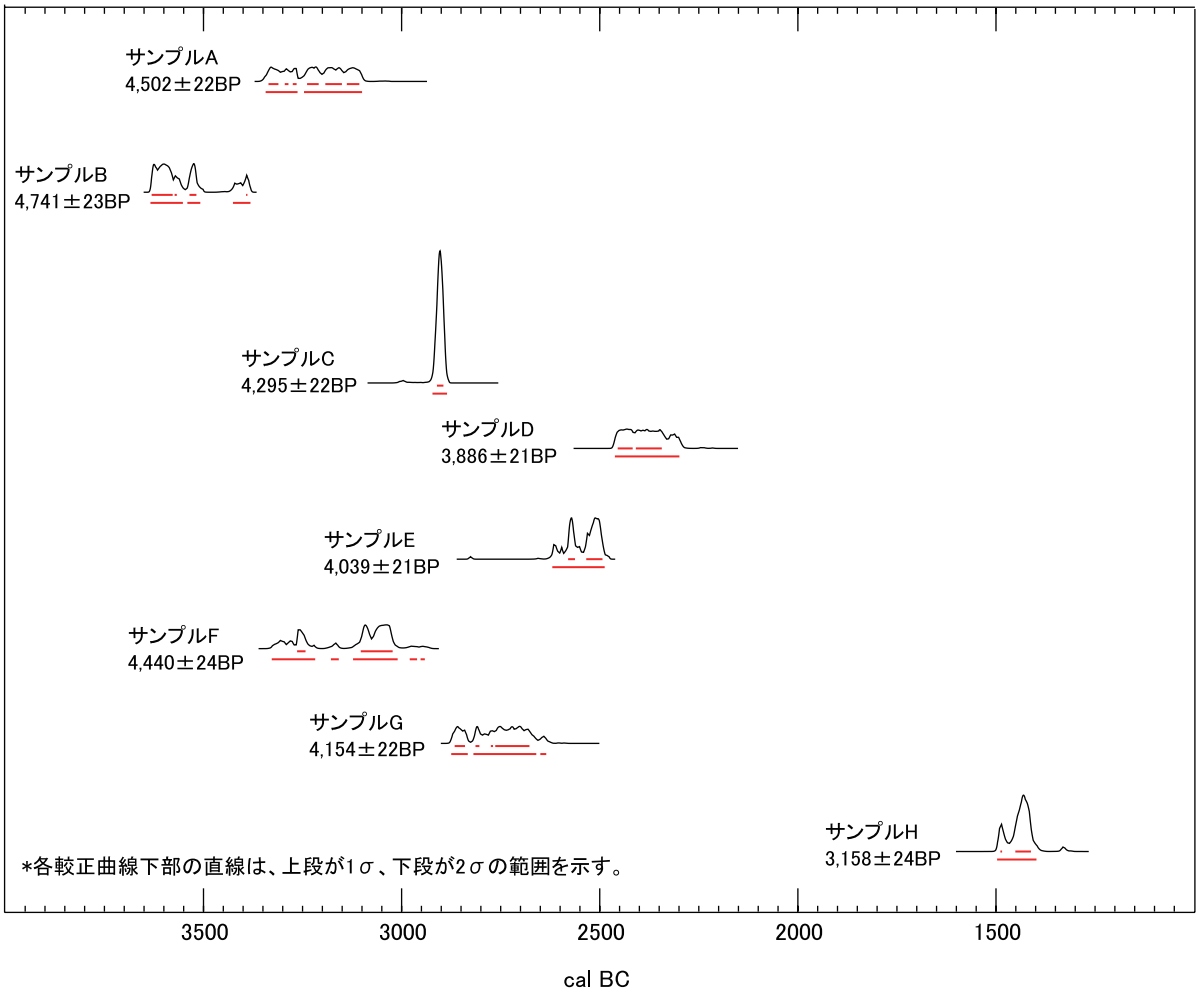


図 1. 村前ノ沢遺跡における暦年較正結果の比較

暦年較正の2σの結果は、サンプルＡが5,292～5,049calBP、サンプルＢが5,583～5,330cal BP、サンプルＣが4,871～4,834cal BP、サンプルＤが4,411～4,248cal BP、サンプルＥが4,569～4,437cal BP、サンプルＦが5,277～4,890cal 5BP、サンプルＧが4,824～4,584cal BP、サンプルＨが3,446～3,347cal BPである。

(4)考察

村前ノ沢遺跡から出土した土器の付着物のうち、発掘調査所見により土器の型式が円筒上層b式とされたサンプルＡとサンプルＢからは4,500BPおよび4,700BPという放射性炭素年代が得られた。この年代は、小林編(2008)に記載されている東北地方出土の円筒上層式に関わる放射性炭素年代とほぼ一致している。したがって本遺跡出土の円筒上層式も東北地方の同型式の土器とほぼ同時期のものであったと考えることができる。また、円筒上層式よりもやや新しい大安在Ｂ式とされた土器の付着物であるサンプルＣの放射性炭素年代は、上述したサンプルＡやサンプルＢよりもやや新しい約4,300BP頃の放射性炭素年代が得られており、発掘調査所見をよく支持する結果になったと言える。

なお、上述したサンプルＡとサンプルＢの放射性炭素年代、サンプルＣの放射性炭素年代は、そ

れぞれ工藤(2012)が示している縄文時代中期前半と縄文時代中期後半の放射性炭素年代にもほぼ一致しており、今回の測定結果は、土器型式の年代観を示す良好な資料になる。

サンプルＤとサンプルＥは、ともに住居覆土から出土した炭化材であるが、その放射性炭素年代は3,900～4,000BPを示し、工藤(2012)による後期初頭の年代観に相当する。縄文時代中期後半とされている発掘調査所見に比べると若干新しい年代値と言えるが、時期の境界付近の年代測定については、ばらつきも含めた検討が必要であろう。

サンプルＦ、サンプルＧ、サンプルＨは遺構外から採取された炭化材であり、発掘調査所見による年代観は特に示されていない。測定された年代値から見れば、サンプルＦの年代は縄文時代中期前半、サンプルＧの年代は縄文時代中期後半にそれぞれ相当する。確認されている土器型式の年代と整合するものと言える。一方、サンプルＨの放射性炭素年代は、後期後葉頃の年代に相当するが、周辺で該当する時期の土器の出土等を確認する必要があると考えられる。

2.火山灰の分析

(1)試料

村前ノ沢遺跡では、近現代表土と遺物包含層の中間に火山灰とされる堆積物が確認されている。試料は、N-9-19地点の窪地に堆積した同様の堆積物から１点が採取され、火山灰サンプルとされた。

火山灰サンプルは、褐色を呈するいわゆる火山灰土の外観を呈し、砂質である。

(2)分析方法

試料約20ｇを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の３タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

屈折率の測定は、古澤(1995)のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

(3)結果

結果を表３に示す。処理後の砂分中には、火山ガラスが多量に含まれ、微量の軽石も認められた。火山ガラスは、細砂～極細砂径で粒径の淘汰は非常に良好である。無色透明のバブル型と無色透明の軽石型とが混在する。軽石は、最大径約0.7㎜であり、白色を呈し、発泡はやや良好である。斜方輝石の斑晶を包有するものも認められた。

表3. テフラ分析結果

試料名	スコリア	火山ガラス		軽石		
	量	量	色調・形態	量	色調・発泡度	最大粒径
火山灰	－	＋＋＋＋	cl・pm,cl・bw	＋	W・sg(opx)	0.7

凡例　－:含まれない. (+):きわめて微量. ＋:微量. ＋＋:少量.
'＋＋＋:中量. ＋＋＋＋:多量.
cl:無色透明. br:褐色. bw:バブル型. md:中間型. pm:軽石型.
W:白色.　g:良好. sg:やや良好. sb:やや不良. b:不良.
最大粒径はmm. (opx):斜方輝石斑晶包有.

火山ガラスの屈折率を図２に示す。n1.510-1.513の低屈折率のレンジとn1.520-1.525の高屈折率のレンジとに明瞭に分かれる。低屈折率のレンジのモードはn1.511、高屈折率のレンジのモードはn1.523付近である。

(4)考察

処理後の砂分からは、多量の火山ガラスが検出されたことから、火山灰サンプルとされた堆積物は、火山ガラス質テフラの降下堆積物であると考えられる。ただし、火山ガラスの屈折率のレンジが２つに分かれることから、２種類の異なるテフラが混在している可能性が高い。

２種類のうち、屈折率の高いレンジを構成する火山ガラスは、その値とバブル型火山ガラスを含む形態的特徴および村前ノ沢遺跡の地理的位置と火山灰サンプルの産出層位などから、白頭山苫小牧テフラ(B-Tm)に由来すると考えられる。B-Tmは、10世紀に中国と北朝鮮の国境に位置する白頭山から噴出したテフラであり、岩手・秋田県北部以北と北海道のほぼ全域で確認されている(町田ほか,1981;町田・新井,2003)。なお、その詳細な噴出年代については、早川・小山(1998)が歴史記録の解釈各地におけるテフラの分布等から西暦946年としているが、最近報告された白頭山北東麓における火砕流堆積物中の炭化材の放射性炭素年代測定では、ウィグルマッチングにより求められた暦年で942年ないし953年という年代も出されている(Yatsuzuka *et al.*,2010)。これらの報告から、B-Tmの噴出年代はほぼ確実に10世紀中頃とされる。火山灰サンプルが採取された堆積物は、後述するようにB-Tmとは異なるテフラも混在しているが、B-Tmの火山ガラスを多量に含むことから、噴火時に降下堆積した層位からそれほど移動はしていない可能性がある。その場合、火山灰サンプルの採取された層位は、およそ10世紀中頃前後を示すとみてよい。

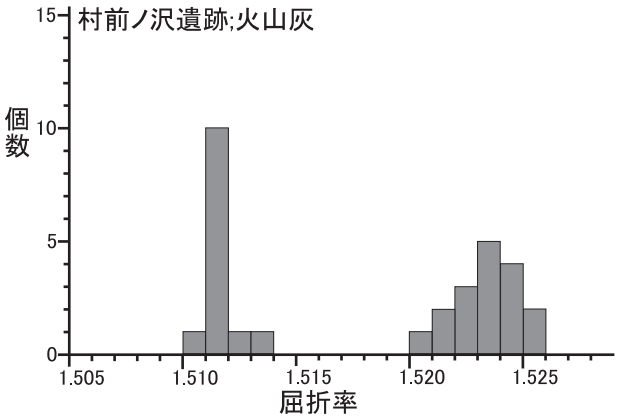


図 2. 火山ガラスの屈折率測定結果

なお、北海道に分布するB-Tmには軽石は含まれないことから、火山灰サンプルから微量検出された軽石は、B-Tmとは異なるテフラに由来すると考えられる。おそらく、低屈折率のレンジを示す火山ガラスの由来するテフラと同一のテフラであると考えられる。村前ノ沢遺跡の地理的位置を考慮すると、駒ケ岳を給源とするテフラの可能性がある。発掘調査所見では、AD1640年に噴出した駒ケ岳dテフラに対比される可能性があるとされているが、火山灰サンプルにおける低屈折率のレンジは、町田・新井(2003)に記載された駒ケ岳dテフラの屈折率とは大きく異なっている。同記載を参照すれば、火山灰サンプルの低屈折率のレンジは、1700年前以前に噴出した駒ケ岳eテフラに近い。現時点では、いずれのテフラであるかを特定することはできないが、今後、周辺域における駒ケ岳のテフラの産状を確認し、検討する必要がある。

3.骨の同定

(1)試料

試料は、包含層や焼土の水洗選別等によって得られた 11 試料（No. 1 ～11）である。試料の詳細は、結果とともに表示する。

(2)分析方法

試料を肉眼および実体顕微鏡下で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。

(3)結果

検出される骨は、いずれも白色を呈する小型の破片である。確認された種類は、硬骨魚綱７種類(コイ科?・サケ類・タラ科?・メバル亜科・アイナメ属・スズキ属・タイ科)、鳥類４種類(カラス科?・スズメ目・サギ科・カモ類?)、哺乳綱が確認される(表４)。同定結果を表５に示す。以下、結果を示す。

・No.1

サケ類の椎骨、アイナメ属の尾椎、魚類の椎骨・鰭棘等、スズメ目の左足根中足骨、カラス科?の右足根中足骨、鳥類の肋骨・四肢骨・指骨・中節骨・基節骨/中節骨・末節骨、鳥類/獣類の基節

骨/中節骨、小型獣類の基節骨/中節骨、獣類の部位不明破片などである。

・No.2

獣類の部位不明破片などである。

・No.3

タイ科の歯牙(臼歯状)、魚類の椎骨・鰭棘等、鳥類の四肢骨・指骨・中節骨などである。

・No.4

コイ科の咽頭骨の可能性がある破片、魚類の前上顎骨/歯骨・椎骨・鰭棘等、カモ類?の脛骨、鳥類の肋骨/四肢骨・指骨・足根中足骨・中節骨・末節骨、獣類の歯牙・肋骨などである。

・No.5

鳥類の手根中手骨・基節骨/中節骨・末節骨などである。

・No.6

種類・部位ともに不明である。

・No.7

サケ類の椎骨、メバル亜科の左歯骨、魚類の前上顎骨・歯牙(犬歯状)・椎骨・鰭棘等、カラス科?の右尺骨・右足根中足骨、サギ科の右脛足根骨、鳥類の四肢骨・肋骨/四肢骨・橈骨・指骨・脛骨・左足根中足骨・足根中足骨・基節骨/中節骨・中節骨・末節骨、獣類の上顎骨/下顎骨などである。

表4. 検出分類群一覧

脊椎動物門	Phylum Vertebrata
硬骨魚綱	Class Osteichthyse
条鰭亜綱	Subclass Actinopterygii
コイ目	Order Cypriniformes
コイ科?	Family Cyprinidae?
サケ目	Order Salmoniformes
サケ科	Family Salmonidae
サケ類	Gen. et. sp. indet.
タラ目	Order Gadiformes
タラ科?	Family Gadidae
カサゴ目	Order Scorpaeniformes
カサゴ亜目	Suborder Scorpaenoidei
フサカサゴ科	Family Scorpaenidae
メバル亜科	Subfamily Sebastinae
カジカ亜目	Suborder Cottoidei
アイナメ科	Family Hexagrammidae
アイナメ属	Genus *Hexagrammos*
スズキ目	Order Perciformes
スズキ亜目	Suborder Percoidei
スズキ科	Family Moronidae
スズキ属	Genus *Lateolabrax*
タイ科	Family Sparidae
タイ科	Gen. et. sp. indet.
鳥綱	Class Aves
スズメ目	Order Passeres
カラス科?	Family Corvidae?
コウノトリ目	Order Ciconiiformes
コウノトリ亜目	Suborder Ciconii
サギ科	Family Ardeidae
カモ目	Order Anseriformes
カモ科	Family Anatidae
カモ類?	Gen. et. sp. indet.
哺乳綱	Class Mammalia
獣類	Gen. et. sp. indet.

・No.8

スズキ属の尾椎、魚類の下尾骨・椎骨・鰭棘等、鳥類の肋骨/四肢骨などである。

・No.9

タラ科?の尾椎、アイナメ属の第 1 椎骨、魚類の椎骨・鰭棘等、カラス科?の左鳥口骨・左右橈骨・右手根中手骨・左右足根中足骨、サギ科の左鳥口骨・左脛足根骨、サギ科?の左右足根中足骨、鳥類の左鳥口骨・肋骨・四肢骨・肋骨/四肢骨・左手根中手骨・指骨・脛骨・左右足根中足骨・基節骨/中節骨・中節骨・末節骨、獣類の肋骨/四肢骨・指骨・部位不明破片などである。なお、獣類の部位不明破片では、平たく削った加工品がみられる。

・No.10

魚類の椎骨・鰭棘等、鳥類の四肢骨・肋骨/四肢骨・右足根中足骨・足根中足骨・中節骨・基節骨/中節骨・末節骨、肋骨/四肢骨などがみられる。

・No.11

獣類の肋骨/四肢骨片である。

(4)考察

今回、確認された種類は、魚類、鳥類、哺乳類がみられた。焼土などから検出されており、骨自体も焼けている。哺乳類は、上顎骨/下顎骨・歯牙片・肋骨片・肋骨/四肢骨片・指骨などのほか、小型獣類の基節骨/中節骨がみられる程度であった。破片数でみても今回の中では最も少なく、主要種となっていなかったと考えられる。大半は小型の破片であるが、No. 7 (L-13-16)で検出された上顎骨/下顎骨とみられる破片は、その中でも比較的大型の破片であった。また、No. 9 (L-13-24

表5.　骨同定結果(1)

No.	位置	層位	遺構名	注記	種類	部位	左 右	部分	数量	被熱
1	L-13-22	焼土	FS-89(Ⅲb)	土壌サンプルNo.64より	サケ類	椎骨		破片	2	○
					アイナメ属	尾椎		略完	1	○
					魚類	椎骨		破片	8	○
						鰭棘等		破片	11	○
					カラス科?	足根中足骨	右	遠位端	1	○
					スズメ目	足根中足骨	左	近位端欠	1	○
					鳥類	肋骨		破片	1	○
						四肢骨		破片	6	○
						中節骨		近位端	2	○
						基節骨/中節骨		近位端欠	1	○
						末節骨		略完	3	○
						指骨		略完	1	○
					小型獣類	基節骨/中節骨		遠位端	1	○
					鳥類/小型獣類	基節骨/中節骨		遠位端	2	○
					獣類	不明		破片	1	○
					不明	不明		破片	0.64 g	○
2	L-14-10	Ⅲb?	-	土壌サンプルNo.94より2/2	獣類	不明		破片	1	○
					不明	不明		破片	0.01 g	○
3	L-13-16	焼土	FS-89(Ⅲb)	土壌サンプルNo.139より	タイ科	歯牙(臼歯状)		破片	1	○
					魚類	椎骨		破片	3	○
						鰭棘等		破片	3	○
					鳥類	四肢骨		破片	2	○
						中節骨		略完	1	○
								遠位端欠	1	○
						指骨		略完	1	○
					不明	不明		破片	0.14 g	○
4	L-13-21	焼土	FS-89(Ⅲb)	土壌サンプルNo.158より	コイ科?	咽頭骨?		破片	1	○
					魚類	前上顎骨/歯骨		破片	1	○
						椎骨		破片	5	○
						鰭棘等		破片	13	○
					カモ類?	脛骨	左	遠位端	1	○
					鳥類	肋骨/四肢骨		破片	7	○
						足根中足骨		破片	1	○
						中節骨		略完	1	○
						末節骨		破片	4	○
						指骨		略完	1	○
					獣類	歯牙		歯根	1	○
						肋骨		破片	1	○
					不明	不明		破片	0.36 g	○
5	L-13-16	焼土	FS-89(Ⅲb)	土壌サンプルNo.162より	鳥類	手根中手骨		遠位端	1	○
						基節骨/中節骨		近位端欠	1	○
						末節骨		略完	1	○
					不明	不明		破片	0.07 g	○
6	L-14-9	Ⅲb	-	土壌サンプルNo.300より	不明	不明		破片	0.42 g	○
7	L-13-16	-	-	土壌サンプルNo.301より	サケ類	椎骨		破片	1	○
					メバル亜科	歯骨	左	破片	1	○
					魚類	前上顎骨		破片	2	○
						歯牙(犬歯状)		破片	1	○

表5.　骨同定結果(2)

No.	位置	層位	遺構名	注記	種類	部位	左 右	部分	数量	被熱
7	L-13-16	-	-	土壌サンプルNo.301より	魚類	椎骨		破片	4	○
						鰭棘等		破片	6	○
					カラス科?	尺骨	右	遠位端	1	○
						足根中足骨	右	近位端破片	2	○
					サギ科	脛足根骨	右	遠位端	2	○
					鳥類	橈骨		近位端	1	○
						脛骨		遠位端破片	3	○
						肋骨/四肢骨		破片	97	○
						四肢骨		破片	4	○
						足根中足骨	左	遠位端	3	○
								遠位端破片	5	○
						基節骨/中節骨		近位端欠	11	○
						中節骨		略完	8	○
								遠位端欠	2	○
								近位端欠	10	○
						末節骨		略完	6	○
								破片	9	○
						指骨		略完	1	○
					獣類	上顎骨/下顎骨		破片	1	○
					不明	不明		破片	2.27 g	○
8	L-13-16	斜面(焼土)	-	土壌サンプルNo.302より	スズキ属	尾椎		破片	2	○
					魚類	椎骨		破片	4	○
						下尾骨		破片	1	○
						鰭棘等		破片	12	○
					鳥類	肋骨/四肢骨		破片	3	○
					不明	不明		破片	0.5 g	○
9	L-13-24	焼土	-	土壌サンプルNo.304より	タラ科?	尾椎		破片	2	○
					アイナメ属	第1椎骨		破片	1	○
					魚類	椎骨		破片	3	○
						鰭棘等		破片	18	○
					カラス科?	烏口骨	左	遠位端	1	○
						橈骨	左	近位端破片	1	○
							右	近位端破片	1	○
						手根中手骨	右	近位端	1	○
						足根中足骨	左	近位端	1	○
								近位端破片	1	○
							右	遠位端	1	○
					サギ科	烏口骨	左	近位端	2	○
						脛足根骨	左	遠位端	1	○
					サギ科?	足根中足骨	左	遠位端	4	○
							右	遠位端	1	○
					鳥類	烏口骨	左	近位端破片	1	○
						肋骨		破片	1	○
						手根中手骨	左	近位端破片	1	○
						脛骨		遠位端破片	2	○
						四肢骨		破片	2	○
						肋骨/四肢骨		破片	1.53 g	○
						足根中足骨	左	近位端	2	○

表5.　骨同定結果(3)

No.	位置	層位	遺構名	注記	種類	部位	左 右	部分	数量	被熱
9	L-13-24	焼土	-	土壌サンプルNo.304より	鳥類	足根中足骨	右	近位端	1	○
								遠位端	2	○
								遠位端破片	4	○
						基節骨/中節骨		遠位端破片	1	○
								近位端欠	20	○
						中節骨		略完	13	○
								遠位端欠	15	○
						末節骨		略完	9	○
								破片	8	○
						指骨		略完	4	○
					獣類	肋骨/四肢骨		破片	3	○
						指骨		破片	1	○
						不明		破片	1	○
						不明(加工品)		破片	1	○
					不明	不明		破片	2.41 g	○
10	L-13-17	斜面(焼土)	-	土壌サンプルNo.305より	魚類	椎骨		破片	2	○
						鰭棘等		破片	13	○
					鳥類	四肢骨		破片	1	○
						肋骨/四肢骨		破片	44	○
						足根中足骨	右	遠位端破片	1	○
								遠位端破片	2	○
						基節骨/中節骨		近位端欠	5	○
						中節骨		遠位端欠	5	○
						末節骨		破片	1	○
					獣類	肋骨/四肢骨		破片	4	○
					不明	不明		破片	0.51 g	○
11	L-14-9	Ⅲb	-	骨のみの採取No.342	獣類	肋骨/四肢骨		破片	8 +	○

焼土)からは、骨の緻密質を薄く削った針状の加工品が検出されている。このことから獣類の骨は、食料資源だけでなく道具などの素材として利用していたことも伺える。魚類では、コイ科の可能性がある破片、サケ類がみられた。コイ科は、河川や池沼など淡水域に生息する。サケ類は、産卵のために河川を遡上する。したがって、これらは遺跡付近を流れる河川(現当別川など)で狩猟された可能性がある。また、タラ科、アイナメ、スズキ属、タイ科などは、河口付近、内湾部、あるいは岩礁域などで採られていたと考えられる。ただし、獣類と同様それほど多くはない。鳥類では、破片のため正確性に欠くが、カラス科?、スズメ目、サギ科、カモ類?であり、種類を特定できない破片もみられた。本遺跡の主体をなしている。多様な鳥類を捕獲していたことが推測され、遺跡が段丘上に位置することを反映していると思われる。

引用文献

古澤　明,1995,火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別.地質学雑誌,101,123-133.

早川由紀夫・小山真人,1998,日本海をはさんで 10 世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日－十和田湖と白頭山－.火山,43,403-407.

小林達雄(編),2008,小林達雄先生古希記念企画　総覧　縄文土器.株式会社アム・プロモーション,1322p.

工藤雄一郎,2012,旧石器・縄文時代の環境文化史:高精度放射性炭素年代測定と考古学.新泉社,373p.

町田　洋・新井房夫,2003,新編　火山灰アトラス.東京大学出版会,336p.

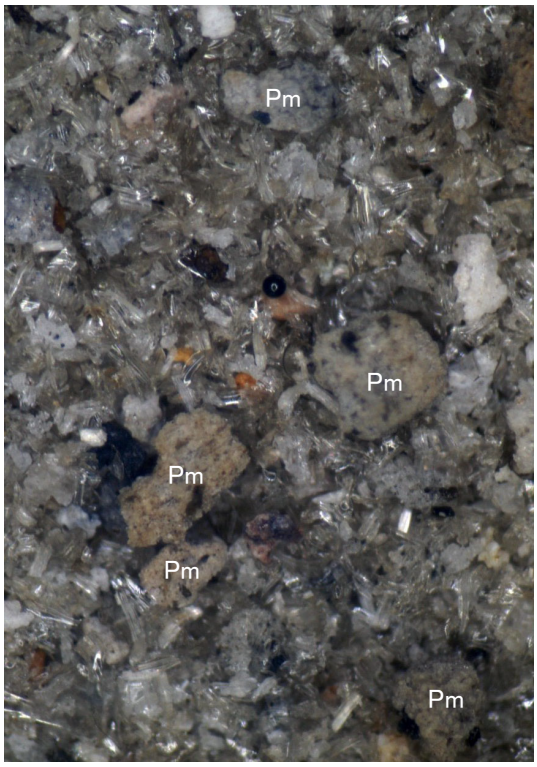
町田　洋・新井房夫・森脇　広,1981,日本海を渡ってきたテフラ.科学,51,562-569.

Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatté, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J.,2013,IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon,55,1869-1887.

Stuiver, M., and Polach, H. A.,1977,Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon ,19, 355-363.

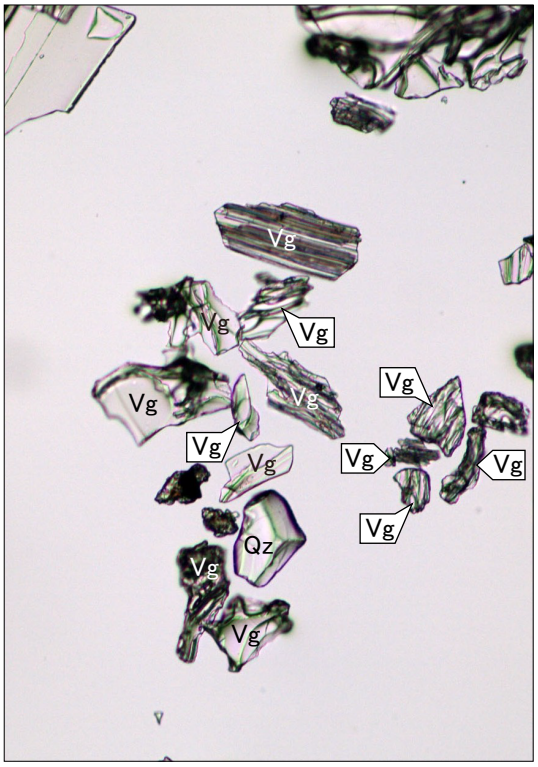
Yatsuzuka,S. ・ Okuno,M. ・ Nakamura,T. ・ Kimura,K. ・ Setoma,Y. ・ Miyamoto,T. ・ Kyu,H.K. ・ Moriwaki,H. ・Nagase,T. ・Xu,J. ・Bo,L.J. ・Takahashi,T. ・Taniguchi,H.,2010,^{14}C Wiggle-Matching of the B-Tm Tephra,Baitoushan Volcano.RADIOCARBON,Vol52,933-940.

図版1　村前ノ沢遺跡の砂分の状況・火山ガラス



1.砂分の状況(N-9-19地点;火山灰サンプル)

Pm:軽石. Vg:火山ガラス. Qz:石英.

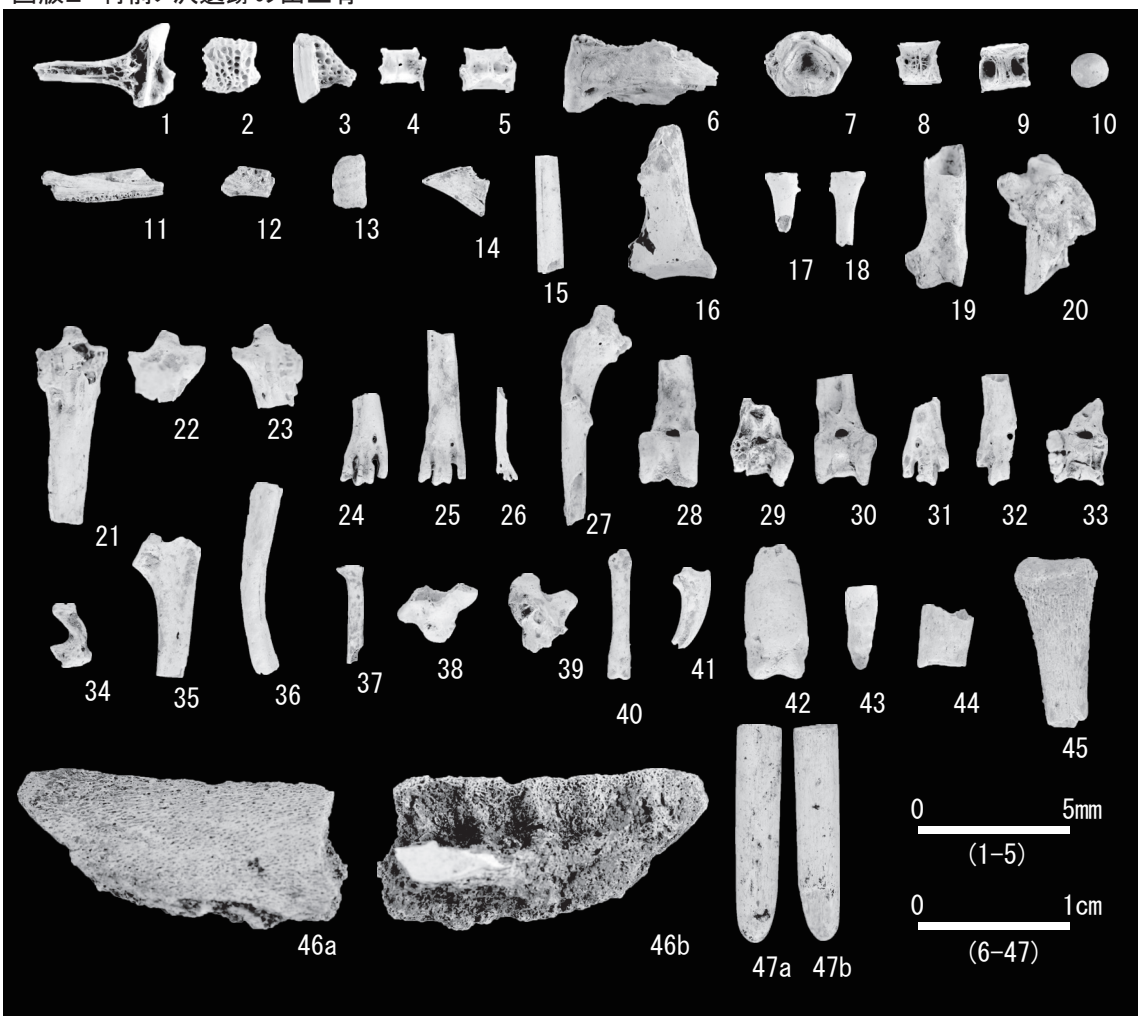


2.火山ガラス(N-9-19地点;火山灰サンプル)

1.0mm　0.2mm

1　2

図版2　村前ノ沢遺跡の出土骨



1. コイ科？咽頭骨？(No. 4:L-13-21 焼土)
2. サケ類椎骨 (No. 1:L-13-22 焼土)
3. サケ類椎骨 (No. 7:L-13-16)
4. タラ科？尾椎 (No. 9:L-13-24 焼土)
5. タラ科？尾椎 (No. 9:L-13-24 焼土)
6. メバル亜科左歯骨 (No. 7:L-13-16)
7. アイナメ属第 1 椎骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
8. アイナメ属尾椎 (No. 1:L-13-22 焼土)
9. スズキ属尾椎 (No. 8:L-13-16 斜面 (焼土))
10. タイ科歯牙 (臼歯状)(No. 3:L-13-16 焼土)
11. 魚類前上顎骨 (No. 7:L-13-16)
12. 魚類前上顎骨 / 歯骨 (No. 4:L-13-21 焼土)
13. 魚類歯牙 (犬歯状)(No. 7:L-13-16)
14. 魚類下尾骨 (No. 8:L-13-16 斜面 (焼土))
15. 魚類鰭棘等 (No. 7:L-13-16)
16. カラス科？左鳥口骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
17. カラス科？左橈骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
18. カラス科？右橈骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
19. カラス科？右尺骨 (No. 7:L-13-16)
20. カラス科？右手根中手骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
21. カラス科？左足根中足骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
22. カラス科？左足根中足骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
23. カラス科？右足根中足骨 (No. 7:L-13-16)
24. カラス科？右足根中足骨 (No. 1:L-13-22 焼土)
25. カラス科？右足根中足骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
26. スズメ目左足根中足骨 (No. 1:L-13-22 焼土)
27. サギ科左鳥口骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
28. サギ科左脛足根骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
29. サギ科右脛足根骨 (No. 7:L-13-16)
30. サギ科右脛足根骨 (No. 7:L-13-16)
31. サギ科？左足根中足骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
32. サギ科？右足根中足骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
33. カモ類？左脛骨 (No. 4:L-13-21 焼土)
34. 鳥類左鳥口骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
35. 鳥類肋骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
36. 鳥類肋骨 (No. 1:L-13-22 焼土)
37. 鳥類橈骨 (No. 7:L-13-16)
38. 鳥類手根中手骨 (No. 5:L-13-16 焼土)
39. 鳥類左手根中手骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
40. 鳥類中節骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
41. 鳥類末節骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
42. 小型獣類基節骨 / 中節骨 (No. 1:L-13-22 焼土)
43. 獣類歯牙 (No. 4:L-13-21 焼土)
44. 獣類肋骨 (No. 4:L-13-21 焼土)
45. 獣類指骨 (No. 9:L-13-24 焼土)
46. 獣類上顎骨 / 下顎骨 (No. 7:L-13-16)
47. 獣類不明 (加工品)(No. 9:L-13-24 焼土)

２　植物遺体同定

村前ノ沢遺跡から検出された植物遺体について

Project Seeds 考古植物研究会　椿坂　恭代

1.遺跡の所在と性格

遺 跡 の 名 称：村前ノ沢遺跡（B-06-105）
遺跡の所在地：北斗市当別 697-55
発掘調査期間：平成 25 年７月 25 日～平成 25 年 11 月７日
　　平成 26 年５月 28 日～平成 26 年 11 月 26 日
調　査　主　体：北斗市
調　査　実　施：北斗市教育委員会（補助：株式会社シン技術コンサル）
調　査　面　積：1443 ㎡（平成 25 年度）、2804 ㎡（平成 26 年度）
遺 跡 の 年 代：縄文時代中期、後期

遺跡の位置

村前ノ沢遺跡は、JR 茂辺地駅から約 1.5Km 西側、茂辺地川右岸の標高 70～74ｍの河岸段丘上に立地する。

その他の検出遺構・遺物などの詳細については本編を参照されたい。

2.扱った資料

分析対象として扱った資料は、平成 25 年・26 年に調査を実施した遺跡からのものである。縄文時代中期、後期と想定される遺構および包含層から土壌を採取し、フローテーション法で処理し、その後、第１次選別で植物種子などを抽出し送付されてきたものである。これらの資料を実体顕微鏡で観察し撮影を行なった。

3.各遺構から出土した植物遺体

タ デ 科　POLYGONACEAE（図版１-１：ＰＤ-９の床直から出土）

縄文中期後葉の９号竪穴住居跡の床面直上からと縄文時代中期～後期の焼土（ＦＳ-24）から、いずれも、酸化した状態[1]で出土。瘦果は三角状卵形。タデ科種子は形態の類似した種類が多いため、詳細な分類は困難である。計測値は長さ1.90×幅1.40（mm）

クリ属　*Castanea* Mill.（図版１-2a：ＰＤ-８（SP-3）の覆土から出土）

縄文中期後葉の８号竪穴住居跡内のピット（SP-3）の覆土からと９号竪穴住居跡の床面直上から合わせて 41 片出土。堅果は三角状偏円形。長さより幅が広く一側面は丸みがあり、反対面は平らな形が多い。子葉の表面には縦皺がある。出土資料はいずれも破損しているが、このような特徴が観察されたことからクリ属と判断される。破片の測定値は長さ 8.00×幅 9.30（mm）

クルミ属 *Juglans* L.（図版１-3a：　Ｐ-23から出土）

縄文時代後期初頭の土坑（底直）から内果皮の細片が８片出土。核表面には縦に浅い溝状の模様がある。これらの特徴からオニグルミ Juglans sieboldiana Maxim と判断される。破片の測定値は長さ 6.40×幅 8.00（mm）

不明１（図版１-4a：ＦＰ-１の焼土から出土）

屋外炉の焼土周辺（縄文時代中期後葉？）から１片出土。資料は破損のうえ保存状態が悪いので分類出来なかった。破片の測定値は長さ 2.70×幅 1.45（mm）

1）酸化状態
炭化せず種子の胚・胚乳が分解されて表皮だけが残っている状態。植物遺体の検出は炭化した資料を対象としている。しかし、検出される資料の中に炭化せず酸化状態で検出されることが多い。こうした出土状態を示すものが後世の混入である可能性を考慮して、札幌市埋蔵文化財センターが同層準から検出された両タイプの植物種子の年代測定を行ったことがある（吉崎・椿坂 1998）。得られた数値はほぼ同一であった。したがって、種子の性質によっては炭化の過程を経ないで残存するもののあることが確認されている。
未炭化：胚・胚乳が分解されずにフレッシュな状態。調査の過程で現生の種子が飛来して混入する場合が多い。

4. 若干のコメント

今回、検出された植物遺体は草本類のタデ科と堅果類のクリ属とクルミ属でその出土数は少数であった。その中で多かったのはクリ属である。

北海道南西部（渡島半島地域）に分布する縄文時代の遺跡から検出できた植物遺体の組成を見るとキハダ属、ブドウ科、コナラ属、クルミ属、クリ属など堅果類が主である。今回、検出されたクリ属とクルミ属は利用の多い食料資源である。

北海道におけるクリ属の自生北限は石狩低地帯以南に分布する。山田等によると北海道南西部におけるクリ属の出現は縄文文化前期からだという。その後、縄文時代後期中葉までには小樽から石狩低地帯までの北海道中央部に達したと考えられている。そして、山田等は考古学的な資料と花粉分析のデータを基にして北海道におけるクリの出現を自然植生の拡大として考えず、人為的現象ではないかと推定している（山田・柴内　1997）。

今後もこうした考古植物学的な事例を蓄積していくことが重要と考える。また、植物遺体の年代測定を実施することも必要である。

引用文献

吉崎昌一・椿坂恭代 1998「札幌市 N30 遺跡から出土した植物遺体」『N30 遺跡』164-172、228-227 札幌市文化財調査報告書 58　札幌市教育委員会
山田悟郎・柴内佐知子 1997「北海道縄文時代遺跡から出土した堅果類」『北海道開拓記念館紀要第 25 号』17-30　北海道開拓記念館

1

タデ科

2a

クリ属子葉　表面

2b

内面

3a

クルミ属　内果皮表面

3b

内面

4a

不明　表面

4b

内面

３　石材鑑定

村前ノ沢遺跡の石材鑑定

アースサイエンス株式会社

１. 石質鑑定の方法

石材を肉眼、ルーペ、簡易実体鏡、マグネットを併用して観察した。堆積岩（礫岩～泥岩、火山砕屑岩など）については、表１の堆積岩の分類基準に基づいて粒度表などを利用して細分した。

表１　堆積岩の粒度階区分と命名（Wentworth, 1922; Schmid, 1981）

通常の堆積岩と火山に由来する物質が多いときでは、粒度階が異なることに注意が必要。

通常の堆積岩の分類

粒径(mm)	非火山性砕屑物（未固結）	（通常）堆積岩
256	巨　礫	礫　岩
64	大　礫	
4	中　礫	
2	細　礫	
1	極粗粒砂	砂　岩
0.5	粗粒砂	
0.25	中粒砂	
0.125	細粒砂	
(1/16=) 0.063	極細粒砂	
(1/256=) 0.004	シルト	泥　岩
	粘　土	

（Wentworth, 1922による）

火山に由来する物質が多いときの分類

粒 径	火山砕屑物（未固結）	火砕性堆積岩（＝火砕岩）
64mm	火山岩塊 火 山 弾	火山角礫岩 凝灰角礫岩 集　塊　岩
2 mm	火 山 礫 （ラピリ）	火山礫凝灰岩
1/16 mm (0.0625mm)	粗粒火山灰	粗粒凝灰岩
	細粒火山灰	細粒凝灰岩

（Schmid, 1981による）

注：荒牧（1979）は火山礫を径2～4mmとしている。

２. 石質鑑定結果

石質鑑定の結果を表２以降に示す。略記号は以下の凡例によっている。

凡　例

火成岩

RY:流紋岩　DA:デイサイト(石英安山岩)　QP:石英斑岩　AN:安山岩(詳細不明)

HbAN:角閃石安山岩　PxAN:輝石安山岩　PO:ひん岩　BS:玄武岩

DO:ドレライト(粗粒玄武岩)　GB:はんれい岩　MGB:変はんれい岩

堆積岩

（非変形：渡島半島では中新世以降の地質）

SS:砂岩(粒度区分困難)　CSS:粗粒砂岩　MSS:中粒砂岩　FSS:細粒砂岩

MS:泥岩　DMS:珪藻質泥岩　TfSS:凝灰質砂岩　TfMS:凝灰質泥岩　TF:凝灰岩

AG:めのう(石英他シリカ鉱物からなる化学的沈澱岩)

QR:石英岩(石英集合体：主として化学的沈澱岩)

（変形：渡島半島では松前層群）

TSS:変形砂岩　TMS:変形泥岩　CH:チャート

変成岩･変質岩

AO:アオトラ(一般に緑色片岩相の変成を受けた凝灰質・縞状の砂泥質岩で，変形は比較的弱い)

GLS:藍閃石片岩　SSS:砂質片岩　BKS:黒色片岩

SSH:珪質頁岩(火成岩の接触変質を受けた泥岩)

SI:強珪化岩(原岩はあるが，詳細不明，石英が多量に生成)

鉱物〔Qz〕:晶洞石英

表２　包含層出土石器

岩石種	個数
流紋岩	39
変形砂岩	22
ドレライト	20
珪質頁岩	15
強珪化岩	9
アオトラ	8
輝石安山岩	5
藍閃石片岩	4
ひん岩	3
デイサイト	3
角閃石安山岩	3
粗粒砂岩	3
中粒砂岩	3
凝灰岩	3
泥岩	2
凝灰質砂岩	2
珪藻質泥岩	2
凝灰質泥岩	1
チャート	1
変はんれい岩	1
変形泥岩	1
黒色片岩	1
砂質片岩	1
晶洞石英	1
石英岩	1

表３　遺構出土石器

岩石種	個数
変形砂岩	27
流紋岩	10
デイサイト	5
ドレライト	4
アオトラ	4
強珪化岩	4
角閃石安山岩	3
変形泥岩	2
輝石安山岩	1
玄武岩	1
珪質頁岩	1
黒色片岩	1

表４　石製品

岩石種	個数
流紋岩	3
泥岩	3
凝灰質砂岩	2
ドレライト	1
凝灰岩	1
細粒砂岩	1
アオトラ	1

図１　包含層出土石器個数ヒストグラム

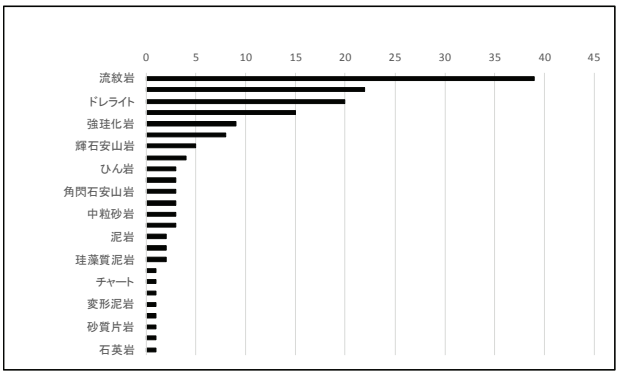


図2　遺構出土石器個数ヒストグラム

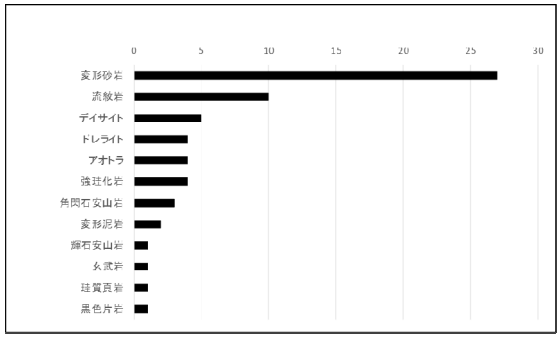
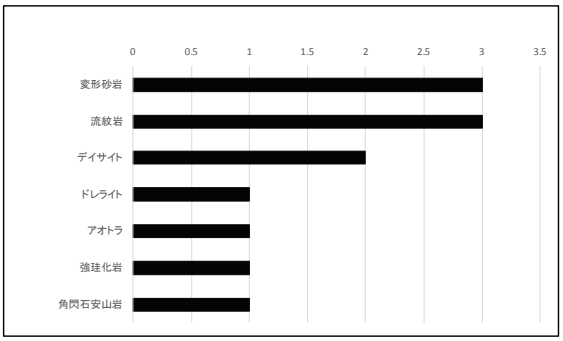


図３　石製品個数ヒストグラム



３．主な石材の産地

石材の同定結果に基づき、それぞれの岩石の供給源について地質学的な考察を行う。

（１）火成岩類

火成岩類としては、はんれい岩・ひん岩～石英斑岩・ドレライト・流紋岩・デイサイト・角閃石安山岩・輝石安山岩・玄武岩が認められた。

（２）変成岩類

１）アオトラ

「アオトラ」は正式な岩石名でなく俗称である。玄武岩質の火山砕屑物が堆積してできた砂質－泥質の縞状互層で、変形作用は通常の片岩ほど強くない。緑色片岩相ないし青色片岩相の変成作用を受けている。神居古潭帯の日高町から平取町にかけて分布する。糠平蛇紋岩体の捕獲ブロックとして多量に見出される（東・加藤，2012）。また、前川（2007）は「アオトラ」がやや高圧の緑色片岩相で形成されたとし、前川ほか（2015）は、それが糠平蛇紋岩体南側の糠平川流域に露頭が分布する（岩清水層群）ことを明らかにした。いずれにしても両地域は近接にしており、岩清水層群由来の岩石である可能性が高い。この地層は局所的にリーベック閃石などのアルカリ角閃石が出現することが知られている。ただし、前川（2007）は遺跡に出現するアオトラ製品がアルカリ角閃石を含む青色片岩相であることはないと見ている。

２）片岩類

片岩類としては黒色片岩・藍閃石片岩・砂質片岩が認められた。

藍閃石片岩は玄武岩質の火成岩や火砕岩が、付加体深部で高圧変成作用を受けて生成した青色片岩の１種である。北海道では神居古潭帯に分布する。

黒色片岩は、変形泥岩（粘板岩）よりも高圧の変成作用を受けた岩石である。

砂質片岩は砂岩由来の片岩である。

片岩類はいずれにしても、付加体深部で低温高圧型の変成作用を受けた岩石である。北海道では神居古潭帯に分布する。

（３）堆積岩類

１）正常堆積物に由来する堆積岩

砂岩・泥岩・凝灰質砂岩・珪藻質泥岩は新第三紀の地層に由来すると考えられる。これらは北斗市周辺を含め、渡島半島に広く分布する。

２）付加体構成岩類

堆積岩類のうち、変形砂岩（硬砂岩）・変形泥岩（粘板岩）・チャートは付加体に由来する岩石である。これらの岩石は一般に付加体で強く変形作用を受けた岩石である。

村前ノ沢遺跡のある北斗市周辺には、「松前層群」と呼ばれる中生代の付加体堆積物が分布している。

３）珪質頁岩

珪質頁岩とは松前層群中にも珪質（微細な石英など珪酸分の多い）の頁岩があるが、ここでは変形していない新第三紀の八雲層（や その相当層）の泥岩に由来する岩石が珪化したものを言う。この岩石は泥岩・硬質頁岩などの地層に火成岩脈が貫入したときの接触変質帯として生成するものである（藤田ほか、2005；森町教育委員会 編、2006）。

このような珪質頁岩は北斗市周辺では、木古内の大釜谷川や大当別川の上流、あるいは亀田半島の川汲川・黒鷲岬周辺などに多量に分布する。

４）流紋岩～デイサイト

北斗市周辺において、流紋岩は木古内町北部の山地に広く分布する。またデイサイト（石英安山岩）は北斗市西部や亀田半島の川汲川周辺に広く分布する。

５）ドレライト～玄武岩

ドレライト（粗粒玄武岩）～玄武岩、新第三紀の地層の所々に貫入しており、北斗市内にも散在する。亀田半島には川汲のドレライトとして知られる岩脈群が分布している。

６）安山岩

安山岩類は各時代の地層の所々に存在する。北斗市周辺で新鮮世の峠下火砕岩類などに含まれる。また、駒ヶ岳、横津岳、函館山などに第四紀の安山岩類が分布する。

７）めのう

めのうは峠下火砕岩類など熱水活動を受けた火山岩類の分布域によく見られる晶洞に縞状に沈澱したシリカ鉱物からなる化学的沈澱岩である。函館市～七飯町の蒜沢川はめのうが多い沢として知られている。

８）強珪化岩

強珪化岩としたものは何らかの原岩があって、それを石英などが置換した岩石である。したがって、めのうや石英岩など、岩石の隙間に沈澱したものは含めない。強珪化岩も多くは熱水変質を伴う火成活動に関係して形成される。したがって，時には強珪化岩とめのうが１つの岩石中に共存していることがある。強珪化岩のうち、赤色、緑色等美しいものはしばしばジャスパーと呼ばれる。なお、赤色の珪化岩と赤色のチャートは非常によく似た外観を呈するので、鑑定に当っては注意が必要である。

引用文献（ABC 順）

アースサイエンス(株)（2015）：ショロマ１遺跡発掘事業 石材採取地分析委託業務 報告書．厚真町教育委員会．

東　豊士・加藤孝幸（2012）：神居古潭帯・糠平岩体由来のロジン岩化蛇紋岩質テクトナイト．むかわ町立穂別博物館研究報告，27，7-16．

藤田　登・加藤孝幸・横山英介（2005）：渡島半島における黒鷲岬巨大珪質頁岩原産地－森町鷲ノ木遺跡群の調査から．考古学ジャーナル，535，29-32．

前川寛和（2007）：三内丸山遺跡出土の磨製石斧の岩石学的特徴と石材産地特定の可能性について．特別史跡 三内丸山遺跡 年報，10，15-27．

前川寛和・大塚和義・山本鋼志・合地信生（2015）：三内丸山遺跡出土の緑色磨製石斧の岩石学的特徴とその原産地．日本地質学会 第 122 年 学術大会，要旨．

森町教育委員会 編（2006）：「茅部郡 森町 埋蔵文化財調査 報告書 鷲ノ木４遺跡〈分冊〉自然科学等による諸分析」，Ⅳ 石質鑑定（アースサイエンス(株)）．

Ⅳ　総括

１．遺構について

村前ノ沢遺跡において検出された遺構は、平成 25 年度・26 年度の２ヶ年で竪穴住居跡 10 軒、土坑 45 基、落し穴２基、屋外炉４基、焼土 90 か所である。

竪穴住居跡は調査区内を走る支沢の南側、南東方向に延びる舌状台地尾根周辺の平坦面を中心に分布する。帰属時期は縄文時代中期後葉５軒、後期初頭３軒、後期前葉２軒である（推定含む）。うち１軒は埋没後の中期後葉住居（ＰＤ－10）の窪地を再利用した後期前葉のものである（ＰＤ－３）。最大でも長軸４ｍ前後と総じて小規模である。

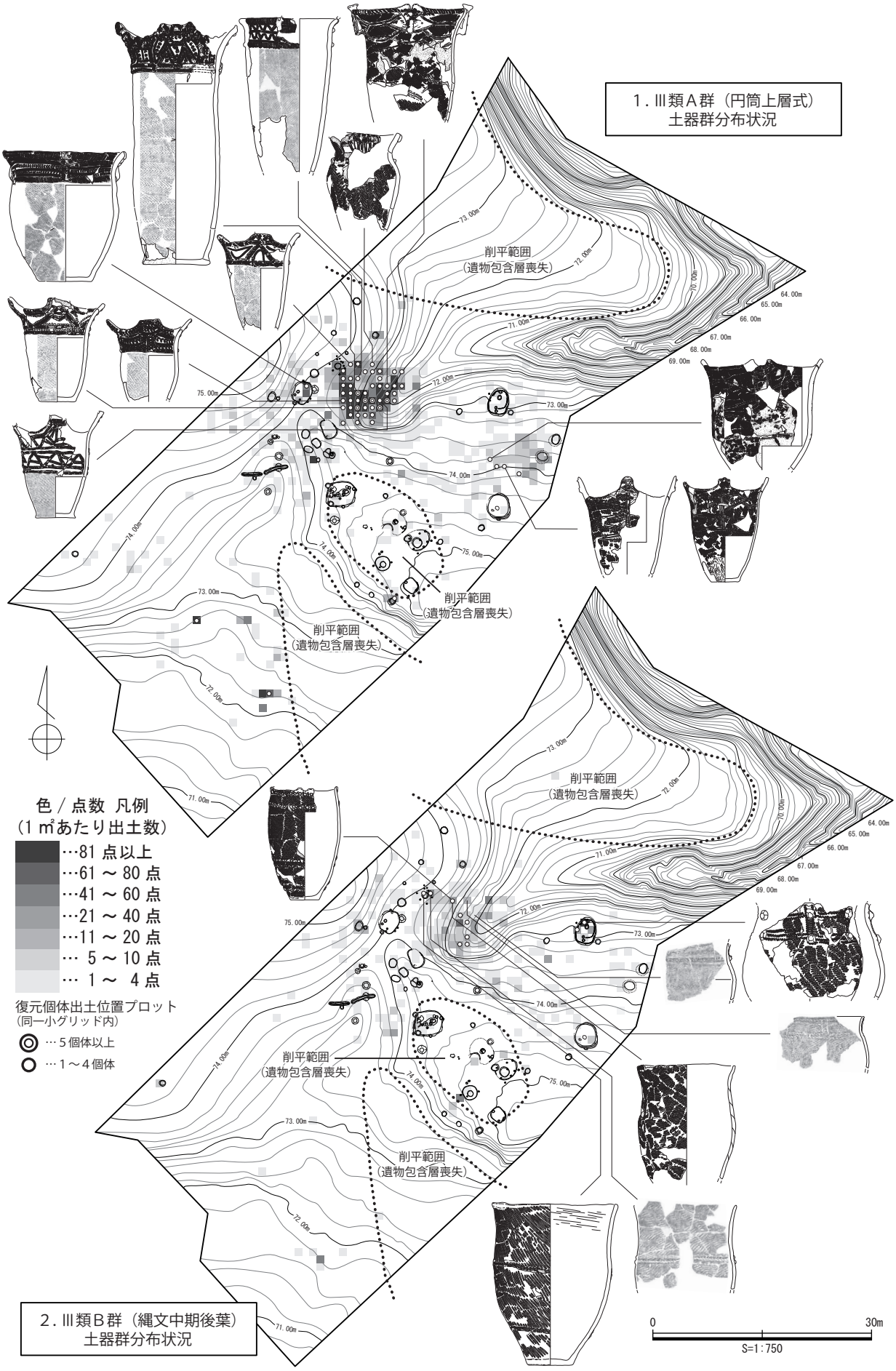
北側斜面の支沢縁辺で検出されたＰＤ－２は、やや卵形に近い楕円形のプランと、縄文時代中期後葉の竪穴住居跡の特徴的な附属施設である尖端ピットを有する。同様の尖端ピットあるいは類似施設を有すると判断される竪穴住居跡は、同じく北側斜面に位置するＰＤ－１・８・10 である。これらは、ＰＤ－１・８間に所在するＰＤ－９を含め同期の集落を構成していたものと推定される。ＰＤ－１に近接して検出されたＰ－11 では、坑底面からノダップⅡ式相当の深鉢がほぼ完全な形で出土しており、ＰＤ－２床面出土の大安在Ｂ式一括資料と比して若干の時間幅をうかがわせる。なお、尾根南側にも近似した住居構造を有するＰＤ－７が所在しており、削平による喪失部・調査区外を含めより広い範囲に集落が展開していた可能性もあるが現時点では不詳である。このほか、縄文時代後期初頭～前葉の竪穴住居跡が尾根部平坦面から南側斜面を中心に所在する（ＰＤ－４～６）が、削平が著しく遺存状況は概ね不良である。ＰＤ－４では「複式炉」様構造の可能性がある併設屋内炉、ＰＤ－６では石囲炉に伴う列石の一翼と思われる礫配置などが確認されている。

土坑は、茂辺地４遺跡調査などで確認された「寸胴鍋」様のものを含む小型の貯蔵穴と推定されるものが多い。概ね分布域を竪穴住居跡と同一にし、帰属時期についても同じく中期後葉～後期初頭を主体とするものと推定される。その中で趣を異にするのが調査区東端に所在する２基のフラスコ状土坑（Ｐ－25・26）である。これらの遺構内および周辺グリッドでは中期中葉の資料が集中して出土しており、調査区内に展開する遺構群・集落とは時期を別にする可能性が高い。（時田）

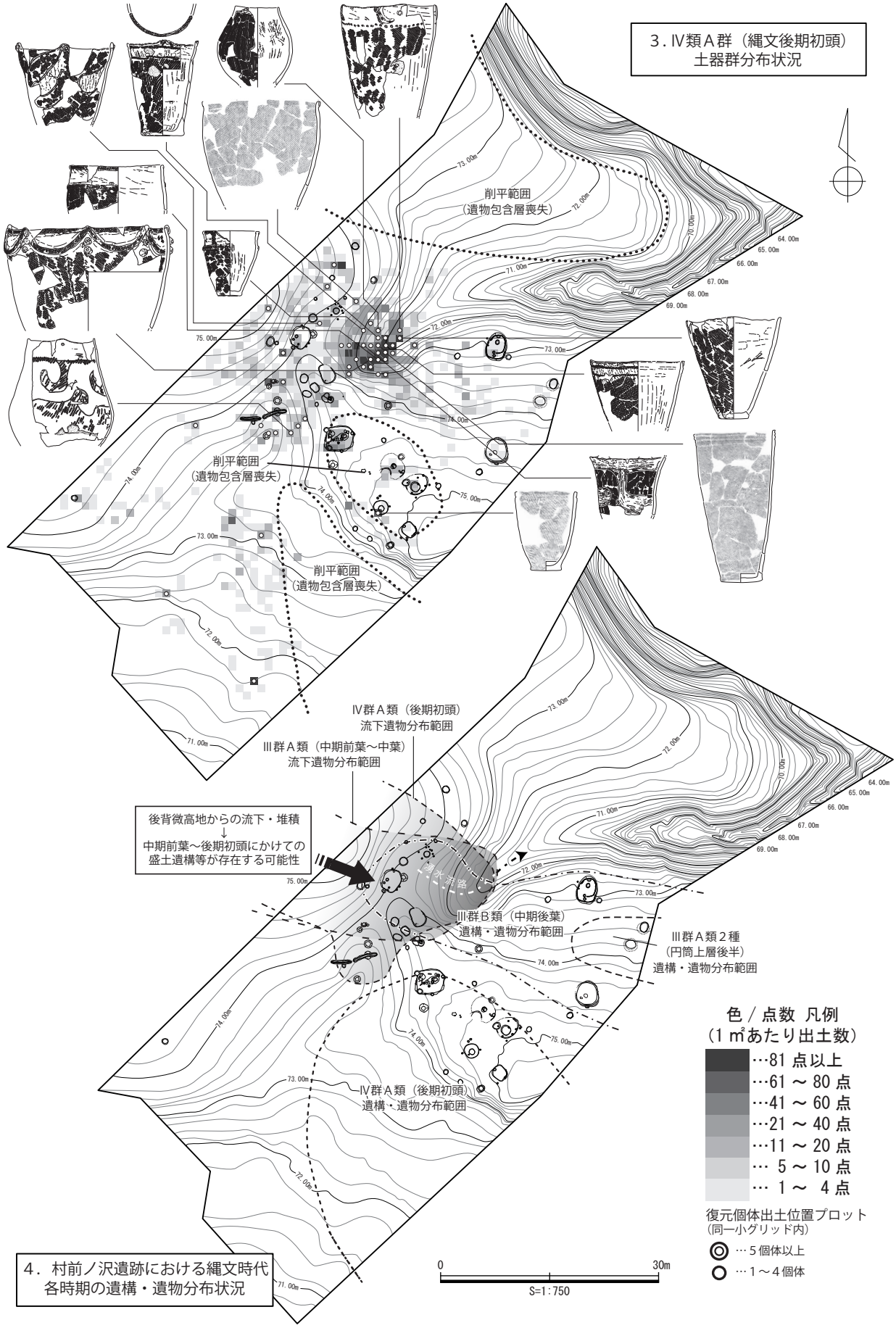
２．遺物について

（１）遺物の分布

本遺跡における遺物出土数は 169,137 点を数え、その大半が土器である（147,049 点、86.9%）。うち遺構から出土したものは 4,822 点で全体のわずか３％弱に過ぎない。他はすべて遺構外・遺物包含層出土の資料であり、その殆どは調査区北東へと流下する支沢始端の窪地から出土したものである。狭小な範囲に大量の遺物が一括して埋蔵される状況から、盛土・捨て場等の可能性を想定し調査・観察を行ったが、人為的な廃棄あるいは再堆積の痕跡は確認できなかった。複数時期に係る遺物が層序的関係をもたず同一の遺物包含層（Ⅲ層）に混在して遺存しており、中でも主体を占めるのは、縄文時代中期前～中葉・円筒上層ａ～ｄ式に相当する資料と縄文時代後期初頭・天祐寺式及びその後続型式に相当する資料であった。うち後期初頭の資料については、同時期に帰属する竪穴住居跡をはじめとした遺構群が調査区内に所在するものの、その主たる分布域は窪地の所在する調査区西側ではなく東側、舌状台地尾根上の平坦面から南側斜面と大きく離れた位置にあり一致せず、また円筒上層式相当の資料についても、前半期・円筒上層ｂ式を中心として 100 に迫る個体が復元可能であったにも関わらず、調査区内で同時期に係る遺構は検出できなかったこと、窪地より見て西側斜面の上位平坦面において、それら中期前半遺物を含む層が、本来であれば層序的に上位にあるはずの中期後葉～後期初頭の遺構を被覆する逆転した状況が確認されたことなどから、窪地堆積を含む本遺跡出土の資料の大半は、西側調査区外からの流入・流下であると仮定するに至った。



第Ⅳ－１図　村前ノ沢遺跡 各時期土器群の分布状況（1）



第Ⅳ－２図　村前ノ沢遺跡 各時期土器群の分布状況（2）

この仮定についての検討とあわせて、調査区内での遺物分布傾向を視覚化することを目的として、本遺跡出土土器群の分類をもとに各群土器それぞれの小グリッド（１㎡）単位における出土点数を算出し、さらに一定数ごとに段階化したグレースケールの濃淡を当てはめて図示したものが第Ⅳ－１図ならびに第Ⅳ－２図である。分類の対象としたのは、接合・復元作業の前段階で抽出した個体判別が可能であった土器資料のうち、包含層および遺構内出土の遺物計 21,925 点である。

まず、Ⅲ群Ａ類・円筒上層式の分布傾向（第Ⅳ－１図－１）についてであるが、おおまかに二つの区域に分かれる。ひとつは調査区西側、支沢始端窪地内を中心とした円筒上層ａ式～ｄ式の分布である。円筒上層式の各段階にまたがる多数の復元可能個体を有するものの、その範囲は西側微高地－窪地を結ぶ幅 15mほどの帯状の範囲にとどまり、窪地を越えた拡がりはみせない。もう一方は東側調査区界沢沿い、フラスコ状土坑群（Ｐ－25・26）周辺の分布である。本章１．において先述したが、沈線文を主文様とする円筒上層ｅ式に相当する資料が集中して出土しており、その分布は調査区東境界まで途切れない。あるいは、沢沿いに調査区外・舌状台地尖端側へさらに拡がる可能性もある。次に、調査区内竪穴住居跡の主たる帰属時期であるⅢ群Ｂ類・中期後葉の土器群の分布傾向（第Ⅳ－１図－２）をみると、窪地周辺への集中傾向を見せるも概ね遺構の分布域とその範囲・密度をほぼ同じくする。第Ⅳ－２図－３は縄文時代後期初頭の土器群分布状況である。調査区西端から斜面沿いに支沢始端窪地まで連なる帯状の分布を見せる。また、後期初頭住居の所在する尾根頂部から南西方向、削平部より下位の斜面部に若干の分布が確認できる。

以上を勘案しまとめたものがⅣ－２図－４である。すなわち、本調査出土遺物のうち、支沢始端窪地において大量の集中出土をみせたⅢ群Ａ類のうち円筒上層ａ～ｄ式の群ならびにⅣ群Ａ類の大半については、当初の仮定通り調査区外・西側斜面上からの流下堆積である可能性が高い。なお、調査区の西側後背には標高 80mほどの平坦面が広がっており、出土遺物の量と主たる帰属時期、ならびに良好な遺存状況などから勘案して、同区域に縄文時代中期～後期の集落あるいは盛土といった大規模な遺跡・遺構が埋蔵されている可能性が想定される。また、調査区東側についても、本遺跡と近接する茂辺地４遺跡で同様の地形条件においてフラスコ状土坑と円筒上層ｄ～ｅ式期の遺物を多数埋蔵する竪穴住居跡とが隣接して検出されていることなどから、同様の時期の集落等が所在する可能性がある。いずれも遺跡の範囲としては未登録の区域であるが、今後開発あるいは造成等による掘削が企画された際には注意を要するものと判断される。（時田）

（２）土器

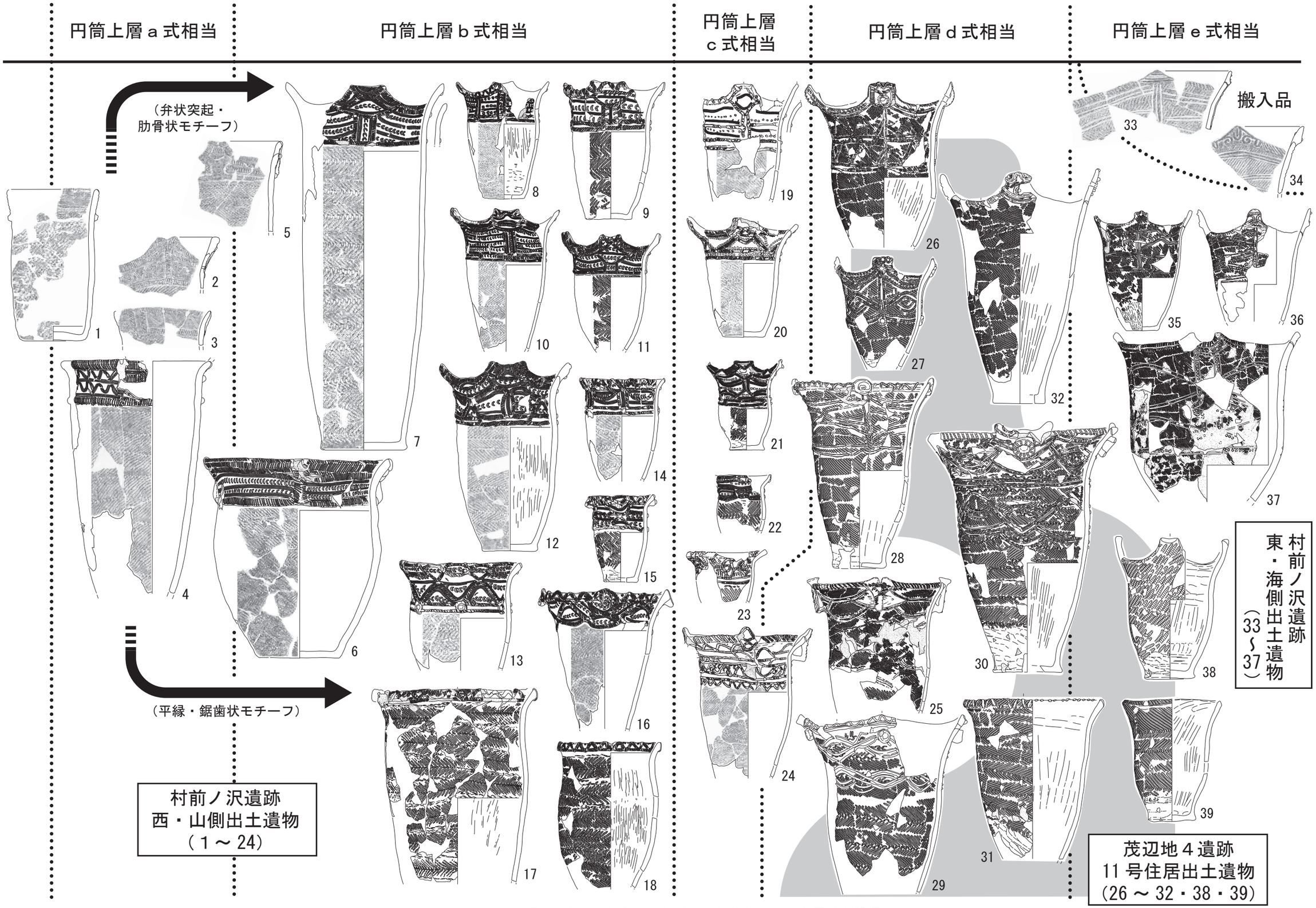
a. 縄文時代中期前葉～中葉の土器群（円筒上層式）について

本遺跡では、先述した支沢始端の窪地から円筒上層ａ式～円筒上層ｄ式の各期、調査区東側から円筒上層ｅ式相当の資料が得られている。円筒上層ａ式・円筒上層ｄ式資料についてはやや少ないが、後者については近接する茂辺地４遺跡でこれを補完する時期の資料が得られており、これらを総合して当地における円筒上層式の編年としてまとめたものが第Ⅳ－３図である。また、それらに係る諸要素ごとの変遷と相関について想定し、図化したものが第Ⅳ－４図である。

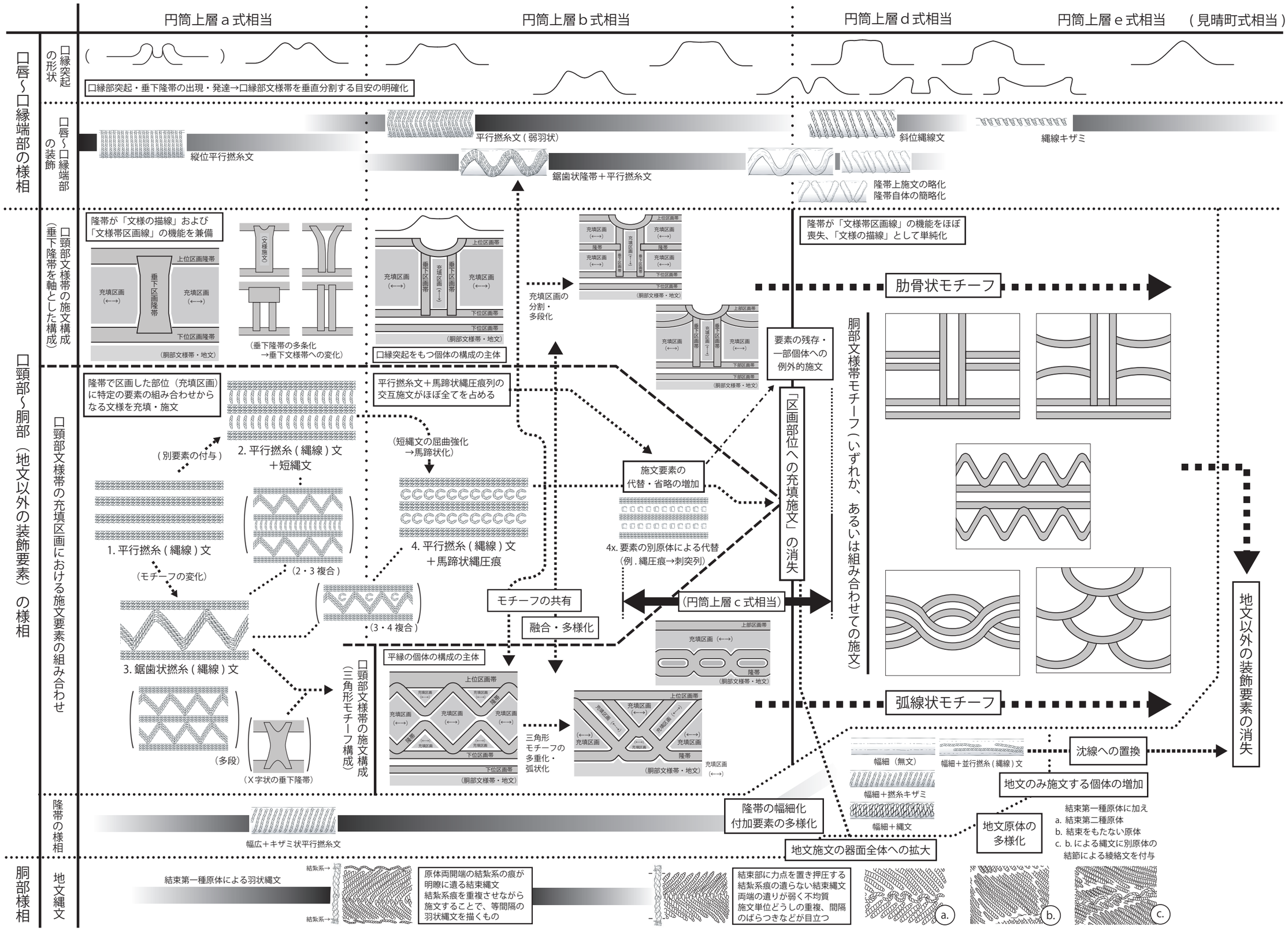
紙面の都合もあり個別の詳述は避けるが、いくつかの点において若干の所感を述べる。

まず、本遺跡の円筒上層ｂ式以前の土器群について述べると、器形・文様構成等に一定の統一性を有する。口縁部－胴部の文様帯区画、文様帯内に施文されるモチーフ・施文要素・順序（例外なく隆帯による区画→平行縄線文・馬蹄状縄圧痕の順である）等について、一部要素の交換など若干の個体差はあるものの大きく逸脱しない。これはある種の規格性と言い換えてもよいものである。

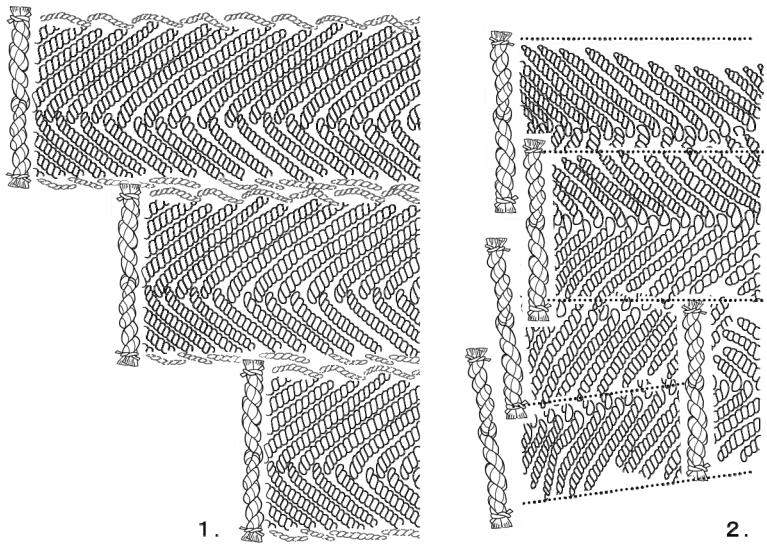
その具体例の一つとして挙げられるのが胴部地文縄文の施文における技法である。円筒上層ｂ式相当の資料における胴部の地文縄文はごく少数を除き結束第一種による羽状縄文であるが、さらに



第Ⅳ－３図　村前ノ沢遺跡・茂辺地４遺跡出土の円筒上層式土器編年



第Ⅳ－４図　村前ノ沢遺跡・茂辺地４遺跡出土の円筒上層式における各段階諸要素の相関



1. 結紮系痕を上下端に遺す結束第一種縄文の単位切合と原体位置モデル

２．多重する結束第一種縄文の単位切合と原体位置モデル

1. は円筒上層ｂ式の胴部にみられる直前の施文単位における原体開端の結紮系痕を目安に縄文を重ねていくもののモデル。原体縄の長さ自体を一定の「尺」として利用するため等間隔かつ平行な羽状縄文を施文することができる。

２．は円筒上層ｅ式資料にみられた結束部を目安として縄文を重ねている例。単位の重複が著しく、原体両端への押圧が不安定なため器面の凹凸等の影響で単位幅や傾きにばらつきが生じている。

第Ⅳ－５図 円筒上層ｂ式・ｅ式における結束第一種原体による縄文（地文）施文過程の復元

その多くで施文単位の上下端に原体開端を結紮した系（いと）の痕が綾絡文状に遺る。結紮系は０段縄が殆どであるが一部１段縄が混じる。注目すべきは、この結紮系痕は上下両端いずれも遺っており、隣接する上位・あるいは下位の施文単位における結紮系痕をなぞるように重複、あるいは近接平行して確認される例が極めて多くみられることである。この特徴的な遺存状況から、地文縄文の施文技法について推定し施文単位の切り合いと係る原体の位置について図上復元したものが第Ⅳ－５図－１である。加えて、同じ結束第一種原体を用いる円筒上層式後半の地文縄文について、比較対象として同様に施文単位等について図上復元したものが同図２である。

これをみると、結紮系痕は偶々器面上に遺った類のものではなく、等間隔に整然と羽状縄文を連続して施文するための、当該期の縄文土器製作における統一的な技法のひとつであった可能性が考えられる。この技法的特徴は、各要素の統一性がくずれ別要素への置換・省略が進む円筒上層ｃ式において徐々にみられなくなり、円筒上層ｄ式以降の個体では（偶々結紮系痕が器面に遺るものはあるが）全くみられなくなる（あるいは、これらの時期に増加する結束第二種原体による地文施文や地文原体とは別の結節原体により付与される綾絡文は結紮系痕を模したものであるかもしれないが、単なる装飾要素としての付与であり円筒上層ｂ式以前のそれとは文脈を異にするものである）。

ここでは地文縄文についての例を挙げたが、円筒上層ｄ式以降についてはこのほかにも土器製作に係る諸要素について、円筒上層ｃ式以前の規格的な様相と比して良くいえば多様な、悪く言えば統一性の無い展開を見せる。「円筒上層ｃ式」という群についても（あくまで本遺跡資料においては、の但しをつけるが）、明確に画期される段階として捉えるには若干の疑義が残った。同式指標とされる刺突文列（概して「半截(栽)竹管文」と呼称される報告例を多く見かけるが、少なくとも本遺跡出土例では断面角型の棒状工具によるものか串状工具による。同種の角型刺突を称して「半截竹管文」としている報告も少なからずあり、適切ではないように思われる）を施す個体は圧倒的に少数であり、施文構成も刺突文以外の要素でほぼ円筒上層ｂ式と変わらないもの・平行撚糸文の省略など簡略化や粗雑化が進むが幅広の隆帯など文様構成の諸要素において円筒上層ｂ式を大きく逸脱しないもの・円筒上層ｄ式に近い幅細の隆帯に刺突列が沿うものと様々であり、刺突文以外で一箇の群としての共通性を画期するのはやや難しい状況であった。言うなれば、円筒上層ｂ式以前という統一的・規格的な様相をみせる群と円筒上層ｄ式以降の雑多な多様性を見せる群との端境、遷移段階と捉えるのが本遺跡における「円筒上層ｃ式」の位置付けとしては妥当なように思われる。

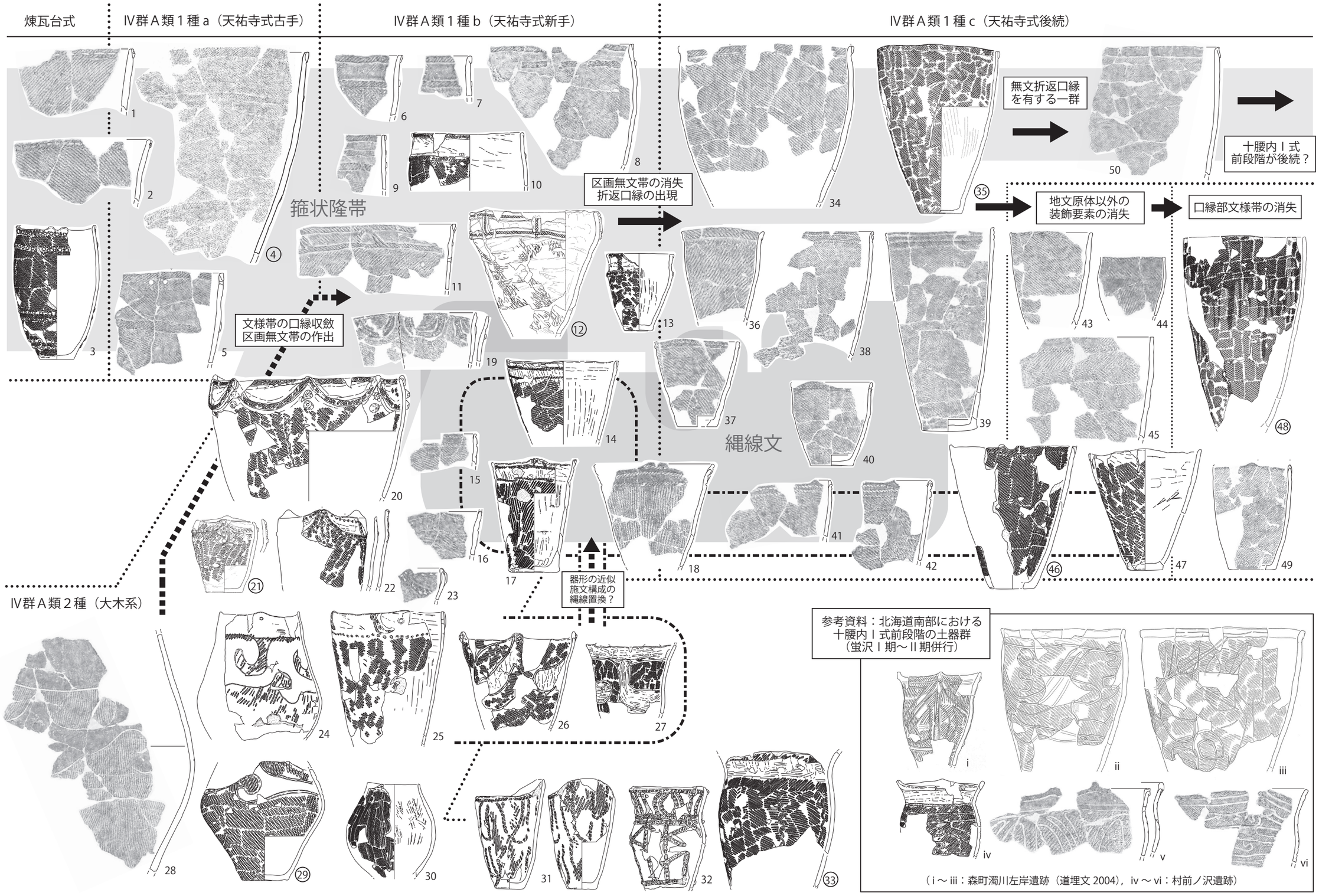
円筒上層式末期まで見られる肋骨状・連弧状モチーフの系譜についてはおそらくは上層ａ式までその系統を遡りうるものであるが、こうした連綿性とは別に「土器」あるいは「土器づくり」に求められる社会的な価値・位置というものについて、円筒上層ｂ式以前とｄ式以降については大きな差異を認めうるのではないか、というのが本遺跡における円筒上層式を総覧した上での所感である。これが地域集団における社会構成自体の変容によるものであるか、さらに円筒土器文化総体に通じるものであるか極地集団的なものであるかは、他遺跡の資料も交え、土器以外に係る要素も含めたより詳細な検討が必要である。今後の課題としたい。（時田）

ｂ．縄文時代後期初頭の土器群について

第Ⅳ－６図は本遺跡出土資料ならびに茂辺地４遺跡出土の縄文時代後期初頭に相当する土器群について分類し、その編年を試みたものである。大筋は既刊である茂辺地４遺跡発掘調査報告書総括において行った分類に沿うが、一部新規資料の発見に伴い改訂を加えている。系統としてはおおまかにふたつに分けられる。主体をなすのは大安在Ｂ・ノダップⅡ・煉瓦台式といった中期後半～末葉の北海道在地系土器群の系譜にある天祐寺式の古段階・新段階およびその後続群の相当するⅣ群Ａ類１種である。もう一方は、東北地方で展開する大木式の最末期である大木 10 式ならびにその後続型式（大木系）に相当するⅣ群Ａ類２種である。

Ⅳ群Ａ類１種に関しては、茂辺地４遺跡報告においては、主に箍状隆帯の貼付を伴う群について分類を行い、天祐寺式古手にあたる群（Ⅳ群Ａ類１種ａ）から新手（Ⅳ群Ａ類１種ｂ）、さらに後続する型式（Ⅳ群Ａ類１種ｃ：茂辺地４遺跡報告時のⅣ群Ａ類３種が相当）と至る過程で、箍状文様帯の器体全面から口縁部への収斂・無文帯の作出→無文帯の消失・箍状文様帯の単純化→箍状要素そのものの消失、という連続した遷移を辿るものと推定した。本遺跡ではこれに加え、茂辺地４遺跡では寡少であった箍状に縄線文を巡らす群（以下「箍状縄線文群」と仮称する）についても一定数の資料が得られたため、これも含め考察を実施することが可能であった。その結果、箍状縄線文群についても、天祐寺式新式→後続と同じく、口縁部に箍状文ではさんだ無文帯を作出する群と、区画無文帯をもたず口縁端部に文様が収斂する群が確認でき、器形・施文構成等についても共通性が確認できたことから、同様の遷移状況にあるものと推定した。ただし、天祐寺式古手（Ⅳ群Ａ類１種ａ）に相当する「無文帯を持たず、口縁端部～底部にかけて箍状縄線文が数条めぐる」個体については確認できず、必ずしも天祐寺式と全く同根とは言い難い状況にある。箍状縄線文群のうち無文帯を有する群（14～18）は、突起を有する口縁や底部から大きく広がりながら立ち上がる等、器形的特徴もより大木系に近似している。地文の施文方向等についても斜位回転による横走・縦走と天祐寺系とはやや趣を異としており（無文帯をもたない同系の群については天祐寺系と同様、原体縦回転による斜行縄文が主体である）、沈線を縄線文に置換するなどして、Ⅳ群Ａ類１種ｂ段階において発生した在地系の製作技法による大木系の模倣群である可能性が考えられる。同様の器形的特徴をもつ個体は、以降のⅣ群Ａ類１種ｃにおける各段階でも確認できる（41・42・46・47）。

次に、天祐寺式系（Ⅳ群Ａ類１種）と大木系土器群（Ⅳ群Ａ類２種）の相関についての本遺跡ならびに茂辺地４遺跡資料を総覧しての所感を述べる。Ⅳ群Ａ類２種にあたる大木 10 式ならびに後続型式の土器群のうち口縁部に無文帯を有する群において特徴的な文様のひとつに、口縁突起下に垂下するＣ字あるいはＪ字状を呈する隆帯の貼付がある。本遺跡ならびに茂辺地４遺跡出土の同群においても同様の隆帯を有する個体はいくつか散見され、モチーフとしてはＣ字状（23・25）のほか「人」字状に貼付される例（21・22）がみられる。興味深いのは、口縁部無文帯＋「人」字状モチーフの隆帯という組み合わせを有する個体が、Ⅳ群Ａ類１種ｂの個体においても見られる（11）ほか、Ⅳ群Ａ類１種にみられる幅広の隆帯と大木系の文様構成を兼備する両群の在地系折衷型式と推定される個体（19・20）においても確認されていることである。なお、箍状縄線文群においても、



第Ⅳ－６図　村前ノ沢遺跡・茂辺地４遺跡出土の後期初頭土器群編年
（〇付数字のものは茂辺地４遺跡出土、ほかは村前ノ沢遺跡出土）

無文帯に「人」字状（15）あるいは「C」字状（16）の縄線文を施す個体が確認されており、同様の関連性をうかがわせる。これまで、天祐寺式新手の特徴である文様帯の収斂ならびに口縁部無文帯の作出には大木系の影響が想定されてきたが、同一・近接遺跡出土の在地系・大木系およびその折衷型式の３系統に共通した特徴が見出せたことはその関係性を追認する上で大きな意味をもつものと考えられる。その一方で、本遺跡における在地系の土器群と大木系の土器群における相関関係を見出せるのはこれらに関連する一部要素に限定されるのもまた事実である。例えば大木系の胴部に展開する充填縄文・磨消縄文・沈線文等からなる装飾要素を付与する個体はⅣ群Ａ類１種に帰属する個体の中にはみられなかった。Ⅳ群Ａ類２種に属する個体も総体に対して少数であり、時間的に遷移するなかで、両土器群の相関関係が一定かつ継続的であったとは判断し難い。

以上のように、本遺跡における後期初頭土器群においては、在地系と大木系の二系統の確認とその相関の様態において一定の整理・把握が可能であった。だが、必ずしもこれが同時期遺跡すべてに適用が可能なものとは考え難い。今後他の各遺跡でも同様の資料分析が行われ、比較検討によりいわゆる「涌元式」に総称される該当期の曖昧模糊とした土器群相関の詳細な把握とともに、縄文時代中期から後期への遷移期における当地の文化様相を繙（ひもと）く端緒となれば幸いである。（時田）

（３）土製品

本遺跡出土の土製品には、土偶・環状土製品・匙状土製品・舟形土製品等がある。土偶類については１点を除き板状土偶およびそれに類する形状をもつものであり、これらは全て縄文時代中期・円筒上層式期に帰属するものと推定される。頭部を欠損するものが多いが遺存するものについてはいずれも顔面表現が見られなかった。これは、近接する茂辺地４遺跡における板状土偶においても共通してみられた特徴である。また、脚部先端を爪先・踵を有する足裏状に成形する例も複数個体みられており、当地における土偶製作における共通事項であったものと推定される。この他、全長全幅いずれも３㎝ に満たない極小の菱形土偶も出土している。腕部尖端を貫通する横孔が穿たれており、垂飾品としての機能を有していたものと推定される。板状土偶腕部ならびに腋下部には貫通する孔が穿たれる例がままみられるが、それらの機能を類推する上で参考となる事例といえる。

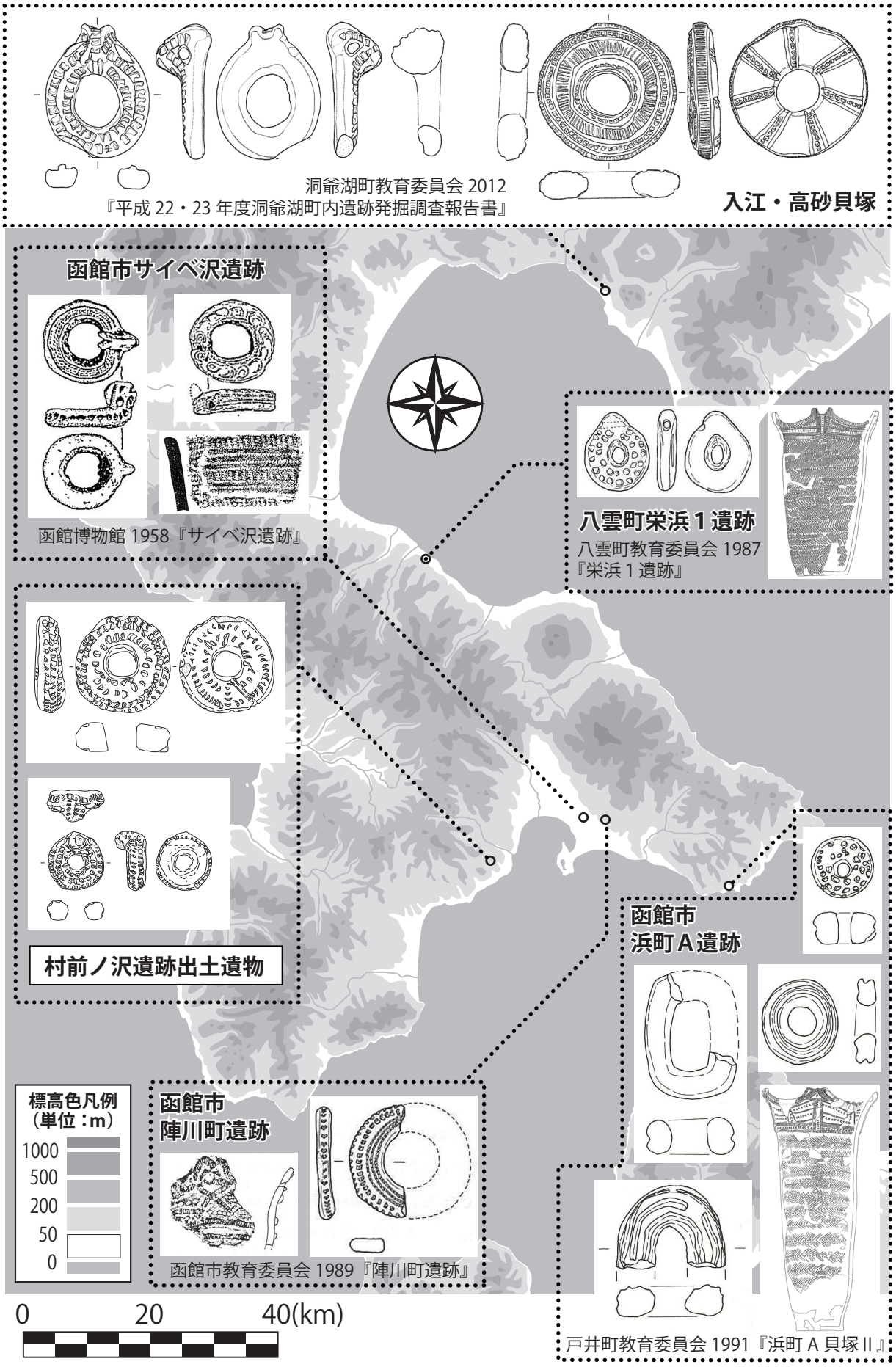
土偶以外で特記すべきものとしては、器面に刺突文の加えられた２点の環状土製品があげられる。いずれも支沢始端の窪地周辺で包含層中より出土しており、列状を呈する刺突文の様相から、周辺で多量に出土している円筒上層式前半期に相当する資料であろうと推定される。２点のうち、小型のものについては表裏２面のうち一方にのみ刺突列が施され、もう一面は無文であり平滑・顕著な調整が加えられている。刺突列を施文する面には突起が付与され、その基部に貫通孔が穿たれていることなどから垂飾品としての機能が推測される。一方、もう一点である大型のものについては、表裏両面に刺突列が施され、突起・穿孔ともに有さない。

これらに類した環状土製品は北海道南部に所在する他遺跡でも類例がみられる。それらについて、該当遺物ならびに共伴する又は同一層より出土する資料について抜粋・図示し、加えて地図上に遺跡位置をプロットしたものが第Ⅳ－７図である。共通する特徴としては、突起・穿孔等の垂飾機能に係る成形がなされるものについては装飾は片面にのみなされ、単純に環状を呈するものについては表裏両面に装飾が施される。いずれも円筒上層式前半期・円筒上層ａ～ｃ式が伴うことから、当該時期・地域における定型的な垂飾品のひとつであった可能性が考えられる。（時田）

（４）剥片石器

剥片類は、平成 25・26 年の２ヵ年の調査により総点数にして 11,358 点が出土している。うち素材・剥片（Ⅴ・Ⅵ群）などを除く剥片石器は 3,167 点で約 28％を占める。遺構からの剥片類の出土点数は 1,264 点で全体の約 11％、うち剥片石器は 60 点で同類全出土数の２％未満に留まる。

調査区全体での出土状況は支沢始端部周辺から北西側緩斜面上に集中的に分布する。これは、土



第Ⅳ－７図　縄文時代中期前葉・環状土製品の分布および共伴・同一層資料
（土製品縮尺は 1:3、土器に関しては任意・不同）

器の出土分布状況と同じく、周辺調査区外の微高地からの流下に由来するものと考えられる。大量の遺物が出土した支沢始端窪地における出土数は 565 点で全剥片類出土数の約５％に留まるが、その出土割合は剥片石器が約 47％を占めている。

以下、全体的な出土傾向と、出土数の多いスクレイパー・尖頭器類について若干の考察を述べる。

素材・剥片などを除く剥片石器の出土総数は 3,167 点、その内訳はスクレイパー類が最も多く 2,523 点(約 80％)、次いで石鏃が 104 点(約３％)、石匙が 87 点(約３％)、石錐が 56 点(約２％)、石槍が 24 点(約１％)、箆状石器 10 点(約 0.3％)である。その他、破損程度が大きく器種の特定が困難なものが 363 点(約 12％)出土している。これら剥片石器に使用される石材は珪質頁岩・黒曜石・メノウ・珪化岩などがあるが、その大部分を珪質頁岩が占めている。黒曜石・メノウは出土数としては極少数であるが、その大部分は尖頭器類の素材として使用されたものである。石鏃は形態的に有茎ものと無茎のものとに分けられる。出土数は有茎のものが圧倒的に多く、中でも凸基形のものがその大半を占める。返し部が不明瞭で菱形に近い形状を呈するものもある。凹基形のものは極少数である。無茎のものは平基形２点、凹基形２点、円基形１点の５点のみである。特徴的なのとしては、凹基形で側縁中央部に括れをもち、さらに基部が二股状に作出されたもの(第Ⅱ－83 図４)が挙げられる。石槍は 24 点出土しているが、破損により形状が不明確なものも多い。形態的には柳葉形・木葉形を呈するものと有茎のものが出土している。特徴的なものとしては、上下部に先頭部と返し部状の括れが作出された黒曜石製のもの(第Ⅱ－84 図・55)が挙げられる。近隣の類例では、函館市（旧南茅部町）臼尻Ｂ遺跡（南茅部町教委 1985）・大船Ｃ遺跡（同 1996）に「独鈷形ナイフ」として報告されているものがある。石錐は 56 点出土しており、その多くが不定形剥片の一端に機能部が作出される簡略的なものである。両面全面に調整加工が施される棒状のもの、石鏃転用品なども出土しているが数量的には少数である。石鏃転用品には顕著な磨滅痕が認められる。

出土数の最も多いスクレイパー類であるが、その製作状況は概して簡略的で、刃部のみに調整加工が施されるものが大部分を占めている。調整加工が全周縁に及ぶものは少なく、さらに片面・両面を問わず器面全面に施されるものはさらに少ない。形態的には縦長の不定形剥片を素材とするものが主体をなし（約 85％）、刃部が側縁部に作出されるものが多い。このほか特記すべき事項としては、部分的に光沢をもつものが多数確認されていることが挙げられる。肉眼観察によるものではあるが、明確に光沢と判断できるものは、スクレイパー類の 18％にみられた。これら剥片石器に遺る光沢面については、石匙等で植物質の加工などに関連すると考察した先行研究もあり（高橋 1991・2006）、本遺跡出土の資料についても同様の用途の可能性が推定される。（三上）

（５）礫石器

礫石器は 2,521 点出土した。遺構内から 194 点、包含層からは 2,327 点である。

遺構出土のものとしては、竪穴住居跡出土のが 108 点と約半数を占める。うち床面出土のものは 10 軒中８軒で計 27 点（石皿類 10 点・敲石５点・擦石類５点、その他石斧等）であり、石皿類が比較的多いのが特徴である。竪穴住居跡以外の遺構からは、石斧・擦石・北海道式石冠・敲石・凹石・石皿等、計 86 点が出土している。

包含層出土の礫石器について、器種別の割合を示したものが第Ⅳ－８図である。擦石が 36％で最も多く、敲石がこれに続く。これらの敲磨器類が出土数全体の７割を占めるのが本遺跡出土資料の特徴である。以下、包含層出土の礫石器について、器種別の傾向と若干の考察を述べたい。

石斧類：石斧・石ノミは計 90 点（4％）出土している。破損品・破片が大半で、完形に近いものでも刃部が潰れた状態のものが多い。他に擦切痕の遺るもの２点、擦切残片１点が出土している。

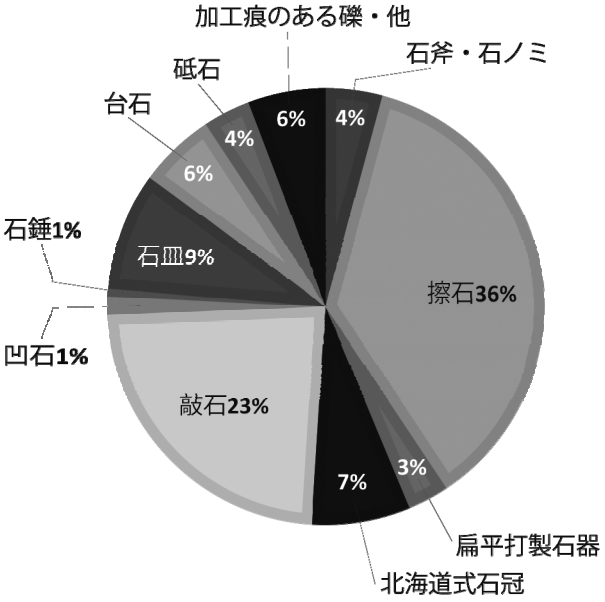
敲磨器類：敲磨器類のうち擦石・扁平打製石器・北海道式石冠をここでは「擦石類」と総称する。図Ⅳ－９は擦石類各種の出土分布を示したもので、上段は擦石類、中段は扁平打製石器、下段は北

海道式石冠である。擦石類は 1,078 点出土し、擦石 840 点（36%）、扁平打製石器 68 点（3%）、北海道式石冠 170 点（7%）で、擦石類では擦石が圧倒的に多く、他は少ない。これらの欠損率は 40%と高く、接合率は 4%程であった。

擦石には、自然礫の稜や側縁をそのまま使用しているものと、楕円形礫の長軸一端あるいは両端を打ち欠きその長軸の一辺あるいは二辺を使用したものがある。

扁平打製石器は、自然礫の周縁を打ち欠きにより半円状もしくは長方形に整形したものについて分類し擦石と分けた。

擦石および扁平打製石器の中で、側縁の一方が張り出す特徴的な器形をもつものがみられた（第Ⅱ-100 図、54～62）。一側縁が突き出すように石材を打ち欠き調整を施すもので、張り出しのある側と逆の側縁角は丸味を帯びるものが多い。指を掛り易くする為、あるいは掌に収める為に調整を加えたものと推測しており、今後、注目したい。



第Ⅳ－８図　村前ノ沢遺跡 礫石器器種比率

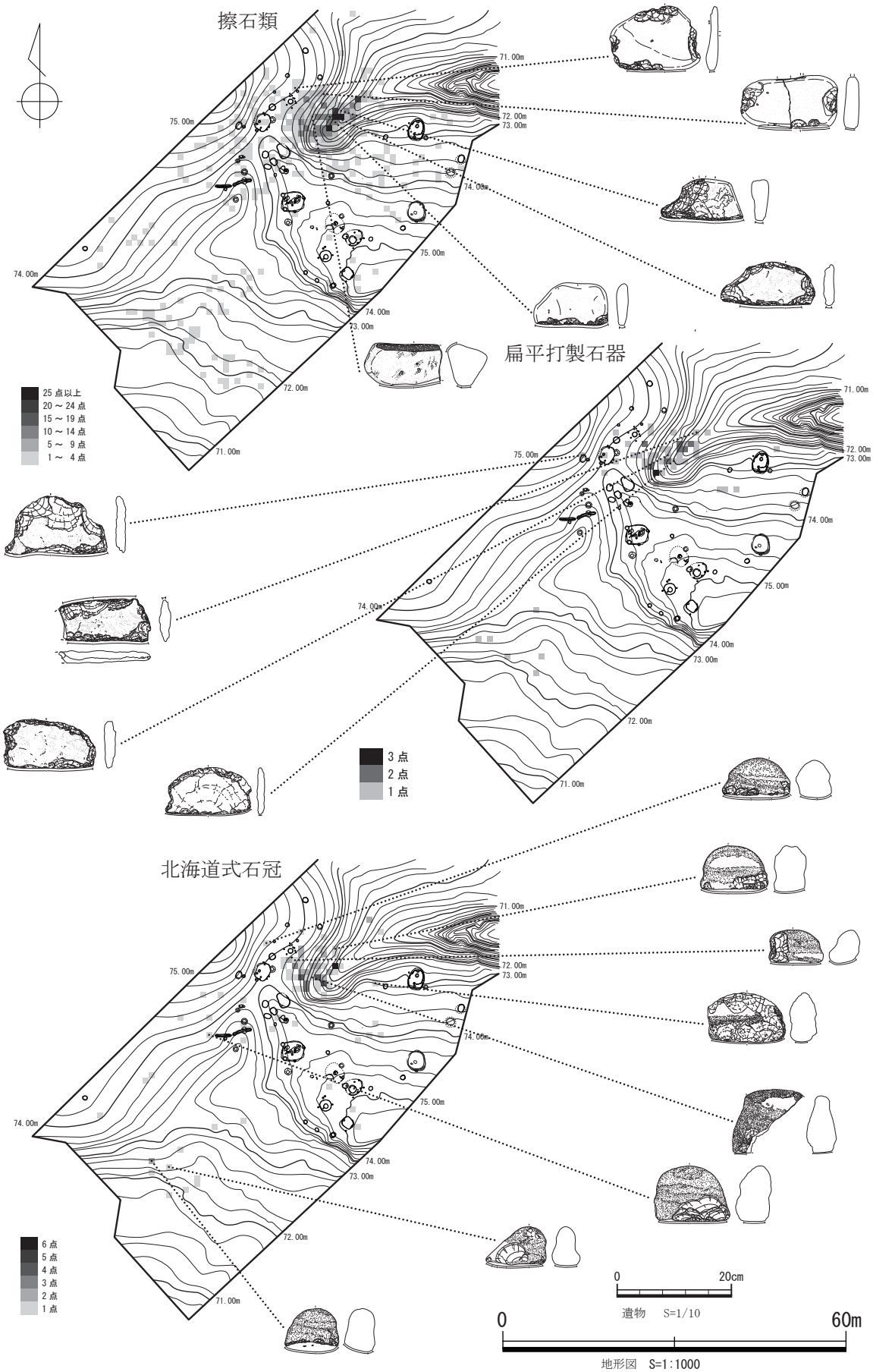
北海道式石冠は自然礫を半割し敲打により握部を作出するもので、全面が敲打され礫面を残さないものもある。擦面の幅は５㎝前後のものが多い。完形のものの重量は 360g～1,335g、平均値 705g である。これらのうち特徴的な形態をもつものとして、頭頂部の長軸方向に浅い溝のある資料が２点出土している（第Ⅱ - 103 図 88・89）。近隣の類例としては、北斗市茂辺地４遺跡（北斗市教育委員会 2015）、同館野４遺跡（北海道埋蔵文化財センター2006）がある。擦面の観察の結果、底面長軸端が弧状に摩耗し、短軸の一方が側面まで及ぶ極端な片減りのあるものが認められた。石皿などに対し、円を描く様に使用した結果によるものと推定される。

石皿類：石皿・台石・砥石について、ここでは「石皿類」と総称する。

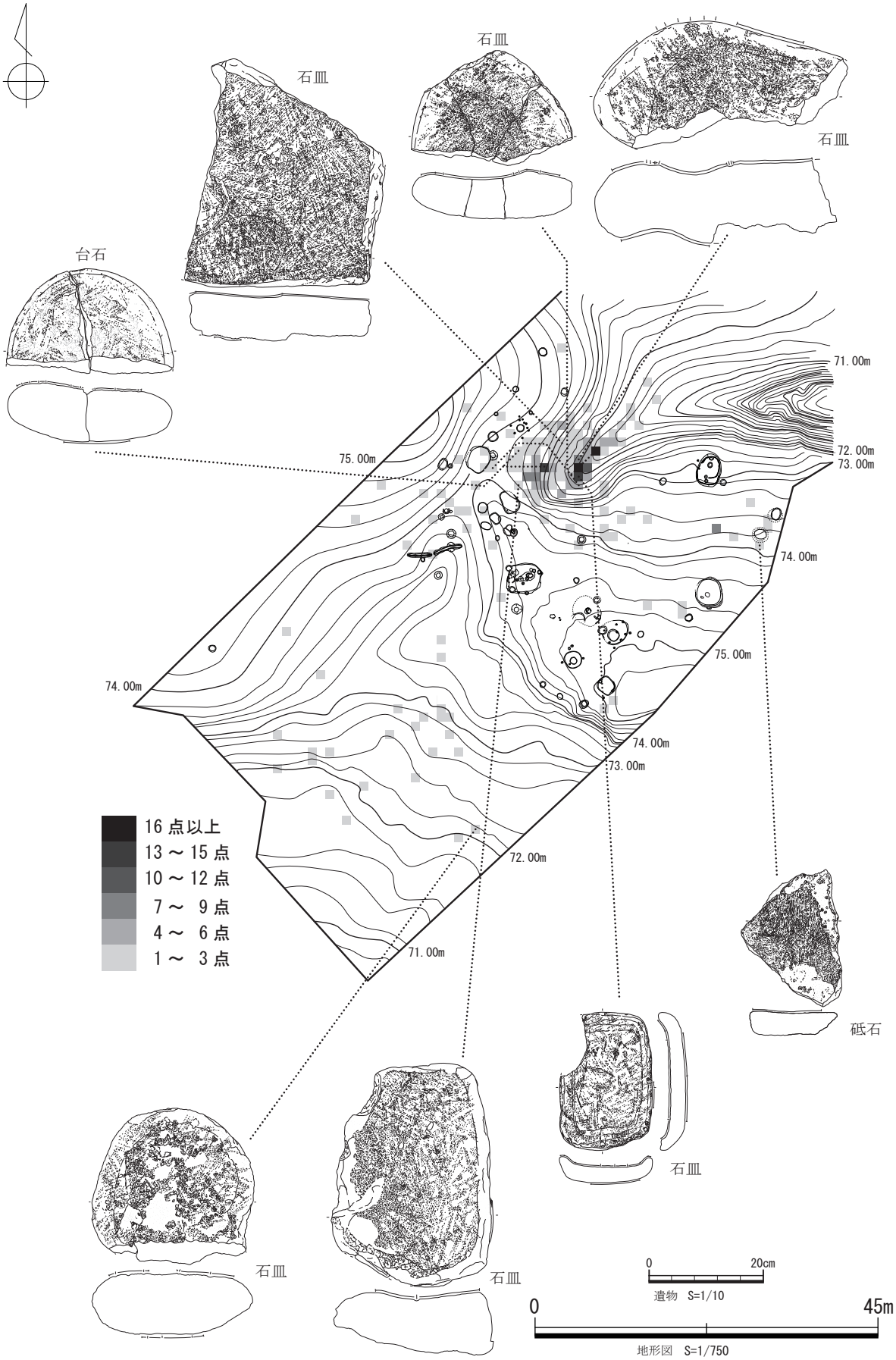
第Ⅳ－10 図は石皿類の出土分布状況である。これらは合わせて 425 点（19%）出土した。擦石類同様、出土点数は多いものの破片が多く、完形率は 10%程と少ない。石皿は滑沢な使用面と円形状に窪む使用痕をもつものが多く、これらは、先に述べた北海道式石冠の擦面形状と対応するものと考えられる。23 個体について復元が可能であったが各３～４点が接合するのみであり、完形に至るものは少なかった。このことから、使用された場所と廃棄場所が異なり破損後に一部が破棄されたもの、あるいは意図的に破砕した後に廃棄されたものである可能性が考えられる。

礫石器の石質は、変形砂岩・流紋岩・凝灰岩・粗粒玄武岩・安山岩・頁岩・泥岩・石英等である。砂岩については高硬度の変形砂岩と、砂粒が固結した脆い砂岩の双方が出土している。変形砂岩は本遺跡資料で多くみられる石材で、うち敲石で約 60%と他器種に比して多用されている（擦石約 30%・石皿類約 20%）。流紋岩は擦石類で多く使用され（約 40%）、このほか粗粒玄武岩が北海道式石冠で 49%・扁平打製石器で 35%使用されるなど器種別に石材がやや偏る傾向がある。同様の傾向は、近接する茂辺地４遺跡でも確認されている。これら多用される石材の産地は、変形砂岩は本遺跡の北側・茂辺地川流域で産出を確認した。しかし、流紋岩・粗粒玄武岩については、地質図等では当遺跡の南・大当別川に分布が示されていたが、現地付近の踏査では確認出来なかった。

礫石器の制作に関連すると考えられる礫片は 536 点出土した。石質は、変形砂岩 233 点（43%）、



第Ⅳ－９図　村前ノ沢遺跡擦石分布図



第Ⅳ－10図　村前ノ沢遺跡石皿類分布図

流紋岩 78 点（15%）、安山岩 58 点（11%）、粗粒玄武岩 51 点（10%）、不明 116 点（21%）であった。約半数の 260 点は支沢始端部から出土し、他は各グリッドに散在し集中は見られなかった。礫片の石質比率は、礫石器と概ね一致する。しかし、打ち欠きのある擦石や扁平打製石器など出土礫石器に係る調整を考慮すると、礫片の出土量は極端に少ない。礫石器の原石を採取する時点で、現地での粗割あるいは整形を行った後に遺跡内に持ち込んだ可能性がある。また土器の出土傾向と勘案すると、製作場所や礫片の廃棄場所が今回の調査区外に所在する可能性が想定される。（山田）

（６）石製品

石製品は、遺構から１点、包含層から 17 点、計 18 点出土した。内訳は、有孔垂飾品、石冠状石製品、青竜刀形石製品、棒状石製品、三角形岩版、円形岩版、線刻のある石製品、軽石製品、石斧状石製品の９種類と不明のものがある。このうち、三角形石製品、石冠状石製品、石斧状石製品の帰属時期等について若干の考察を述べることとする。

三角形石製品は、包含層から５点出土した。一辺が約８㎝を計る大型のものが１点、約５㎝のもの３点、約５×７㎝の二等辺三角形を呈するもの１点である。類似する資料では、北斗市茂別遺跡で「円形・三角形礫石器」として 184 点が報告されている（北海道埋蔵文化財センター1998）。「三角形礫石器」に限ってみると北斗市館野遺跡（北海道埋蔵文化財センター2006)、同館野２遺跡（北海道埋蔵文化財センター2014)、同茂辺地４遺跡（北斗市教育委員会 2015）、木古内町蛇内遺跡（木古内町教育委員会 2011）、森町鷲ノ木４遺跡（森町教育委員会 2006）、同鷲ノ木遺跡（森町教育委員会 2008）の各遺跡で類例の出土報告がある。石材については多様であるが、遺跡の所在する地域毎に入手が容易かつ加工し易い石質のものを選択する傾向が見受けられる。本遺跡出土の三角形石製品の石材は、流紋岩３点および細粒砂岩・泥岩各１点である。近接する茂辺地４遺跡でも流紋岩が多く、他には泥岩・頁岩が用いられている。「円形・三角形礫石器」を多量に出土した茂別遺跡では、縄文時代後期前葉の竪穴住居跡（Ｈ－11）床面から三角形石製品に類するものが出土していることから、当遺跡の資料もこの時期に伴う可能性が高いと考えられる。

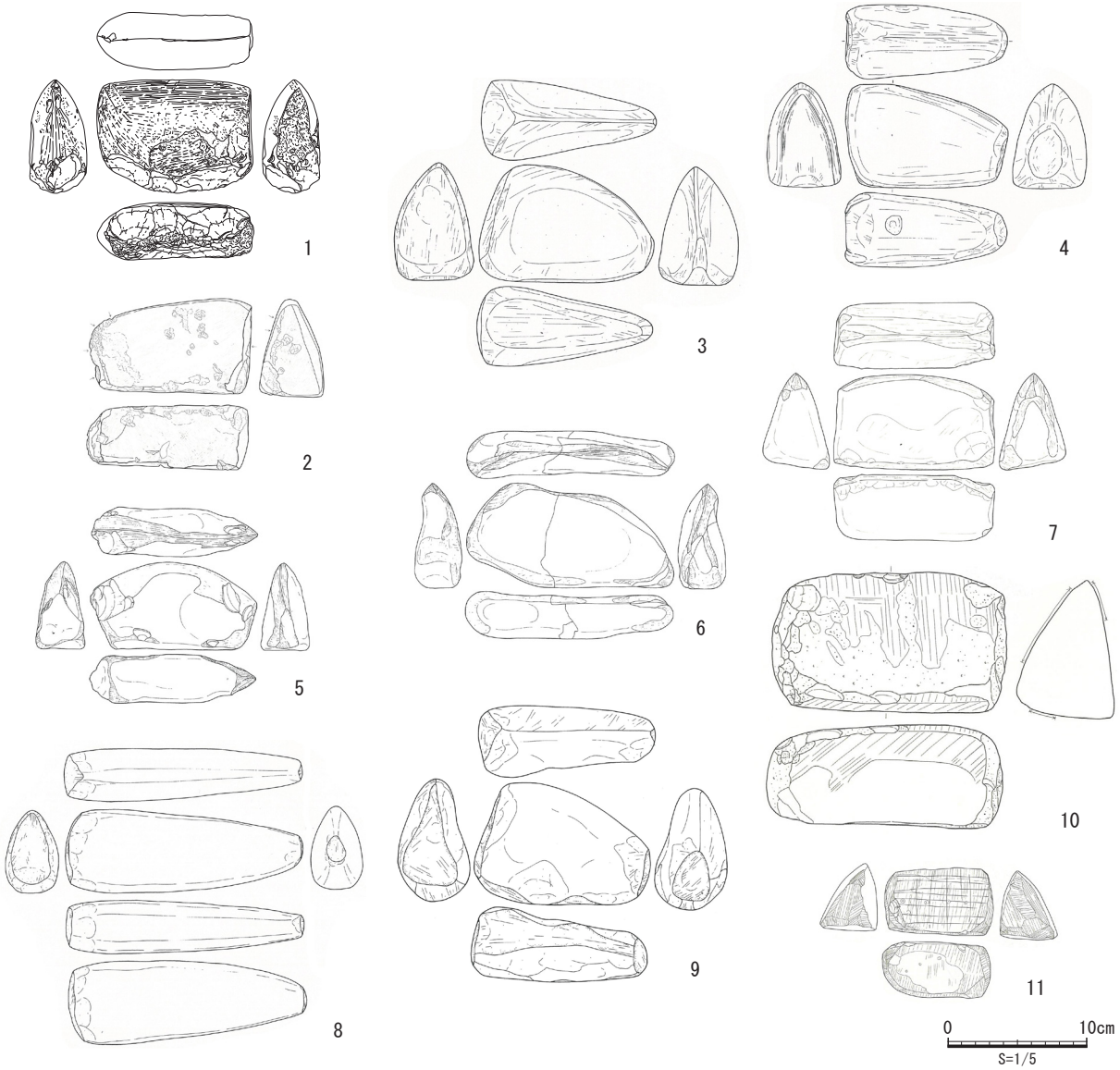
石冠状石製品は、調査区中央、支沢始端の窪地から１点出土した。凝灰岩製で、平面形は長方形で、頂部はやや弧状に張り出し刃部状を呈する。断面形は各辺が張り出す二等辺三角形を呈し、側面の一方は平坦に調整され、もう一方は丸みをもつ。底面は、長軸中央に稜をなすように剥離と潰れが認められ、平坦面は残っていない。使用によるものかは不明である。近隣の類例を第Ⅳ－11 図に示した。近接する茂辺地４遺跡の竪穴住居跡（ＰＤ－11）床面直上からも類似の遺物を確認している。その他の類例としては、館野２遺跡Ｃ地区で、竪穴住居跡から５点出土している（ＣＨ－16 から２点、ＣＨ－24 から２点、ＣＨ－25 から 1 点）。木古内町蛇内２遺跡(北海道埋蔵文化財センター2012)でも２点「三角柱状石製品」として報告がなされており、類似のものと思われる。時期としては、縄文中期前半～中期中葉後半、円筒上層式土器に伴う可能性が高いと推測する。

石斧状石製品は、長さ 25.8 ㎝を計る大型の石斧状を呈し、調査区中央の沢部分から出土した刃部と、南に約 10m離れた位置から出土した基部が接合した。刃部に使用痕と考えられる摩耗や潰れはみられない。石材として強度の低い砂岩が用いられており、伐採等、本来の石斧の用途には適さないことから、実利を伴わない特殊な目的のための道具であった可能性が考えられる。近隣の類例では、蛇内遺跡（木古内町教育委員会 2004）出土の泥岩製石斧や、鷲ノ木４遺跡で後期中葉と推定される造成土より出土した頁岩製の小型石斧、伊達市北黄金貝塚Ａ´地点出土の軽石製石斧などがあげられる（小島朋夏 2004「北奥の考古学、縄文時代における軽石製模造品について」）。これらの資料の石材はいずれも軟らかく実用には適さないものである。一方、加工が容易な石材を選択しているとも言え、「非実用的な石斧」を製作するには適材である。本遺跡の石斧状石製品の帰属時期は不詳であるが、周辺では縄文時代中期前葉・円筒土器上層式に相当するものおよび後期

初頭の土器が多く出土している。なお、小島によれば、北黄金貝塚出土の軽石製石斧は縄文時代前期～中期の円筒土器文化に伴うものとされている（小島朋夏 2004）。

以上の資料については、今後周辺類例との比較・再考等を更に進めていきたい。（山田）

所在地	遺跡名	No.	地点	時期	層位	名称	石質
北斗市	村前ノ沢	1	包含層	不明	Ⅲ	石冠状石製品	凝灰岩
	茂辺地４遺跡	2	ＰＤ－11	中期中葉後半	床直上層	石冠状石製品	安山岩
	館野２遺跡Ｃ地区	3	ＣＨ－16	中期前半	覆土１	石冠様石製品	閃緑岩
		4	ＣＨ－16	中期前半	覆土１	石冠様石製品	凝灰岩
		5	ＣＨ－24	中期前半	床面	石冠様石製品	頁岩
		6	ＣＨ－24	中期前半	床面	石冠様石製品	泥岩
		7	ＣＨ－25	中期前半	覆土２	石冠様石製品	流紋岩
		8	ＣＨ－43	中期前半	床面	石冠様石製品	玄武岩
		9	ＣＨ－58	中期前半	床面	石冠様石製品	緑色凝灰岩
木古内町	蛇内２遺跡	10	Ｈ－３	後期前葉	覆土	三角柱状石製品	安山岩
		11	包含層	不明	Ⅱ層下	三角柱状石製品	凝灰岩



第Ⅳ－11図　石冠状石製品の類例一覧

表３　平成25年度　遺構一覧

(1) 竪穴住居跡

図版番号	写真番号	遺構名	グリッド	規模（cm）			平面形	主軸方向	遺物			炉	ピット	備考
				長軸	短軸	深さ			P	F	S			
Ⅱ－２	2	PD-1	J-14	305	264	21	隅丸方形	N-26°　-E	86	30	62	地床炉	9	P-17 より新

(2) 土坑

図版番号	写真番号	遺構名	グリッド	規模（cm）			平面形	長軸方向	遺物			備考
				長軸	短軸	深さ			P	F	S	
Ⅱ-24	3	P-1	D -9	86	79	36	隅丸方形	N-64°　-W	26	4	2	
Ⅱ-24	－	P-2	K-15	79	72	14	不整楕円形	N-32°　-E	1	1	－	
Ⅱ-24	－	P-3	K-15	48	45	11	円形	N-46°　-E	－	－	－	
Ⅱ-24	3	P-4	L-15	97	81	34	隅丸長方形	N-38°　-E	66	1	8	
Ⅱ-24	－	P-5	J-12	110	109	52	不整円形	N-28°　-E	3	－	1	
Ⅱ-24	3	P-6	I-11	77	74	42	楕円形	N- 7°　-W	2	－	－	
Ⅱ-24	－	P-7	I-13	145	110	32	不整楕円形	N-14°　-E	56	4	7	
Ⅱ-25	－	P-8	I-11	(51)	50	17	(楕円形)	N- 5°　-W	2	－	2	TP-1 より古
Ⅱ-25	3	P-9	J-12	108	90	33	(不整円形)	N-18°　-W	6	－	－	
Ⅱ-25	3	P-10	J-13	58	55	28	不整円形	N-38°　-E	18	－	－	
Ⅱ-25	3	P-11	K-14	90	89	34	不整円形	N- 5°　-E	133	34	13	
Ⅱ-26	3	P-12	I-11	98	91	72	円形	N-25°　-E	6	－	4	
Ⅱ-26	－	P-13	L-16	101	93	32	円形	N-55°　-W	63	2	14	
Ⅱ-26	－	P-14	K-15	46	42	22	円形	N-13°　-W	8	1	2	
Ⅱ-26	－	P-15	J-13	128	110	16	不整楕円形	N- 6°　-E	3	1	3	
Ⅱ-26	－	P-16	K-14	119	118	38	円形	N-15°　-W	24	5	1	
Ⅱ-26	3	P-17	K-14	110	(85)	102	不整円形	N-41°　-W	－	－	4	PD-1 より古

(3) 落し穴

図版番号	写真番号	遺構名	グリッド	規模（cm）			平面形	長軸方向	遺物			備考
				長軸	短軸	深さ			P	F	S	
Ⅱ-32	5	TP-1	I-20	290	53	89	長楕円	N-88°　-E	34	－	8	P-8 より新
Ⅱ-32	5	TP-2	J-12	334	45	80	長楕円	N-83°　-E	49	3	9	P-9 より新

(4) 屋外炉

図版番号	写真番号	遺構名	グリッド	規模（cm）			平面形	長軸方向	遺物			備考
				長軸	短軸	深さ			P	F	S	
Ⅱ-32	5	FP-1	J-12	77	62	6	不明	N-87°　-W	24	8	8	

(5) 焼土

遺構名	グリッド	規模（cm）			平面形	長軸方向	遺物		
		長軸	短軸	深さ			P	F	S
FS-1	E -9	83	51	8	不整楕円形	N-83°　-W	－	10	－
FS-2	D -9	107	64	18	不整楕円形	N-57°　-W	－	7	－
FS-3	G-12	48	38	13	楕円形	N-22°　-W	－	3	－
FS-4	K-16	40	31	7	楕円形	N-58°　-W	1	22	－
FS-5 ①	K-14	46	45	11	隅丸方形	N-28°　-E	5	42	－
FS-5 ②	K-14	40	20	7	楕円形	N-26°　-E	－	－	－
FS-6	K-13	42	20	6	不整楕円形	N- 6°　-E	10	1	－
FS-7	J-12	114	105	8	不整楕円形	N-23°　-W	1	11	2
FS-8	K-13	57	50	12	楕円形	N-40°　-W	3	14	－
FS-9	J-12	31	25	16	楕円形	N-10°　-E	3	3	－
FS-10	J-14	60	26	8	楕円形	N- 3°　-W	－	－	－
FS-11	K-13	28	25	7	不整円形	N-16°　-W	5	3	－
FS-12	K-13	100	45	8	楕円形	N-30°　-E	12	11	1
FS-13	H-12	56	35	13	楕円形	N-85°　-E	2	－	－
FS-14	K-13	32	30	8	円形	N-82°　-E	1	7	－
FS-15	K-15	120	115	16	不整楕円形	N-32°　-W	66	17	－
FS-16	J-12	113	85	14	不整楕円形	N-13°　-E	－	3	－
FS-17	I-11	105	86	16	不整楕円形	N-45°　-E	10	13	8
FS-18	J-13	60	35	4	楕円形	N-61°　-W	－	2	－
FS-19	J-13	67	42	13	楕円形	N-20°　-E	－	16	2
FS-20	J-12	32	22	18	楕円形	N-71°　-E	2	7	－
FS-21	K-16	98	53	14	楕円形	N-62°　-W	20	19	6
FS-22	J-15	109	60	10	不整楕円形	N-85°　-E	7	30	4
FS-23	J-15	74	21	7	楕円形	N-17°　-W	4	4	1

遺構名	グリッド	規模（cm）			平面形	長軸方向	遺物		
		長軸	短軸	深さ			P	F	S
FS-24	J-14	33	26	12	楕円形	N-24°　-E	6	19	1
FS-25	J-14	106	51	8	不整楕円形	N-60°　-W	16	13	3
FS-26	I-13	131	68	10	不整楕円形	N-15°　-E	6	5	－
FS-27	K-13	81	67	7	楕円形	N-48°　-E	48	12	5
FS-28	K-13	69	66	10	円形	N- 2°　-W	4	11	－
FS-29	K-13	28	27	10	不整円形	N-16°　-E	2	9	3
FS-30	J-14	146	68	6	不整楕円形	N-45°　-E	－	2	－
FS-31	I-11	51	38	10	楕円形	N-18°　-E	1	－	－
FS-32	J-13	65	35	11	楕円形	N-24°　-W	6	7	2
FS-33	K-14	62	51	12	楕円形	N-26°　-W	98	15	2
FS-34	K-14	68	61	9	不整楕円形	N-22°　-E	2	6	1
FS-35	K-14	42	32	11	楕円形	N-58°　-E	1	－	－
FS-36	K-14	26	24	11	円形	N-20°　-E	3	3	－
FS-37	J-13	104	52	7	不整楕円形	N-60°　-E	－	－	－
FS-38	J-13	61	54	5	楕円形	N-35°　-W	－	6	－
FS-39	J-14	73	37	6	長楕円形	N-25°　-E	－	－	－
FS-40	J-14	37	33	9	不整円形	N-19°　-W	2	17	－
FS-41	J-13	59	22	7	不整楕円形	N-61°　-E	6	1	3
FS-42	K-14	40	38	8	不整楕円形	N-47°　-E	3	6	2
FS-43	J-14	32	31	5	不整円形	N- 5°　-E	－	－	－
FS-44	L-15	85	52	14	不整楕円形	N- 5°　-W	11	3	1
FS-45	K-15	32	27	14	楕円形	N-47°　-W	－	－	－
FS-46	J-14	34	29	11	楕円形	N-39°　-E	1	－	－
FS-47	J-15	111	41	7	楕円形	N-77°　-E	－	－	－

表４　平成26年度　遺構一覧

(1) 竪穴住居跡

図版番号	写真番号	遺構名	グリッド	規模（cm）			平面形	主軸方向	遺物			炉	ピット	備考
				長軸	短軸	深さ			P	F	S			
Ⅱ－６	2	PD-2	P-13	381	272	35	楕円形	N-13°-E	270	18	41	地床炉	6	
Ⅱ－９	2	PD-3	P-10	321	313	24	円形 or 長円形	N-1°-E	222	67	11	地床炉	－	炉跡２ヵ所
Ⅱ-12	2	PD-4	M-9	323	(185)	18	楕円形	N-58°-E	123	29	80	石囲炉 地床炉	9	P-30 より古 P-21 より新
Ⅱ-14	2	PD-5	L-9	204	187	25	不整円形	N-45°-E	119	9	15	石囲炉	5	P-42 より新 FS-78 より古
Ⅱ-14	2	PD-6	M-10	(358)	(202)	12	楕円形？	N-40°-W	202	15	85	石囲炉	1	P-18・31 より古
Ⅱ-17	2	PD-7	M-8	220	180	19	隅丸方形	N-50°-W	3	5	－	－	4	
Ⅱ-19	2	PD-8	K-11	444	368	50	長円形	N-64°-E	499	55	147	石囲炉 地床炉	8	P-43・44 より？
Ⅱ-22	－	PD-9	K-12	281	197	24	楕円形	N-35°-W	55	2	6	－	1	P-34・FS-84 より古
Ⅱ－９	－	PD-10	P-10	354	(281)	31	楕円形	N-1°-E	6	12	9	地床炉	1	

(2) 土坑

図版番号	写真番号	遺構名	グリッド	規模（cm）			平面形	長軸方向	遺物			備考
				長軸	短軸	深さ			P	F	S	
Ⅱ-26	－	P-18	M-10	(107)	(133)	26	(不整円形)	N-32°-W	30	3	19	PD-6 より新
Ⅱ-27	－	P-19	P-13	82	80	46	円形	N-53°-W	4	1	－	
Ⅱ-27	－	P-20	O-10	92	85	110	不整円形	N-64°-E	－	－	－	
Ⅱ-27	－	P-21	M-10	139	135	16	円形	N-54°-W	1	－	－	PD-4 より古
Ⅱ-27	4	P-22	M-8	118	93	43	楕円形	N-59°-E	26	－	2	
Ⅱ-27	4	P-23	L-8	77	71	79	不整円形	N-18°-E	－	－	3	
Ⅱ-27	－	P-24	L-8	81	68	35	不整楕円形	N-31°-W	－	1	1	
Ⅱ-28	－	P-25	Q-12	144	114	85	円形	N-77°-W	45	5	7	フラスコ状
Ⅱ-28	4	P-26	Q-12	143	111	84	円形	N-29°-E	14	1	3	フラスコ状
Ⅱ-28	－	P-27	N-10	82	69	9	楕円形	N-24°-E	－	1	－	
Ⅱ-28	－	P-28	O-13	92	77	17	不整楕円形	N-42°-E	－	－	－	
Ⅱ-29	－	P-29	P-10	不明	不明	45	(不整楕円形)	不明	－	－	－	
Ⅱ-29	－	P-30	M-10	(115)	98	18	(不整円形)	N-64°-E	2	－	－	PD-4 より新
Ⅱ-29	－	P-31	M-11	89	(87)	58	円形	N-40°-W	－	－	6	PD-6 より新
Ⅱ-29	－	P-32	M-12	110	107	107	不整円形	N-44°-E	－	－	－	
Ⅱ-29	－	P-33	K-12	140	109	11	隅丸長方形	N-42°-W	4	1	1	
Ⅱ-29	－	P-34	K-12	不明	不明	18	不明	不明	－	1	－	
Ⅱ-29	－	P-35	J-12	131	90	16	楕円形	N-64°-W	28	1	3	
Ⅱ-30	4	P-36	K-12	66	51	12	楕円形	N-15°-W	2	4	3	
Ⅱ-30	－	P-37	K-10	127	121	80	不整円形	N-1°-W	7	－	1	
Ⅱ-30	－	P-38	K-12	(66)	77	18	(楕円形)	N-38°-E	－	2	2	P-39 より古 P-40 より新
Ⅱ-30	－	P-39	K-12	115	65	20	楕円形	N-44°-W	7	2	－	P-38・40 より新
Ⅱ-30	－	P-40	K-12	95	(86)	56	(不整円形)	N-18°-E	5	11	5	P-38・39 より古
Ⅱ-30	－	P-41	M-11	68	61	20	不整円形	N-41°-W	－	1	－	
Ⅱ-31	－	P-42	L-9	87	84	22	円形	N-19°-W	－	4	－	PD-5 より古
Ⅱ-31	－	P-43	K-11	76	75	46	不整円形	N-9°-E	5	－	－	PD-8 より新
Ⅱ-31	－	P-44	K-11	84	70	42	不整円形	N-35°-W	－	－	1	PD-8 新旧？
Ⅱ-31	－	P-45	K-12	18	16	18	円形	N-11°-W	1	301	－	

(3) 屋外炉

図版番号	写真番号	遺構名	グリッド	規模（cm）			平面形	長軸方向	遺物			備考
				長軸	短軸	深さ			P	F	S	
Ⅱ-33	5	FP-2	K-12	55	45	9	長方形？	N-53°-W	6	17	9	
Ⅱ-33	－	FP-3	L-10	67	59	7	不明	N-73°-E?	－	3	1	
Ⅱ-33	－	FP-4	K-11	90	75	16	不明	N-69°-W?	5	8	7	

(4) 焼土

遺構名	グリッド	規模（cm）			平面形	長軸方向	遺物		
		長軸	短軸	深さ			P	F	S
FS-48	M-10	25	12	－	楕円形	N-81°-E	－	4	－
FS-49	M-10	29	10	8	楕円形	N-42°-W	－	－	－
FS-50	J-5	50	29	6	楕円形	N-41°-E	4	4	－
FS-51	J-5	54	21	6	楕円形	N-65°-W	－	－	－
FS-52	J-9	43	36	10	楕円形	N-40°-E	1	－	－
FS-53	J-7	55	45	6	楕円形	N-57°-E	－	－	1
FS-54	I-8	64	29	9	楕円形	N-44°-W	12	7	－
FS-55	J-7	28	24	10	楕円形	N-9°-W	－	－	－
FS-56	H-7	39	32	12	楕円形	N-4°-W	－	2	－
FS-57	I-8	61	43	13	楕円形	N-69°-E	1	－	－
FS-58	N-9	89	61	4	楕円形	N-19°-W	－	1	－
FS-59	P-11	28	23	7	楕円形	N-87°-E	2	5	1
FS-60	P-11	67	30	7	楕円形	N-46°-E	－	－	－
FS-61	N-12	69	30	17	楕円形	N-4°-W	－	2	－
FS-62	N-8	42	30	5	楕円形	N-46°-E	－	－	－
FS-63	O-10	48	36	8	隅丸方形	N-59°-E	3	2	－
FS-64	L-9	94	77	15	不整楕円形	N-8°-E	10	15	－
FS-65	M-10	96	64	10	楕円形	N-50°-E	12	5	－
FS-66	L-8	74	60	17	楕円形	N-80°-W	8	－	－
FS-67	O-10	101	57	15	楕円形	N-19°-W	5	7	1
FS-68	N-9	50	40	14	隅丸方形	N-75°-E	－	2	－
FS-69	Q-12	63	35	12	楕円形	N-61°-W	－	7	－

遺構名	グリッド	規模（cm）			平面形	長軸方向	遺物		
		長軸	短軸	深さ			P	F	S
FS-70	O-13	12	11	－	不整円形	N-28°-W	－	4	－
FS-71	M-12	30	24	4	楕円形	N-76°-W	－	－	1
FS-72	J-10	54	26	9	楕円形	N-32°-W	－	－	1
FS-73	M-13	63	33	5	不整楕円形	N-74°-W	－	3	－
FS-74	J-11	58	41	10	楕円形	N-28°-W	25	7	1
FS-75	K-12	53	33	5	楕円形	N-39°-E	23	2	1
FS-76	L-13	236	60	－	不整楕円形	N-54°-E	－	－	－
FS-77	L-9	39	32	10	楕円形	N-27°-E	1	2	－
FS-78	L-9	88	80	12	楕円形	N-3°-W	1	5	－
FS-79	K-12	52	35	10	楕円形	N-57°-W	49	5	2
FS-80	L-12	79	50	15	楕円形	N-64°-W	－	－	－
FS-81	L-12	90	50	9	楕円形	N-23°-E	1	11	1
FS-82	M-10	44	14	12	楕円形	N-49°-W	2	－	－
FS-83	M-10	26	16	15	不整楕円形	N-77°-W	2	4	－
FS-84	K-12	70	32	9	不整楕円形	N-69°-E	1	14	1
FS-85	K-12	118	48	15	不整楕円形	N-17°-W	2	8	－
FS-86	K-12	61	60	11	不整楕円形	N-11°-W	4	－	1
FS-87	K-13	66	30	14	不整楕円形	N-51°-E	10	13	4
FS-88	L-13	28	25	－	不整楕円形	N-3°-E	5	11	－
FS-89	L-13	247	68	－	不整楕円形	N-33°-E	7	66	－
FS-90	M-10	31	27	8	楕円形	N-71°-W	－	3	－

表５　掲載遺物一覧

(1) 土器

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種/部位	分類	文様・調整・貼付など　(※特記ない場合は施文原体は横回転)	計測値　(cm)		
									口径	底径	器高
Ⅱ- 3	7	PD-1	1	J -13-24	覆土	口縁	Ⅲ群A類1種	R絡条体圧痕文、口唇Rキザミ			
Ⅱ- 3	7	PD-1	2	J -14- 4	覆土	胴部	Ⅲ群A類1種	RL-LR結束第一種（結紮系痕顕著）、隆帯文（Rキザミ） +L・R・R平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列			
Ⅱ- 3	7	PD-1	3	J -13-24	覆土	口縁	Ⅲ群A類1種	弁状突起+隆帯文+L平行撚糸+押引文			
Ⅱ- 3	7	PD-1	4	J -13	覆土	口縁	Ⅲ群Ｂ類	LR（＼）			
Ⅱ- 3	7	PD-1	5	J -13-25	覆土	胴部	Ⅲ群B類2種	RL（タテ）+垂下微隆起+LR縄線文			
Ⅱ- 3	7	PD-1	6	K-13-13	覆土	底部	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）			
Ⅱ- 7	8	PD-2	1	P-13-22	覆土（下）	口縁	Ⅲ群A類1種	弁状突起+隆帯文（Rキザミ）+R平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列			
Ⅱ- 7	8	PD-2	2	O-13-25	覆土	口縁	Ⅲ群A類2種	LR（タテ）+隆帯文（板状工具キザミ）、口唇RLキザミ			
Ⅱ- 7	8	PD-2	3	P-14- 1	覆土	口縁	Ⅲ群B類1種	隆帯文+LR縄線文、口唇Rキザミ			
Ⅱ- 7	8	PD-2	4	P-13-16	床面	深鉢	Ⅲ群B類1種	LR（＼・一部ヨコ）+貼瘤+LR縄線文、内面調整顕著	—	—	(20.6)
Ⅱ- 7	8	PD-2	5	P-13-22ほか	覆土	深鉢	Ⅲ群B類1種	RL（／）	—	(3.1)	(15.5)
Ⅱ- 8	8	PD-2	6	P-13-22	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	RL+微隆起+短刻線列			
Ⅱ- 8	8	PD-2	7	O-13-20	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	LR			
Ⅱ- 8	8	PD-2	8	P-13-16	覆土	口縁	Ⅳ群A類2種	RL（タテ）			
Ⅱ- 8	8	PD-2	9	P-13- 1	覆土	胴-底	Ⅳ群Ａ類	LR（タテ）	—	11.9	(13.7)
Ⅱ-10	9	PD-3	1	P-10-22ほか	覆土	深鉢	Ⅳ群Ｂ類	L（＼）（集合沈線を囲む沈線文、口縁上面観：隅丸長方形、 口縁波状頂部：棒状工具キザミ）、胴下半：調整痕（タテ）	29.1	12.0	39.7
Ⅱ-10	9	PD-3	2	O-10-25	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+折返口縁（無文帯+LR縄線文）			
Ⅱ-10	9	PD-3	3	O-10-25	覆土	胴部	Ⅳ群A類1種	RL			
Ⅱ-10	9	PD-3	4	P-11- 1	覆土	胴部	Ⅳ群A類1種	LR（／）			
Ⅱ-10	9	PD-3	5	O-10-25	覆土	底部	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）			
Ⅱ-10	9	PD-3	6	P-10-22	覆土	ロ-胴	Ⅳ群A類2種	沈線、輪積痕明瞭			
Ⅱ-10	9	PD-3	7	O-10-25	覆土	胴-底	Ⅳ群A類2種	無文、底角ケズリ有、底面：葉脈痕			
Ⅱ-13	10	PD-4･6	1	M-10- 4ほか	覆土	胴部	Ⅲ群Ａ類	RL-LR結束第一種（結紮系痕顕著）			
Ⅱ-13	10	PD-4	2	N- 9-21	撹乱	胴部	Ⅲ群B類1種	LR（＼）+箍状隆帯（L縄線文）			
Ⅱ-13	10	PD-4	3	N-10- 1	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+折返口縁（無文帯+L・LR縄線文）			
Ⅱ-13	10	PD-4	4	M- 9-25	覆土	ロ-胴	Ⅳ群Ａ類	LR（＼）			
Ⅱ-13	10	PD-4	5	N-10- 1	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）			
Ⅱ-13	10	PD-4	6	M-10- 5	覆土	小型深鉢	Ⅳ群Ａ類	LR（タテ）	—	3.6	7.2
Ⅱ-13	10	PD-4	7	M-10- 4	覆土	口縁	Ⅳ群Ａ類	折返口縁（無文）			
Ⅱ-15	10	PD-5	1	L- 9-10	床直	深鉢	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁：LR縄線文	—	6.7	17.2
Ⅱ-15	10	PD-5	2	L- 9-10	炉焼土内	口縁	Ⅳ群A類1種	RL（タテ）+箍状隆帯（+RL）			
Ⅱ-15	10	PD-5	3	L- 9-10	床直	胴-底	Ⅳ群Ａ類	RL（タテ）、内面炭化物付着顕著			
Ⅱ-16	11	PD-6	1	M-10-12ほか	覆土	口縁	Ⅳ群Ｂ類	LR+平行沈線+クランク状沈線			
Ⅱ-16	11	PD-6	2	M-10-13	床直	胴部	Ⅳ群Ｂ類	集合沈線+集合沈線を囲む沈線、輪積痕明瞭			
Ⅱ-16	11	PD-6	3	M-10-13	床直	胴部	Ⅳ群Ｂ類	集合沈線+集合沈線を囲む沈線、輪積痕明瞭			
Ⅱ-16	11	PD-6	4	M-10-12	覆土	口縁	Ⅳ群Ｄ類	LR+貼瘤文+沈線+磨消縄文			
Ⅱ-16	11	PD-6	5	M-10-13	覆土	底部	Ⅳ群Ｄ類	無文			
Ⅱ-18	11	PD-7	1	M- 8-24	床直	口縁	Ⅲ群A類2種	LR+沈線、口唇Rキザミ			
Ⅱ-18	11	PD-7	2	M- 8-24	床直	口縁	Ⅳ群Ｂ類	無文			
Ⅱ-20	11	PD-8	1	K-11-15	覆土	口縁	Ⅲ群B類1種	口縁：LR縄線文、口唇（+LR）			
Ⅱ-20	11	PD-8	2	L-11- 1	覆土	口縁	Ⅲ群B類2種	LR（＼）+垂下微隆起帯+LR縄線文、口縁：山形小突起			
Ⅱ-20	11	PD-8	3	K-11- 9	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	RL縄線文			
Ⅱ-20	11	PD-8	4	K-11- 8	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	折返口縁（襞状）			
Ⅱ-20	11	PD-8	5	K-11-14	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	折返口縁（無文）			
Ⅱ-20	11	PD-8	6	K-11- 4	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	LR+箍状貼付（+LRタテ）			
Ⅱ-20	11	PD-8	7	K-11- 4	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	箍状貼付、RL+RL（タテ）、無文帯			
Ⅱ-20	11	PD-8	8	L-11- 1	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	箍状貼付、RL+口縁：LR			
Ⅱ-20	11	PD-8	9	K-11-10	覆土	底部	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）			
Ⅱ-20	11	PD-8	10	K-11- 4	覆土	口縁	Ⅳ群Ｄ類	LR+RL（羽状）+ＩＯ突瘤文+沈線			

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種/部位	分類	文様・調整・貼付など　（※特記ない場合は施文原体は横回転）	計測値　(cm)		
									口径	底径	器高
Ⅱ-20	11	PD-8	11	K-11- 4	覆土	深鉢	Ⅳ群Ｄ類	無文、輪積痕明瞭	14.6	—	(12.4)
Ⅱ-20	11	PD-8	12	K-11- 5	覆土	ロ-胴	Ⅳ群Ｄ類	LR+RL（羽状）、口縁：小波状+突瘤文（瘤摘み出し） +口縁に沿った波状沈線+平行沈線	(26.4)	—	(13.2)
Ⅱ-20	11	PD-8	13	K-11-10	覆土	胴-底	Ⅳ群Ｄ類	LR+RL（羽状）、底部：上底（丸底状）			
Ⅱ-20	11	PD-8	14	K-11- 4ほか	覆土	胴-底	Ⅳ群Ｄ類	LR、底部：上底	—	2.3	(4.5)
Ⅱ-23	12	PD-9	1	K-13- 3	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	LR			
Ⅱ-23	12	PD-9	2	K-13- 4	覆土	口縁	Ⅳ群Ｂ類	L（タテ）+平行沈線（横位・鋸歯状）+刺突列			
Ⅱ-23	12	PD-9	3	K-13- 3	覆土	底部	Ⅳ群Ａ類	底角やや張り出す			
Ⅱ-34	12	P-5	2	J-12- 6	覆土	口縁	Ⅲ群A類1種	口縁：双丘状突起+隆帯文+Rキザミ+R・L平行撚糸 +馬蹄状縄圧痕列、口唇Rキザミ			
Ⅱ-34	12	P-7	3	I-14- 5	覆土	口縁	Ⅲ群A類2種	RL、口縁：弁状突起+隆帯文+Lキザミ			
Ⅱ-34	12	P-7	4	I-13-25	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	L、口縁：小波状+L縄線文			
Ⅱ-34	12	P-7	5	I-14- 5	覆土	胴-底	Ⅳ群Ａ類	無文	—	5.5	(7.1)
Ⅱ-34	12	P-10	7	J-13-21	覆土	口縁	Ⅲ群A類2種	RL、口唇RLキザミ			
Ⅱ-34	13	P-11	8	K-14-24ほか	覆土	口縁	Ⅲ群A類1種	口縁：隆帯文+Lキザミ+L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列			
Ⅱ-34	13	P-11	9	K-14-24	覆土	口縁	Ⅲ群Ｂ類	口縁：山形突起+R縄線文+隆帯文+刺突列			
Ⅱ-34	13	P-11	10	K-14-19ほか	底直	深鉢	Ⅲ群B類2種	RL（ヨコ・＼）（微隆起帯（胴部・胴下半）+RL縄線文）、 口縁部：やや肥厚	27.7	9.8	35.8
Ⅱ-34	13	P-11	11	K-14-24	覆土	口縁	Ⅲ群B類2種	RL+微隆起帯+短刻線文			
Ⅱ-34	13	P-11	12	K-14-24	覆土	胴部	Ⅲ群B類2種	RL+垂下微隆起帯+短刻線文			
Ⅱ-35	13	P-13	16	L-16-12	底直	胴部	Ⅲ群A類1種	隆帯文+Lキザミ+馬蹄状縄圧痕列			
Ⅱ-35	13	P-15	19	J-12-25	覆土	胴部	Ⅲ群A類2種	RL（+結紮系痕顕著）+沈線			
Ⅱ-35	13	P-18	21	M-10- 6	覆土	胴部	Ⅲ群B類1種	LR（＼）+隆帯文+LR縄線文			
Ⅱ-35	13	P-18	22	M-14- 1ほか	覆土	鉢	Ⅳ群A類1種	LR（胴部：＼、口縁・口唇：ヨコ）、底角：ケズリ（ヨコ）、 補修孔、底面：楕円形（5.0×6.0）	13.7	6.0	13.0
Ⅱ-35	13	P-18	23	M-10- 6	覆土	胴部	Ⅳ群Ｂ類	沈線			
Ⅱ-35	14	P-22	26	M- 8-12	覆土	口縁	Ⅲ群A類2種	LR（タテ）+綾絡文（別）、口縁：（把手状貼付+L縄線文） +隆帯文+Lキザミ			
Ⅱ-36	14	P-25	31	Q-12- 7	覆土	口縁	Ⅲ群A類2種	口縁：吸盤状突起+L縄線文、口唇・突起+Lキザミ			
Ⅱ-36	14	P-25	32	Q-12- 7	覆土	口縁	Ⅲ群A類2種	RL、口唇Lキザミ			
Ⅱ-36	14	P-25	33	Q-12- 7	覆土	胴部	Ⅲ群A類2種	RL+沈線			
Ⅱ-36	14	P-25	34	Q-12- 7	覆土	胴-底	Ⅲ群Ａ類	LR+綾絡文（別）			
Ⅱ-37	14	P-26	39	Q-12-19	底直	口縁	Ⅲ群A類2種	RL、口縁：山形突起+隆帯文、口唇RLキザミ			
Ⅱ-37	14	P-26	40	Q-12-19	覆土	口縁	Ⅲ群A類2種	RL、口唇Lキザミ			
Ⅱ-37	14	P-26	41	Q-12-24	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+LR縄線文			
Ⅱ-37	14	P-26	42	Q-12-19	底直	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）、折返口縁+口縁+LR			
Ⅱ-37	15	P-35	48	J-12-15	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）			
Ⅱ-38	15	P-36	49	K-12- 6ほか	覆土	胴部	Ⅲ群A類1種	隆帯文+Lキザミ+刺突列			
Ⅱ-38	15	P-37	52	K-10-13ほか	覆土	底部	Ⅲ群Ａ類	LR－RL結束第一種、内面炭化物付着顕著			
Ⅱ-38	15	P-38	54	K-12	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）			
Ⅱ-38	15	P-41	56	M-11- 6	覆土	口縁	Ⅱ群Ｂ類	L短軸絡条体撚糸文			
Ⅱ-38	15	TP-2	60	J-12- 1	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+折返口縁（+LR）			
Ⅱ-38	15	TP-2	61	J-12- 1	覆土	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）			
Ⅱ-39	16	FS-15	66	K-16- 4ほか	焼土	深鉢	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+折返口縁（+LR）+LR縄線文	24・6	—	(29.9)
Ⅱ-39	16	FS-17	67	I-11- 9	覆土	口縁	Ⅳ群B類2種	沈線+折返口縁			
Ⅱ-39	16	FS-26	73	I-13-12	焼土	口縁	Ⅲ群A類2種	口縁：弁状突起+貼瘤+LR縄線文			
Ⅱ-40	16	FS-33	74	K-14-19	焼土	胴-底	Ⅲ群A類2種	LR－RL結束第一種			
Ⅱ-41	17		1	M-14-14	Ⅲ	胴部	Ⅰ群	L自縄自巻羽状縄文			
Ⅱ-41	17		2	K-14- 8	Ⅲ	口縁	Ⅱ群	R短軸絡条体撚糸文（タテ）、 口唇：R短軸絡条体撚糸文（口唇部に平行）			
Ⅱ-41	17		3	O-10-19	Ⅲ	口縁	Ⅱ群	RL（ヨコ・／・タテ）、口唇RLキザミ			
Ⅱ-41	17		4	N-19-11	Ⅲ	口縁	Ⅱ群	L短軸絡条体撚糸文（タテ）+L縄線文+綾絡文（別）			
Ⅱ-41	17		5	—	排土	口縁	Ⅱ群	R短軸絡条体撚糸文（タテ）+L縄線文+綾絡文（別）、補修孔			

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種/部位	分類	文様・調整・貼付など　（※特記ない場合は施文原体は横回転）	計測値　(cm)		
									口径	底径	器高
Ⅱ-41	17		6	L-14-20	Ⅲ	口縁	Ⅱ群	RR多軸絡条体圧痕文+L縄線文+（LR－RL+綾絡文）			
Ⅱ-41	17		7	K-14- 6	Ⅲ	口縁	Ⅱ群	R多軸絡条体圧痕文+L縄線文+LR綾絡文、口唇：Lキザミ			
Ⅱ-41	17		8	M-12-18	Ⅲ	口縁	Ⅱ群	L多軸絡条体撚糸文+L縄線文+微隆起帯+刺突列			
Ⅱ-41	17		9	N-15-17	Ⅲ	口縁	Ⅱ群	RL+L縄線文+微隆起帯+刺突列			
Ⅱ-41	17		10	Ⅰ-14- 9	Ⅲ	胴部	Ⅱ群	LR－RL結束第一種、原体による結節			
Ⅱ-41	17		11	J-15-15	Ⅲ	胴部	Ⅱ群	L・R単軸絡条体撚糸文（タテ）+沈線文（ヨコ）			
Ⅱ-41	17		12	F-10- 2	Ⅲ	深鉢	Ⅱ群	LR+隆帯、（口縁：L・R・R平行撚糸文）（口唇L・R・R撚糸キザミ）	—	11.1	25.6
Ⅱ-41	17		13	L-14-22ほか	Ⅲ	ロ-胴	Ⅱ群	LR-RL結束第一種（口縁：R単軸絡条体圧痕文+隆帯（LR・RL）、 口唇Rキザミ）			
Ⅱ-42	17		14	L-14-12ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	LR－LR結束第一種（口縁：隆帯文（Rキザミ） +R平行撚糸（横走・波状）、口唇Lキザミ）	—	—	(44.6)
Ⅱ-42	17		15	M-14-11	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類1種	LR（口縁：隆帯文+Lキザミ +L・R・L平行撚糸（横走・鋸歯状）、口唇Lキザミ）、補修孔			
Ⅱ-42	18		16	M-14-10	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類1種	LR+綾絡文（口縁：隆帯文+L撚糸 +R・L・R平行撚糸（横走・波状）、口唇Rキザミ）			
Ⅱ-42	18		17	K-13-25ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	LR（口縁：弁状突起+隆帯文（L・Rキザミ））	11.1	4.2	12.3
Ⅱ-42	18		18	L-14-24ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（タテ）（口縁：隆帯文（Lキザミ）+貼瘤 +橋状把手（欠損）+L平行撚糸、口唇Lキザミ）	(15.9)	—	(22.1)
Ⅱ-42	18		19	J-14-10ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：単位下橋状把手 +隆帯文（Lキザミ）+L・R・L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列、口唇Rキザミ）	36.0	15.3	38.1
Ⅱ-43	18		20	L-13-19	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類1種	RL（口縁：突起欠損+隆帯文+平行L撚糸文+板状刺突列、口唇Rキザミ）			
Ⅱ-43	18		21	K-14-14	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類1種	LR-RL結束第一種（口縁：L・L・R・R・R平行撚糸文（波状） +馬蹄状縄圧痕+隆帯文+L・L・R・Rキザミ）			
Ⅱ-43	18		22	E- 9-11	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類1種	LR-RL結束第一種（口縁：弁状突起+単位下橋状突起 +隆帯文+平行L・R・R撚糸文+板状刺突列）			
Ⅱ-43	19		23	L-13-23ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－RLR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起 +隆帯文（Lキザミ）+L・R・L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列）	35.5	19.6	70.6
Ⅱ-43	19		24	L-14-17ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起+隆帯文 （+Lキザミ）+L・R・L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列、口唇Lキザミ）	26.9	12.8	47.2
Ⅱ-44	20		25	L-13- 7ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起+隆帯文 （+Lキザミ）+L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列、口唇Lキザミ）	37.0	—	(58.0)
Ⅱ-44	20		26	L-13-23ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起 +隆帯文（Lキザミ）+L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列、口唇Lキザミ）	(22.4)	16.1	69.1
Ⅱ-45	21		27	L-13-23ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著） +綾絡文（別）（口縁：弁状突起+隆帯文（Lキザミ）　）	(36.1)	14.9	70.1
Ⅱ-45	21		28	L-13-18ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（口縁：弁状突起+隆帯文（+Lキザミ） +L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列、口唇Lキザミ）	27.3	13.0	36.4
Ⅱ-45	21		29	L-14-17	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起 +隆帯文（Lキザミ）+L・R・L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列、口唇Lキザミ）	(23.6)	—	(19.0)
Ⅱ-45	22		30	L-13-13ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起 +隆帯文（Lキザミ）+L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列、口唇Lキザミ）	(25.5)	11.1	37.2
Ⅱ-46	22		31	K-14-15ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（口縁：弁状突起+隆帯文（Lキザミ） +L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列）	(23.0)	—	(27.6)
Ⅱ-46	22		32	L-13-20ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起+隆帯文 （+Lキザミ）+L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列、口唇Lキザミ）	27.7	—	(35.6)
Ⅱ-46	22		33	L-14-20ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起 +隆帯文（Lキザミ）+R・L・L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列、口唇Lキザミ）	25.3	—	(21.4)
Ⅱ-46	22		34	L-14- 1ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起 +隆帯文（Lキザミ）+L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列）	30.4	—	(28.6)
Ⅱ-46	23		35	L-13-21ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（口縁：弁状突起（Lキザミ） +隆帯文（Lキザミ）+L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列）	(23.5)	10.5	29.6
Ⅱ-46	23		36	L-14- 2	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－不明結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起+隆帯文 （Lキザミ）+L・R・L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列、口唇L・R・Lキザミ）	20.5	—	(11.9)

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種/部位	分類	文様・調整・貼付など　（※特記ない場合は施文原体は横回転）	計測値　(cm)		
									口径	底径	器高
Ⅱ-47	23		37	L-13-16ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起 +隆帯文（Lキザミ）+L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列、口唇Lキザミ）	24.6	10.3	35.8
Ⅱ-47	23		38	L-14-17	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起 +隆帯文（Lキザミ）+L・R・L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列）	19.3	8.7	26.5
Ⅱ-47	23		39	L-14- 3	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起 +隆帯文（Lキザミ）+L・R・L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列、口唇Lキザミ）	18.9	—	(22.5)
Ⅱ-47	24		40	M-13-21ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起 +隆帯文（Lキザミ）+L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列、口唇Lキザミ）	31.2	—	(27.3)
Ⅱ-48	24		41	L-13-16	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起+隆帯文 （+Lキザミ）+単位間貼瘤+L撚糸文（タテ）+馬蹄状縄圧痕列）	(19.2)	—	25.5
Ⅱ-48	24		42	L-14- 2ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起 +隆帯文（Lキザミ）+L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列）	19.4	—	(21.6)
Ⅱ-48	24		43	L-13-14ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（口縁：弁状突起（欠損）+隆帯文（Lキザミ） +R・L・L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列、口唇Lキザミ）	(16.3)	—	(20.0)
Ⅱ-48	24		44	K-13-25ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起 +隆帯文（Lキザミ）+L・R・L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列）	18.6	—	(17.4)
Ⅱ-48	25		45	L-14-19ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（口縁：弁状突起+馬蹄状縄圧痕列、口唇Lキザミ）	(20.7)	—	(21.1)
Ⅱ-48	25		46	K-13-25ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	LR（口縁：弁状突起+隆帯文（L・Rキザミ） +L・R平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列、口唇L・Rキザミ）	17.5	—	(24.3)
Ⅱ-49	25		47	L-14-10ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（口縁：隆帯文（L・Rキザミ） +L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列）	21.8	—	(21.5)
Ⅱ-49	25		48	L-13-21	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（口縁：隆帯文（+Lキザミ） +L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列）	23.0	—	(20.9)
Ⅱ-49	26		49	L-14- 2ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：隆帯文+Lキザミ）	31.3	—	(36.5)
Ⅱ-49	26		50	L-13-20ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（口縁：単位下ボタン状突起+隆帯文（Lキザミ） +L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列）	12.6	4.5	13.2
Ⅱ-49	26		51	L-13-12ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：隆帯文（Lキザミ） +貼瘤+L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列）	16.0	—	(19.0)
Ⅱ-50	26		52	L-13-17ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：隆帯文+Rキザミ）	19.3	—	(27.6)
Ⅱ-50	26		53	M-11-23	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（口縁：単位下ボタン状突起、隆帯文（Lキザミ） +L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列）	12.7	(2.4)	16.7
Ⅱ-50	27		54	L-13-24ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（口縁：単位下ボタン状突起 +隆帯文（Lキザミ）+L平行撚糸+馬蹄状縄圧痕列）	23.0	—	(26.6)
Ⅱ-50	27		55	M-13-20ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種	8.8	—	(5.7)
Ⅱ-50	27		56	L-13-22	Ⅲ	小型鉢	Ⅲ群Ａ類	RL（口縁：突起欠損）	(6.8)	3.1	(5.4)
Ⅱ-50	27		57	L-14- 9ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）	27.2	—	(29.8)
Ⅱ-50	27		58	K-14- 5ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	LR（結紮系痕顕著）（底部付近ミガキ（ヨコ）、底面ミガキ顕著）	15.0	8.8	18.5
Ⅱ-51	27		59	L-13-11ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－RL結束第一種（口縁：弁状突起+隆帯文（Lキザミ） +角形工具刺突列、口唇Lキザミ）	21.1	7.8	22.6
Ⅱ-51	27		60	L-13-20ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起 +隆帯文（Lキザミ）+R・L・L平行撚糸+棒状工具刺突列）	—	—	(22.0)
Ⅱ-51	28		61	L-13-17ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起 +単位下穿孔、隆帯文（Lキザミ）+L平行撚糸+角形工具刺突列）	14.0	6.6	17.4
Ⅱ-51	28		62	L-14-15ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－RL結束第一種（口縁：弁状突起+単位下穿孔 +隆帯文（Lキザミ）+角形工具刺突列）	(16.5)	—	(10.8)
Ⅱ-51	28		63	L-13-24ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（口縁：隆帯文（Lキザミ） +L・R・L平行撚糸+角形工具刺突列）	10.2	—	(10.6)
Ⅱ-51	28		64	L-13-24ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（隆帯文（横走・X字状）+角形工具刺突列）	—	—	(28.3)
Ⅱ-51	28		65	L-13-20ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL（口縁：隆帯文（板状工具キザミ）+板状工具刺突列）	15.3	—	(9.6)
Ⅱ-51	28		66	M-14- 2ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	LR（口縁：隆帯文（+Lキザミ）+棒状工具刺突列）	20.1	—	(10.9)
Ⅱ-52	28		67	L-14-10	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	LR-RL結束第一種（口縁：隆帯文+L撚糸キザミ +L平行撚糸文+稈状工具刺突列、口唇Lキザミ）	—	—	

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種/部位	分類	文様・調整・貼付など　（※特記ない場合は施文原体は横回転）	計測値　(cm)		
									口径	底径	器高
Ⅱ-52	28		68	L-14-20ほか	Ⅲ	ロ-胴	Ⅲ群A類1種	LR-RL結束第一種（結紮系痕顕著） （口縁：隆帯文+L撚糸キザミ+竹管状工具刺突列、口唇Lキザミ）			
Ⅱ-52	28		69	L-13-24	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類1種	RL（タテ）口縁：隆帯文（R・Lキザミ）+馬蹄状縄圧痕列			
Ⅱ-52	28		70	J-14- 3	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類1種	LR（結紮系痕顕著）（口縁：隆帯文+R撚糸キザミ +L・R・L平行撚糸文+角形工具刺突列、口唇L・R・Lキザミ）			
Ⅱ-52	29		71	L-13-16	Ⅲ	ロ-胴	Ⅲ群A類1種	L-R結束第一種　（口縁：隆帯文+L撚糸キザミ +角形工具刺突列、口唇Lキザミ）			
Ⅱ-52	29		72	L-14-20	Ⅱ	口縁	Ⅲ群A類1種	LR-LR結束第二種（口縁：弁状突起+隆帯文+L撚糸キザミ +L平行撚糸文+稈状工具刺突列、口唇Lキザミ）			
Ⅱ-52	29		73	J-14-10	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類1種	口縁：隆帯文+L撚糸キザミ+L・R・L平行撚糸文+角形工具刺突列			
Ⅱ-52	29		74	L-14-17	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類1種	LR-RL結束第一種（口縁：弁状突起+隆帯文+L撚糸キザミ +R平行撚糸+板状工具刺突列）			
Ⅱ-52	29		75	M-14- 1ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	RL－LR結束第一種（タテ）（口縁：弁状突起 +隆帯文（R・Lキザミ）+R・L平行撚糸、口唇Lキザミ）	13.5	—	(17.1)
Ⅱ-52	29		76	L-14-21ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類1種	LR－LR結束第一種（結紮系痕顕著）（口縁：弁状突起 +隆帯文（Lキザミ）+L平行撚糸、口唇Lキザミ）	(16.1)	—	(20.8)
Ⅱ-53	29		77	F- 9ほか	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類2種	RL+綾絡文（別）（口縁：獣耳状突起+隆帯文 +Lキザミ+二叉板状工具刺突列）			
Ⅱ-53	29		78	K-14- 5ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	RL－LR結束第一種+隆帯文（Lキザミ）	29.4	—	(31.0)
Ⅱ-53	29		79	L-14- 2ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	RL－LR結束第一種+口縁：弁状？突起（欠損）、隆帯文（R・Lキザミ）	20.7	—	(20.4)
Ⅱ-53	30		80	M-14- 8ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	RL－LR結束第一種+口縁：単位下ボタン状貼付（Lキザミ） +隆帯文（Lキザミ）、口唇LRキザミ	23.8	—	(17.6)
Ⅱ-53	30		81	M-13-22ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	RL－RL結束第一種+口縁：弁状突起+隆帯文 +隆帯上平行にL押捺、口唇Rキザミ	—	—	(17.9)
Ⅱ-54	30		82	L-13-24ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	RL－LR結束第一種（口縁：山形突起+橋状把手・楕円状突起（2個一対） +隆帯文（+Lキザミ）+馬蹄状縄圧痕）	32.7	—	(38.0)
Ⅱ-54	31		83	M-14- 6ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	RL-RL結束第一種+綾絡文（別）+口縁：獣耳状・円盤状突起 +橋状把手、隆帯文（RL）、口唇RLキザミ（斜行）	36.1	—	(33.7)
Ⅱ-54	31		84	L-13-23ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	RL－LR結束第一種+口縁：山形突起（Lキザミ）+単位下橋状突起、 隆帯文（L押捺）、馬蹄状縄圧痕（一部）、口唇：刺突列	19.7	9.4	24.2
Ⅱ-54	31		85	M-13-21ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	LR－RL結束第二種（口縁：獣耳状突起+把手状貼付帯、口唇Rキザミ）	19.0	—	22.8
Ⅱ-55	31		86	L-13-25ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	RL－RL結束第一種（口縁：弁状突起、隆帯文（Lキザミ）+L平行撚糸）	(19.5)	8.1	23.3
Ⅱ-55	32		87	L-13-22ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	RL－LR結束第一種（口縁：弁状突起+隆帯文、口唇LRキザミ）	29.1	—	(26.5)
Ⅱ-55	32		88	M-14- 7	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	RL－LR結束第一種（口縁：弁状突起+単位下穿孔+隆帯文、口唇LRキザミ）	—	—	(16.3)
Ⅱ-55	32		89	L-14- 3ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	隆線文、口縁：弁状？突起（欠損）	23.0	—	(17.3)
Ⅱ-55	32		90	L-13-17ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	RL+口縁：弁状突起（突起上+L）+隆帯文+刺突列、口唇Lキザミ	—	—	(11.5)
Ⅱ-55	32		91	O-12-11ほか	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類2種	LR（結紮系痕顕著）+口縁：弁状突起+隆帯文+L縄線文、口唇+LR			
Ⅱ-55	32		92	J-11- 9ほか	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類2種	LR（ヨコ・タテ）+口縁：弁状突起+隆帯文（+LR） +単位下穿孔、口唇Rキザミ			
Ⅱ-56	32		93	O-12-15ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	RL+２本組平行沈線（竹管文充填） +口縁：獣耳状突起＋沈線、口唇Lキザミ	(34.6)	—	(32.0)
Ⅱ-56	33		94	P-12- 2ほか	撹乱	深鉢	Ⅲ群A類2種	RL+沈線+口縁：弁状突起、口唇：棒状工具キザミ、 底部付近ミガキ（タテ）、補修孔	18.6	6.1	22.7
Ⅱ-56	33		95	P-12- 2ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	RL+沈線+口縁：弁状突起+隆帯文、口唇RLキザミ	19.8	—	(21.5)
Ⅱ-57	33		96	M-14- 7ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	LR（ヨコ・タテ）+単位下垂下沈線+横走・弧状沈線+貼瘤 +口縁：弁状突起（RLキザミ）+持ち手状貼付+LR押捺	32.8	—	(42.3)
Ⅱ-57	33		97	O-11-11	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類2種	RL+沈線、口縁：山形突起+隆帯文+R縄線文、口唇Rキザミ			
Ⅱ-57	33		98	Q-12ほか	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類2種	LR+LRL+沈線+口縁：山形突起+隆帯文、口唇RLキザミ			
Ⅱ-57	33		99	P-12- 5	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類2種	RL（＼）+沈線+口縁：山形突起 +隆帯文（U字状・渦巻状）、口唇：肥厚+Lキザミ			
Ⅱ-58	34		100	M-14-18ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	RL－LR結束第一種、口縁：山形突起	21.7	—	(20.6)
Ⅱ-58	34		101	H-11-21	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類2種	RL（結紮系痕顕著）、口縁：山形突起、口唇RLキザミ			
Ⅱ-58	34		102	L-13-24	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類2種	LRL+口唇+RR、口縁：山形突起（肥厚）			

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種/部位	分類	文様・調整・貼付など　（※特記ない場合は施文原体は横回転）	計測値　（cm）		
									口径	底径	器高
Ⅱ-58	34		103	L-13-14ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	RL－RL結束第一種、（内面ミガキ顕著）	28.7	13.7	39.9
Ⅱ-58	34		104	L-13-24	Ⅲ	口縁	Ⅲ群A類2種	RL－LR結束第一種、補修孔（未貫通）			
Ⅱ-58	34		105	I- 5-25ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群A類2種	LR（ヨコ・部分的にタテ）+綾絡文（別）（口縁：肥厚帯？剥落）	(16.9)	9.2	23.5
Ⅱ-59	34		106	I- 7-20	Ⅲ	胴部	Ⅲ群B類1種	RL+沈線（平行・円形）			
Ⅱ-59	34		107	M-14- 8	Ⅲ	胴	Ⅲ群B類1種	RL+逆Uの字状沈線			
Ⅱ-59	35		108	M-14- 6	Ⅲ	口縁	Ⅲ群B類1種	LR（＼）+RL平行縄線文（横走・垂下）			
Ⅱ-59	35		109	M-14-25	Ⅲ	口縁	Ⅲ群B類1種	LR+L平行縄線文（横走・垂下）			
Ⅱ-59	35		110	L-14	Ⅲ	口縁	Ⅲ群B類1種	RL（＼）、口縁：L縄線文+２個1対の山形小突起+垂下隆帯+刺突列			
Ⅱ-59	35		111	M-14- 7	Ⅲ	口縁	Ⅲ群B類1種	LR（タテ）+LR縄線文+隆帯文（+キザミ）、口唇キザミ			
Ⅱ-59	35		112	L-14-20	Ⅲ	胴部	Ⅲ群B類1種	LR（＼）+綾絡文（別）+L縄線文（タテ） +隆帯文+L縄線文、輪積痕明瞭、内面指頭整形痕明瞭			
Ⅱ-59	35		113	M-14-15	Ⅲ	胴部	Ⅲ群B類1種	LR（＼・ヨコ）+隆帯文（+竹管状工具刺突列） +LR縄線文（横走・垂下）			
Ⅱ-59	35		114	L-14-18ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群B類1種	LR（胴部：タテ+＼、口縁：ヨコ）、輪積痕顕著	(20.5)	—	(25.1)
Ⅱ-59	35		115	J-11-19	Ⅲ	ロ-胴	Ⅲ群B類1種	LR（タテ・＼・ヨコ）			
Ⅱ-59	35		116	M-14- 8	Ⅲ	口縁	Ⅲ群B類1種	RRR（＼）、口唇RRR			
Ⅱ-59	35		117	L-13-15ほか	Ⅲ	鉢	Ⅲ群B類1種	無文	—	4.2	9.0
Ⅱ-60	35		118	K-14-25ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群B類2種	LR（ヨコ・＼）（微隆起帯+LR縄線文）	22.4	—	(18.3)
Ⅱ-60	35		119	M-13-12	Ⅲ	口縁	Ⅲ群B類2種	RL（＼）+垂下微隆起帯+RL縄線文、口縁：短刻線文			
Ⅱ-60	35		120	L-13-10	Ⅲ	口縁	Ⅲ群B類2種	LR（タテ）+口縁：短刻線列			
Ⅱ-60	35		121	K-15-15	Ⅲ	口縁	Ⅲ群B類2種	RL（タテ）+微隆起帯+RL+短刻線列			
Ⅱ-60	35		122	M-14- 2	Ⅲ	口縁	Ⅲ群B類2種	RL（タテ）+短刻線列			
Ⅱ-60	35		123	O-12- 1ほか	Ⅲ	口縁	Ⅲ群B類2種	LR（＼）+短刻線列			
Ⅱ-60	35		124	L-14- 1	Ⅲ	口縁	Ⅲ群B類2種	LR（タテ）+口縁：短刻線列			
Ⅱ-60	35		125	L-14	Ⅲ	口縁	Ⅲ群B類2種	LR（タテ）+口縁：短刻線列			
Ⅱ-60	35		126	L-13-16	Ⅲ	胴部	Ⅲ群B類2種	LR（＼）+微隆起帯+短刻線列			
Ⅱ-60	35		127	L-13-21ほか	Ⅲ	胴部	Ⅲ群B類2種	RL+垂下微隆起帯+短刻線列			
Ⅱ-60	36		128	J-15- 3ほか	Ⅲ	ロ-胴	Ⅲ群B類2種	RL（タテ）+隆起帯+キザミ（口縁・胴部）+垂下隆起帯+刺突列・キザミ			
Ⅱ-60	36		129	L-14-18ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅲ群B類2種	LR（タテ）+口縁籠状隆帯（+LR） +獣耳状突起、籠状隆帯+縄端圧痕列	14.6	6.2	24.7
Ⅱ-61	36		130	L-13-12ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+籠状隆帯（+LR+刺突列）			
Ⅱ-61	36		131	L-13-23	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR+籠状隆帯（+刺突列）			
Ⅱ-61	36		132	K-13-25ほか	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+籠状隆帯（+LR）			
Ⅱ-61	36		133	L-13-22	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ、結紮系痕顕著）+籠状隆帯（+LR）			
Ⅱ-61	36		134	M-14- 7ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ、結紮系痕顕著）+籠状隆帯（+LR）			
Ⅱ-61	36		135	L-14-12	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	RL+籠状隆帯（+LR）			
Ⅱ-61	37		136	L-14-11	Ⅲ	胴部	Ⅳ群A類1種	LR（タテ、結紮系痕顕著）+籠状隆帯（+LR）			
Ⅱ-61	37		137	L-13-22	Ⅲ	胴部	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+籠状隆帯（+LR）			
Ⅱ-62	37		138	K-14- 4	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	RL+籠状隆帯（+LR）			
Ⅱ-62	37		139	J-11-21	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+籠状隆帯（+LR）			
Ⅱ-62	37		140	J-12- 4ほか	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+籠状隆帯（+LR）			
Ⅱ-62	37		141	L-13-15ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁無文帯（+籠状隆帯+LR）	(20.7)	—	(9.9)
Ⅱ-62	37		142	J-13- 1	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁無文帯（+籠状隆帯+LR）			
Ⅱ-62	37		143	L-13-16	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ、結紮系痕顕著）+口縁無文帯（+籠状隆帯+LR）			
Ⅱ-62	37		144	M-13-17	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁無文帯（+籠状隆帯+LR）			
Ⅱ-62	37		145	M-13- 6	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	RL（タテ）+口縁無文帯（+籠状隆帯+RL）			
Ⅱ-62	37		146	N-12-20	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（＼）+口縁無文帯（+籠状隆帯+LR）			
Ⅱ-62	37		147	G- 6-13	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	RL（タテ）+口縁無文帯（+籠状隆帯+垂下隆帯+RL）			
Ⅱ-62	37		148	I-11- 5	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁無文帯（+籠状隆帯+垂下隆帯+LR）			
Ⅱ-62	38		149	M-13-25	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	RL+口縁無文帯+籠状隆帯+山形隆帯+RL（タテ）、補修孔			
Ⅱ-62	38		150	O-11-23	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁無文帯（+折返口縁+籠状隆帯+垂下隆帯+LR）			
Ⅱ-62	38		151	K-14	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁無文帯（+口縁+籠状隆帯+LR+LR縄線文）			
Ⅱ-62	38		152	J-14-23	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	RL（タテ）+口縁無文帯（+籠状隆帯+RL縄線文）			

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種/部位	分類	文様・調整・貼付など　（※特記ない場合は施文原体は横回転）	計測値　(cm)		
									口径	底径	器高
Ⅱ-63	38		153	M-14ほか	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁無文帯（+箍状隆帯＋斜位隆帯+LR）+LR縄線文			
Ⅱ-63	38		154	M-13-11	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁無文帯（+箍状隆帯+垂下隆帯）+LR縄線文			
Ⅱ-63	38		155	L-14- 8ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	LR（タテ＋部分的にヨコ）+口縁無文帯 （+折返口縁（+LR）、隆起帯＋縄端圧痕列）	—	5.1	14.2
Ⅱ-63	38		156	M-13-21	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	RL－LR+口縁無文帯+箍状隆帯+LR縄線文			
Ⅱ-63	38		157	L-14- 5ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	LRL（タテ・＼）+口縁無文帯+LRL縄線文 +山形小突起+折返口縁、口唇：竹管文、底角：ケズリ（ヨコ）	(15.1)	9.2	21.0
Ⅱ-63	38		158	M-13-16	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁無文帯+R縄線文、輪積痕明瞭、口縁部突起（欠損）			
Ⅱ-63	38		159	L-13-24ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	RL+LR（タテ）+口縁無文帯+LR縄線文、 口縁：指頭による整形痕明瞭	20.6	—	(14.5)
Ⅱ-63	38		160	L-13-21ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	RL（＼）+口縁無文帯+キザミのある山形突起+RL縄線文	—	—	(18.9)
Ⅱ-63	38		161	L-14	撹乱	口縁	Ⅳ群A類1種	LR+口縁部無文帯+LR縄線文			
Ⅱ-63	38		162	L-14	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR+口縁部無文帯+LR縄線文			
Ⅱ-66	38		163	L-13- 9	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁無文帯+LR縄線文（横走・弧状）			
Ⅱ-63	38		164	G- 7- 9	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	キザミのある山形突起+突起下穿孔+稈刺突列			
Ⅱ-63	38		165	M-14-12	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	稈刺突列+沈線			
Ⅱ-63	38		166	M-13-11	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	稈刺突列+沈線			
Ⅱ-63	39		167	L-13-20	Ⅲ	胴-底	Ⅳ群A類1種	R撚糸文（網目状）			
Ⅱ-64	39		168	L-14-21ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	RL（タテ）+箍状隆帯（+RL）	32.3	—	(28.6)
Ⅱ-64	39		169	M-13-15ほか	Ⅲ	ロ-胴下半	Ⅳ群A類1種	RL（タテ、結紮系痕顕著）+箍状隆帯（+RL、結紮系痕顕著）	(15.2)	—	(16.2)
Ⅱ-64	39		170	M-13-13	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	RL（タテ）+箍状隆帯（+RL）			
Ⅱ-64	39		171	L-13-16	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	RL（タテ）+箍状隆帯（+RL）			
Ⅱ-64	39		172	L-13-20	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+箍状隆帯（+LR）			
Ⅱ-64	39		173	L-13-20	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+箍状隆帯・口縁（+LR）			
Ⅱ-65	40		174	M-14- 1ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+箍状隆帯・口縁（+LR）	26.5	—	(34.4)
Ⅱ-65	40		175	—	表採	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ・ヨコ、羽状）+箍状隆帯（+LR）			
Ⅱ-65	40		176	H-12- 8	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	R撚糸文（タテ）+箍状隆帯・口縁（+R撚糸文）			
Ⅱ-65	40		177	L-13-15ほか	Ⅲ	鉢	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）（折返口縁+LR+LR縄線文）	15.7	—	15.7
Ⅱ-65	40		178	J-13-14	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	RL（タテ）+RL縄線文（タテ）+折返口縁（+RL+半截稈刺突列）			
Ⅱ-65	40		179	K-13-19ほか	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+箍状隆帯（+LR）			
Ⅱ-65	40		180	L-13-25	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	LR（タテ、結紮系痕顕著）+箍状隆帯（+LR+LR縄線文）			
Ⅱ-66	40		181	I-13- 3	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	L＋L縄線文、胴部：ケズリ（＼）			
Ⅱ-66	40		182	H- 7- 9	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁部無文帯+LR縄線文			
Ⅱ-66	40		183	I-11- 9ほか	Ⅲ	鉢	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁無文帯+LR縄線文、口唇LR	9.8	(2.3)	12.2
Ⅱ-66	41		184	J-12-22	Ⅲ	鉢	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁低い半円状突起+LR縄線文	—	(7.1)	15.4
Ⅱ-66	41		185	I-13- 7ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁部LR（羽状）+口縁部無文帯+LR縄線文			
Ⅱ-66	41		186	J-14-22	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+折返口縁・口縁+LR+LR縄線文			
Ⅱ-66	41		187	L-13-16	Ⅲ	ロ-胴下半	Ⅳ群A類1種	L（タテ）+折返口縁+L縄線文			
Ⅱ-66	41		188	G-12- 7	Ⅱ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+L縄線文+竹管状工具刺突列			
Ⅱ-66	41		189	M-13-25	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	LR-LR結束第一種（タテ）+口縁：LR+LR縄線文			
Ⅱ-66	41		190	P-10	Ⅰ	口縁	Ⅳ群A類1種	R・L・R撚糸文（タテ）+LR縄線文			
Ⅱ-66	41		191	M-12-23ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ・＼）+LR縄線文			
Ⅱ-66	41		192	L-13-10	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（＼）+LR縄線文			
Ⅱ-66	41		193	G- 7- 1	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+LR縄線文、口縁：山形小突起			
Ⅱ-66	41		194	H- 8-24	撹乱	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+LR縄線文			
Ⅱ-63	41		195	K-15-20	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	RL+口縁部無文帯+LR縄線文、口縁：山形小突起			
Ⅱ-66	41		196	M-13- 8ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+LR縄線文			
Ⅱ-67	41		197	M-13-16ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	LR（同撚原体を軸とした付加状、タテ）+LR縄線文	22.2	11.3	41.7
Ⅱ-67	42		198	L-13-13	Ⅲ	ロ-胴下半	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+LR縄線文			
Ⅱ-67	42		199	L-13-19ほか	Ⅲ	ロ-胴下半	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁：LR+LR縄線文			
Ⅱ-67	42		200	L-13-25ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR+R（タテ）+綾繰文（タテ、別）、口縁：LR+綾繰文（別）、 口縁内面：指頭整形痕顕著			
Ⅱ-67	42		201	M-13-14ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LRL（＼）+折返口縁+LRL縄線文			
Ⅱ-67	42		202	M-13-22	Ⅲ	胴-底	Ⅳ群A類1種	LRL（＼）、底部ミガキ（ヨコ）			

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種/部位	分類	文様・調整・貼付など　（※特記ない場合は施文原体は横回転）	計測値　(cm)		
									口径	底径	器高
Ⅱ-67	42		203	J-14-23ほか	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	R単軸結条体第５類（網目状撚糸文）+LR縄線文	11.0	—	(9.2)
Ⅱ-68	42		204	L-13-12	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	RL（ヨコ・＼）+折返口縁（無文）			
Ⅱ-68	42		205	M-14- 8	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	LRL+折返口縁（無文）			
Ⅱ-68	42		206	J-14-13	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+折返口縁（無文）			
Ⅱ-68	42		207	L-13-20	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+折返口縁（無文）			
Ⅱ-68	42		208	L-13-15	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	無文+折返口縁（無文）、指頭調整痕顕著			
Ⅱ-68	42		209	M-13-16	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+折返口縁+LR縄線文、口唇LR			
Ⅱ-68	42		210	L-13- 8	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	RL・LR（羽状）+折返口縁+LR縄線文			
Ⅱ-68	42		211	M-13-22ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+折返口縁（無文）+半截稈刺突列			
Ⅱ-68	42		212	I- 7-16	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	無文+半截稈刺突列+折返口縁+半截稈刺突列、口唇LR			
Ⅱ-68	42		213	G- 7	Ⅰ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）＋刺突列+LR縄線文 +折返口縁（無文+刺突列）、口唇LR			
Ⅱ-68	43		214	H- 6-16ほか	Ⅲ	ロ-胴下半	Ⅳ群A類1種	R撚糸文（タテ）+折返口縁（無文）			
Ⅱ-68	43		215	L-14-12	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	R撚糸文（タテ）+折返口縁（無文）			
Ⅱ-68	43		216	L-13-20	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	R撚糸文（タテ）+折返口縁（無文）			
Ⅱ-68	43		217	M-13-17	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	L撚糸文（タテ）+折返口縁（無文）			
Ⅱ-69	43		218	M-14- 3ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	L（タテ・／、結紮系痕顕著）+口縁無文帯、 口縁内外指頭痕顕著、底角：ケズリ（ヨコ）	20.7	6.4	22.3
Ⅱ-69	43		219	M-13-11	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	LR－LR結束第一種（タテ）+口縁無文帯 +LR－LR結束第一種（結紮系痕顕著）			
Ⅱ-69	43		220	M-13-13ほか	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	LR－RL結束第一種（タテ）+口縁（LR－RL結束第一種）			
Ⅱ-69	43		221	L-13-10ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁（+LR）			
Ⅱ-69	43		222	L-13-14ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	RL+折返口縁+口縁（+RLタテ）	11.9	—	(10.8)
Ⅱ-69	43		223	L-14-20	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR・RL（羽状）+折返口縁+口縁（+LR）			
Ⅱ-69	43		224	L-13- 4	Ⅲ	ロ-胴下半	Ⅳ群A類1種	RL（タテ）+口縁（+RL）			
Ⅱ-69	43		225	L-14-23	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁（+LR）			
Ⅱ-70	43		226	L-14-14ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+折返口縁（+LR）	15.2	—	(16.9)
Ⅱ-70	43		227	K-13-25ほか	Ⅲ	鉢	Ⅳ群A類1種	RL（／）+折返口縁	12.4	6.5	13.3
Ⅱ-70	44		228	I-4-18ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	RL付加条（タテ）+折返口縁+RL	28.0	—	(26.3)
Ⅱ-70	44		229	L-13-12	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	L撚糸文（タテ）+口縁：L撚糸文+棒状工具刺突文			
Ⅱ-70	44		230	J-11-17	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	R撚糸文（タテ）+口縁：LR			
Ⅱ-70	44		231	J-13-19	Ⅲ	ロ-胴下半	Ⅳ群A類1種	LR（タテ、結紮系痕顕著）	(26.6)	—	(30.8)
Ⅱ-71	44		232	J-12-22	Ⅲ	ロ-胴下半	Ⅳ群A類1種	LR反撚縄（タテ+ナデ）+口縁：LR			
Ⅱ-71	44		233	I-11-20	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	RL（タテ）+口縁：RL（＼）			
Ⅱ-71	44		234	J-14-24	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	R撚糸文（斜格子状）			
Ⅱ-71	44		235	J- 7-16	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	無節L撚糸文（タテ）			
Ⅱ-71	44		236	J-14-21	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	R撚糸文（タテ）、口縁：山形突起			
Ⅱ-71	44		237	J-12-15	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	L撚糸文（タテ）			
Ⅱ-71	44		238	L-13- 6	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	RL（※3本撚り？タテ）、口縁：山形小突起	(14.5)	—	19.3
Ⅱ-71	44		239	G- 7- 1	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁：LR（＼）+山形小突起（+キザミ）			
Ⅱ-71	45		240	J-11-25ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）	15.3	—	(15.4)
Ⅱ-71	45		241	L-13-21ほか	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	LR（タテ、結紮系痕顕著）			
Ⅱ-71	45		242	L-13-15	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）			
Ⅱ-72	45		243	M-13-16ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）	17.7	—	23.4
Ⅱ-72	45		244	J-12-22	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口縁：LR・＼、底部付近ミガキ（ヨコ）	—	6.2	20.2
Ⅱ-72	45		245	I-11-15	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+口唇：LR、底部付近ナデ調整（ヨコ）	—	5.4	10.0
Ⅱ-72	45		246	M-13-22ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類1種	無文、調整痕（タテ）	8.2	3.9	9.2
Ⅱ-72	45		247	M-13-21	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	LR付加条（タテ）			
Ⅱ-72	45		248	L-14-14ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	R撚糸文（タテ）、補修孔			
Ⅱ-72	45		249	L-13-17ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類1種	L撚糸文（タテ）			
Ⅱ-72	45		250	L-13-25ほか	Ⅲ	胴部	Ⅳ群A類1種	LR付加条（タテ、結紮系痕顕著）			
Ⅱ-72	45		251	L-12- 8	Ⅲ	底部	Ⅳ群A類1種	RL（タテ）、底面：葉脈痕	—	7.4	(2.6)

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種/部位	分類	文様・調整・貼付など　（※特記ない場合は施文原体は横回転）	計測値　(cm)		
									口径	底径	器高
Ⅱ-72	45		252	L-14-15	Ⅲ	胴-底	Ⅳ群A類1種	RL、底角：ケズリ（ヨコ）、底面：葉脈痕	—	7.9	(5.3)
Ⅱ-72	45		253	K-14-10	Ⅲ	胴-底	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）、底面：葉脈痕	—	6.2	(6.2)
Ⅱ-73	46		254	L-13-16ほか	Ⅲ	底部	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）、底面：葉脈痕	—	(14.5)	(3.0)
Ⅱ-73	46		255	L-14-13	Ⅲ	胴-底	Ⅳ群A類1種	R撚糸文（斜格子状）、底面：葉脈痕			
Ⅱ-73	46		256	L-13-20	Ⅲ	胴-底	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）、底面：LR	—	8.4	(4.4)
Ⅱ-73	46		257	M-14- 3	Ⅲ	胴-底	Ⅳ群A類1種	RL、底面：網代痕、輪積痕明瞭	—	5.9	(4.3)
Ⅱ-73	46		258	M-13-16	Ⅲ	底部	Ⅳ群A類1種	底面：網代痕	—	(8.5)	(3.0)
Ⅱ-73	46		259	K-11-18	Ⅲ	ロ-胴/鉢	Ⅳ群A類1種	無文+折返口縁、輪積痕明瞭	(11.8)	—	(5.5)
Ⅱ-73	46		260	J-12	Ⅲ	口縁/壺	Ⅳ群A類1種	LR（タテ）+折返口縁（無文、襞状2段）	(14.8)	—	(9.2)
Ⅱ-74	46		261	M-14- 8ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類2種	LR（タテ）+口縁無文帯+刺突列+ボタン状貼付 +弧状隆帯文(+刺突列)、補修孔　※文様単位：4	20.3	—	-24.6
Ⅱ-74	46		262	J-11-19ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類2種	LR（タテ・一部ヨコ）+口縁無文帯+山形突起（頂部縄端キザミ） +隆帯文+縄端圧痕列+ボタン状貼付	—	—	-14.3
Ⅱ-74	47		263	M-13-11	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	LR（タテ）+口縁無文帯+弧状貼付+ボタン状貼付			
Ⅱ-74	47		264	M-13- 1	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	RL（／）+口縁山形突起+ボタン状貼付+弧状隆帯文+刺突列			
Ⅱ-74	47		265	H-12-21	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	LR（タテ）+口縁山形突起＋ボタン状貼付+弧状隆帯文+刺突列			
Ⅱ-74	47		266	J-11-21	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	LR＋R（＼）+口縁山形小突起＋弧状隆帯文+刺突列			
Ⅱ-74	47		267	L-13- 3	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	LR（＼）+口縁山形小突起+弧状隆帯文+刺突列			
Ⅱ-74	47		268	L-14-18	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	口縁山形突起（頂部キザミ）+隆帯刺突列+ボタン状貼付			
Ⅱ-74	47		269	L-13	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	口縁：垂下隆帯+刺突列			
Ⅱ-74	47		270	L-13-20ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類2種	LR（タテ）+口縁無文帯+LR縄線文+弧状隆帯+LR縄線文	16.1	—	(9.3)
Ⅱ-74	47		271	L-13-14ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類2種	LR（タテ）+箍状隆帯（+LR）+タテ綾絡文（別） +口縁無文帯+連弧状隆帯+ボタン状貼付	35.1	—	(22.6)
Ⅱ-74	47		272	L-13-25ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類2種	L（タテ）+口縁（L）+隆帯刺突列+ボタン状貼付	—	6.2	13.6
Ⅱ-75	47		273	M-13-11ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	RL+沈線+口縁無文帯+山形突起+突起下ボタン状貼付 +垂下刺突列+刺突列			
Ⅱ-75	47		274	L-13-15	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	RL+沈線+口縁無文帯+ボタン状貼付+刺突列（タテ・ヨコ）			
Ⅱ-75	47		275	M-13-21	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	L縄線文+ボタン状貼付			
Ⅱ-75	47		276	M-14-15	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	LR（タテ）+口縁：獣耳状突起+ボタン状貼付+L縄線文			
Ⅱ-75	47		277	L-12-25ほか	Ⅲ	胴部	Ⅳ群A類2種	刺突文（タテ）+隆帯文+キザミ+ボタン状貼付			
Ⅱ-75	47		278	M-13-22ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類2種	隆帯刺突列、補修孔	14.7	—	(19.0)
Ⅱ-75	47		279	K-15-13ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類2種	L（タテ、口唇の一部ヨコ）+口縁：山形突起3か所、 突起下ボタン状貼付、輪積痕顕著	(11.4)	—	(12.0)
Ⅱ-75	47		280	L-13- 9	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	RL（／）+口縁：キザミのある山形小突起+ボタン状貼付			
Ⅱ-75	47		281	L-13- 8	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	LR（タテ）+口縁：山形小突起+R縄線文+ボタン状貼付、輪積痕明瞭			
Ⅱ-75	48		282	M-13-22ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	RL（＼）+口縁無文帯+刺突列			
Ⅱ-75	48		283	L-13-12	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類2種	RL（＼）+口縁無文帯+縄端圧痕			
Ⅱ-75	48		284	I- 8-23	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	R撚糸文（タテ）+口縁無文帯+R単軸絡条体圧痕文			
Ⅱ-75	48		285	J-14-23	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	LR+口縁無文帯+刺突列、補修孔、内外面黒色付着物			
Ⅱ-75	48		286	L-14	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類2種	LR（タテ）+刺突列、補修孔			
Ⅱ-75	48		287	M-13-22ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類2種	竹管状工具刺突列+角形刺突列	—	6.9	(9.1)
Ⅱ-75	48		288	L-14-22	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群A類2種	RL（／）+口縁：突起（突起下穿孔）、輪積痕明瞭			
Ⅱ-75	48		289	L-13-12ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類2種	RL（＼）+片口口縁：RL縄線文（横走・垂下・ループ状）	12.9	5.5	20.2
Ⅱ-76	48		290	J-11-13ほか	Ⅲ	深鉢？	Ⅳ群A類2種	J字状・波頭状沈線+充填縄文RL（タテ）+波状口縁+頂部下穿孔	—	—	(24.0)
Ⅱ-76	48		291	M-13-11ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	口縁無文帯+ボタン状貼付+短刻線列			
Ⅱ-76	48		292	P-14-14ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	LR（タテ）+口縁無文帯+沈線+短刻線列			
Ⅱ-76	48		293	L-13-15ほか	Ⅲ	胴部	Ⅳ群A類2種	LR（タテ）+口縁部無文帯+波状沈線+沈線+短刻線列			
Ⅱ-76	48		294	L-13-23ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類2種	LR（タテ）+沈線+逆S字状磨消縄文、口縁突起欠損、輪積痕明瞭	16.6	—	(12.6)
Ⅱ-76	48		295	H- 7- 6	撹乱	口縁	Ⅳ群A類2種	LR（ヨコ・タテ）+沈線+口縁山形突起+ボタン状貼付			
Ⅱ-76	48		296	M-13-16	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	沈線＋刺突列			
Ⅱ-76	48		297	J-11-21	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	LR（タテ）+沈線			
Ⅱ-76	48		298	J-11-19	撹乱	口縁	Ⅳ群A類2種	LR（タテ）+沈線+口縁：小突起			
Ⅱ-76	49		299	M-14- 7ほか	Ⅲ	胴部	Ⅳ群A類2種	LR（／）+「C」字状沈線+縄端圧痕列			

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種/部位	分類	文様・調整・貼付など　（※特記ない場合は施文原体は横回転）	計測値　(cm)		
									口径	底径	器高
Ⅱ-76	49		300	K-14-12ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類2種	弧状沈線+「Ｊ」字状充填縄文LR（タテ） +口縁：山形小突起+ボタン状貼付、補修孔	20.9	—	(18.1)
Ⅱ-76	49		301	L-13- 9	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	LR（タテ）+波状沈線（タテ）+口縁：山形小突起			
Ⅱ-76	49		302	H- 7 -6	撹乱	口縁	Ⅳ群A類2種	LR（タテ）+波状沈線+LR縄線文			
Ⅱ-76	49		303	J-15-10	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	LR（ヨコ・タテ）+波状沈線			
Ⅱ-76	49		304	L-13-11ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	LR（タテ）+波状沈線			
Ⅱ-77	49		305	L-14-13ほか	Ⅲ	胴部	Ⅳ群A類2種	無文帯（+ミガキ）+平行沈線・波頭状沈線+（充填縄文+RL／）、 内面付着物：黒漆？、内面ミガキ顕著			
Ⅱ-77	49		306	L-14- 6	Ⅲ	底部	Ⅳ群A類2種	RL（／施文後ミガキ）（底面：網代痕）、 内面付着物：黒漆？、内面ミガキ顕著	—	(12.2)	(5.4)
Ⅱ-77	49		307	L-13- 9ほか	Ⅲ	胴部	Ⅳ群A類2種	RL（／）+沈線			
Ⅱ-77	49		308	L-13-15	Ⅲ	胴部	Ⅳ群A類2種	LR+波状沈線、外面朱彩			
Ⅱ-77	49		309	M-13-11	Ⅲ	底部	Ⅳ群A類2種	RL+入組状沈線	4.8	—	(4.2)
Ⅱ-77	49		310	L-14-10ほか	Ⅲ	壺	Ⅳ群A類2種	R撚糸文（タテ）+口縁：無文帯	(9.3)	—	(17.2)
Ⅱ-77	50		311	I-14-25ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群A類2種	LR（タテ・＼）+L・R縄線文（タテ・「Ｓ」字状）、 口縁：無文帯+山形小突起（頂部キザミ）	—	(2.2)	29.9
Ⅱ-78	50		312	O-11-21ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群A類2種	波状口縁+突起下垂下隆帯+3本組平行沈線			
Ⅱ-78	50		313	L-13-25ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群Ｂ類	山形突起+折返口縁+渦巻状沈線・平行沈線			
Ⅱ-78	50		314	D- 9-20	Ⅲ	口縁	Ⅳ群Ｂ類	口縁：山形突起+蛇行沈線（タテ）			
Ⅱ-78	50		315	K-14- 8ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群Ｂ類	RL（タテ）+斜行沈線+蛇行沈線（タテ）、 口縁無文帯+山形突起＋肥厚帯	16.1	—	(14.0)
Ⅱ-78	50		316	D- 9-19	Ⅲ	口縁	Ⅳ群Ｂ類	RL（タテ）+弧状沈線、口縁無文帯+折返口縁+台形状・山形突起			
Ⅱ-78	50		317	I- 7-21ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群Ｂ類	RL（タテ）+波状口縁（5波状）+折返口縁（無文） +（口縁無文帯+ミガキ・ヨコ）	11.8	—	(11.1)
Ⅱ-78	50		318	M-10- 1	撹乱	口縁	Ⅳ群Ｂ類	LR（タテ）+沈線+口縁無文帯			
Ⅱ-78	50		319	M-10- 1	撹乱	ロ-胴	Ⅳ群Ｂ類	LR（タテ）+沈線+口縁無文帯			
Ⅱ-79	50		320	M-13-21ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群Ｂ類	RL+沈線（平行横走・垂下蛇行）+磨消縄文			
Ⅱ-79	50		321	M-13-21	Ⅲ	胴部	Ⅳ群Ｂ類	RL+沈線（平行横走・垂下蛇行）+磨消縄文			
Ⅱ-79	50		322	L-13-20ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群Ｂ類	沈線（平行横走・三角形状・斜行）、底部付近ケズリ（タテ）	—	5.6	(17.6)
Ⅱ-78	51		323	M-14- 3ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群Ｂ類	RL+口縁無文帯+LR縄線文（平行・三角形状）	—	—	(20.5)
Ⅱ-78	51		324	M-13-16	Ⅲ	胴部	Ⅳ群Ｂ類	LR（タテ）+LR縄線文（平行・三角形状）			
Ⅱ-78	51		325	M-13-15	Ⅲ	胴部	Ⅳ群Ｂ類	LR（タテ）+LR縄線文（平行・渦巻状）			
Ⅱ-79	51		326	E- 9	Ⅲ	口縁	Ⅳ群Ｂ類	箍状隆帯+橋状突起（タテ）+LR（ヨコ・タテ）、無文帯+平行沈線			
Ⅱ-79	51		327	I- 8-19ほか	Ⅲ	壺？	Ⅳ群Ｂ類	箍状隆帯（頸部・胴部）+垂下隆帯	—	—	(18.3)
Ⅱ-78	51		328	J-14-23	Ⅲ	口縁	Ⅳ群Ｂ類	LR（タテ）+沈線、口縁：箍状隆帯（無文）			
Ⅱ-78	51		329	L-13- 7	Ⅲ	口縁	Ⅳ群Ｂ類	LR（タテ）+沈線、口縁：山形突起+箍状隆帯（無文）			
Ⅱ-78	51		330	L-13- 6	Ⅲ	口縁	Ⅳ群Ｂ類	LR（タテ）+円形・長楕円沈線、口縁：山形小突起（+キザミ）			
Ⅱ-78	51		331	P-12-25ほか	Ⅲ	鉢	Ⅳ群Ｂ類	LRL（タテ、地文施文後ナデ）+沈線文、口唇Lキザミ	8.5	4.1	8.5
Ⅱ-79	51		332	M-13-21	Ⅲ	口縁	Ⅳ群Ｂ類	折返口縁+沈線（平行横走）			
Ⅱ-79	51		333	I- 5	撹乱	口縁	Ⅳ群Ｂ類	弧状沈線、山形突起			
Ⅱ-79	51		334	L-13-15ほか	Ⅲ	壺/口縁	Ⅳ群Ｂ類	沈線（横位の長楕円形文）、口唇：肥厚			
Ⅱ-79	51		335	—	表採	胴部	Ⅳ群Ｂ類	渦巻状沈線			
Ⅱ-80	51		336	I-12-19ほか	Ⅲ	ロ-胴	Ⅳ群Ｂ類	口縁：台形状小突起+平行沈線+同心半円状沈線（鱗状）			
Ⅱ-80	51		337	M-14-12	Ⅲ	口縁	Ⅳ群Ｂ類	平行沈線・弧状沈線			
Ⅱ-80	51		338	O-10-25	Ⅲ	口縁	Ⅳ群Ｂ類	集合沈線+集合沈線を囲む沈線			
Ⅱ-80	51		339	Q-13	Ⅲ	胴部	Ⅳ群Ｂ類	集合沈線+集合沈線を囲む沈線			
Ⅱ-80	51		340	H-12-17	Ⅲ	胴下半部	Ⅳ群Ｂ類	集合沈線+集合沈線を囲む沈線（入組状・カニバサミ状）	—	—	(8.6)
Ⅱ-80	51		341	J-14-24	Ⅲ	口縁	Ⅳ群Ｂ類	LR、小波状口縁（単位下穿孔）+横走沈線 +（鋸歯状・「く」の字状沈線）			
Ⅱ-80	51		342	I- 8-21	Ⅲ	胴部	Ⅳ群Ｂ類	LR+横走沈線+同心三角状沈線			
Ⅱ-80	52		343	I- 5- 5	Ⅲ	口縁	Ⅳ群Ｃ類	LR+山形平行沈線、（口唇LR）			
Ⅱ-80	52		344	P-12-16ほか	Ⅲ	台付鉢	Ⅳ群Ｃ類	LR+平行・括弧状沈線、口縁：山形突起+隆帯文（縄線によるキザミ）	(20.6)	7.6	(16.3)
Ⅱ-80	52		345	O-12-10	Ⅲ	口縁	Ⅳ群Ｃ類	LR+平行沈線・括弧状沈線（口縁：突起）			

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種/部位	分類	文様・調整・貼付など　（※特記ない場合は施文原体は横回転）	計測値　(cm)		
									口径	底径	器高
Ⅱ-80	52		346	O-12-10	Ⅲ	口縁	Ⅳ群C類	LR+沈線（幅広の「S」字状沈線の連結）、口縁：突起			
Ⅱ-80	52		347	E- 9	Ⅲ	胴部	Ⅳ群C類	LR+沈線（幅広の「S」字状沈線の連結）			
Ⅱ-81	52		348	L-13-25	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	LR・RL（羽状）+平行横走沈線+磨消帯+ＩＯ突瘤文、 口縁：山形小突起（内面キザミ）			
Ⅱ-81	52		349	L-13-17	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	LR+沈線+磨消帯+ＩＯ突瘤文			
Ⅱ-81	52		350	L-14ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	LR+沈線、口縁：山形突起+ＩＯ突瘤文（突起頂部と突起間）			
Ⅱ-81	52		351	L-13	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	LR・RL（羽状）+沈線+貼瘤文+磨消縄文、口縁：小波状			
Ⅱ-81	52		352	L-11- 1	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	LR・RL（羽状）+沈線+貼瘤文+磨消縄文、口縁：小波状			
Ⅱ-81	52		353	L-13-20	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	LR・RL（羽状）+沈線+貼瘤文+磨消縄文			
Ⅱ-81	52		354	J-15-15	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	LR（タテ）+磨消帯+（貼瘤+刺突）			
Ⅱ-81	52		355	M-13- 1	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	沈線+ＩＯ突瘤文、口唇（+LR）			
Ⅱ-81	52		356	L-13-25	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	条痕文（ヨコ・／）+ＩＯ突瘤文			
Ⅱ-81	52		357	J-14-25	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	LR・RL（羽状）+沈線+ＩＯ突瘤文			
Ⅱ-81	52		358	L-13-25ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	LR+沈線+ＩＯ突瘤文			
Ⅱ-82	52		359	L-13	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	LR+ＩＯ突瘤文			
Ⅱ-82	53		360	J-15-15	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	LR・RL（羽状）+ＩＯ突瘤文			
Ⅱ-82	53		361	L-14-10	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	LR・RL（羽状）+ＩＯ突瘤文			
Ⅱ-82	53		362	K-16-3ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	LR+R+突瘤文、補修孔			
Ⅱ-81	53		363	L-14ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	LR・RL（羽状）+平行横走沈線・短沈線、 口縁：山形小突起+突瘤文（瘤つまみあげ）			
Ⅱ-81	53		364	L-13-18ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	LR（＼・ヨコ）+平行横走沈線、口縁：小波状+突瘤文（瘤摘み出し）			
Ⅱ-81	53		365	L-13-17	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	LR+沈線+突瘤文（瘤摘み出し）			
Ⅱ-82	53		366	L-13-16ほか	Ⅲ	口縁	Ⅳ群D類	LR・RL（羽状）+突瘤文（瘤摘み出し）			
Ⅱ-82	53		367	K-12- 8	Ⅲ	胴部	Ⅳ群D類	RL（ヨコ・＼）+弧状沈線+磨消縄文			
Ⅱ-82	53		368	L-13-25	Ⅲ	胴部	Ⅳ群D類	LR・RL（羽状）+沈線			
Ⅱ-81	53		369	M-13-11ほか	Ⅲ	深鉢	Ⅳ群D類	LR（タテ・ヨコ・＼・／）+入組状沈線+三叉文様、波状口縁	37.3	—	(23.6)
Ⅱ-82	53		370	M-14- 1	Ⅲ	口縁	Ⅴ群	LR+工字状沈線			

(2) 剥片石器

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種	分類	石質	計測値				備考
									長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(cm)	
Ⅱ- 4	7	PD-1	7	J-13-24	覆土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	7.91	4.66	1.81	39.4	
Ⅱ- 4	7	PD-1	8	-	覆土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	7.72	3.84	0.98	24.7	
Ⅱ- 8	8	PD-2	10	O-13-25	床直	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	(4.41)	(2.76)	(0.74)	(7.6)	
Ⅱ- 8	8	PD-2	11	P-13-16	床直	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	(7.46)	(3.63)	(1.01)	(16.8)	
Ⅱ- 8	8	PD-2	12	P-13-22	覆土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	(5.26)	(5.38)	(1.12)	(23.7)	
Ⅱ-11	9	PD-3・10	8	P-11- 2	覆土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	(4.93)	(3.56)	(0.78)	(9.5)	
Ⅱ-11	9	PD-3・10	9	P-11- 2	覆土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	7.03	4.84	2.14	38.5	
Ⅱ-11	9	PD-3・10	10	-	覆土	両面調整石器	Ⅴ群A類	SSh	7.69	4.54	1.96	49.2	
Ⅱ-13	10	PD-4	8	N- 9-21	撹乱	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	(2.35)	1.28	0.37	(0.8)	
Ⅱ-13	10	PD-4	9	N-10- 1	覆土	石槍	Ⅰ群B類	SSh	7.23	2.47	0.85	8.9	
Ⅱ-13	10	PD-4	10	N-10- 1	覆土	石錐	Ⅱ群	SSh	4.21	1.41	0.56	3.1	
Ⅱ-13	10	PD-4	11	M-10- 5	覆土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	(6.00)	3.70	1.16	(16.8)	光沢部有り
Ⅱ-13	10	PD-4	12	N-10- 2	床面	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	(5.25)	(4.75)	(1.99)	(22.4)	黒色付着物
Ⅱ-16	11	PD-6	6	M-10-13	覆土	石鏃	Ⅰ群A類	Ag	(1.92)	1.06	0.34	(0.5)	黒色付着物
Ⅱ-16	11	PD-6	7	M-10-13	覆土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	6.56	3.38	0.81	12.2	光沢部有り
Ⅱ-20	11	PD-8	15	K-11- 8	覆土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	4.66	4.66	1.04	15.9	
Ⅱ-20	11	PD-8	16	K-11-15	覆土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	7.15	5.48	1.21	28.1	
Ⅱ-20	11	PD-8	17	K-11- 9	覆土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	(8.61)	3.67	0.99	(15.3)	
Ⅱ-20	11	PD-8	18	K-11-14	覆土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	7.63	5.73	1.25	30.4	
Ⅱ-20	11	PD-8	19	L-11-11	覆土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	5.72	6.46	1.28	18.3	
Ⅱ-34	12	P-2	1	K-15-19	底直	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	(5.98)	3.59	0.71	(13.0)	光沢部有り
Ⅱ-35	13	P-19	25	P-13-13	覆土	両面調整石器	Ⅴ群A類	SSh	(5.16)	(5.03)	(1.80)	(31.3)	

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種	分類	石質	計測値				備考
									長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(cm)	
Ⅱ-36	14	P-24	30	L- 8-14	底直	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	3.87	1.66	0.45	1.7	
Ⅱ-36	14	P-25	36	Q-12- 7	覆土	スクレイパー	Ⅲ群B類	Tf	3.76	(5.55)	(1.01)	(10.9)	
Ⅱ-37	15	P-33	45	K-12-16	覆土	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	(3.70)	1.60	0.33	(1.4)	
Ⅱ-37	15	P-34	47	K-12-23	底直	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	4.37	5.73	1.45	22.8	光沢部有り
Ⅱ-39	16	FS-1	65	E- 9-17	焼土	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	(5.60)	1.62	0.88	(4.3)	
Ⅱ-39	16	FS-21	68	K-16- 3	焼土	スクレイパー	Ⅲ群B類	Si	5.60	3.85	1.15	15.8	
Ⅱ-40	16	FS-33	75	K-14-19	焼土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	6.80	2.72	0.83	12.2	光沢部有り
Ⅱ-40	16	FS-58	79	N- 9-24	焼土	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	(3.35)	1.57	0.65	(2.3)	
Ⅱ-40	16	FS-64	80	L- 9-12	焼土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	7.21	4.85	1.11	29.4	光沢部有り
Ⅱ-40	16	FS-74	81	J-11-25	焼土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	4.96	5.20	1.24	18.1	光沢部有り
Ⅱ-40	16	FS-75	82	K-12-12	焼土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	3.00	6.03	0.87	11.7	
Ⅱ-40	16	FS-79	83	K-12- 8	焼土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	5.63	2.32	0.45	4.5	
Ⅱ-40	16	FS-81	84	L-12- 6	焼土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	8.03	5.26	2.03	54.5	
Ⅱ-40	16	FS-81	85	L-12- 6	焼土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	7.42	4.28	1.71	44.5	
Ⅱ-40	16	FS-81	86	L-12- 6	焼土	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	7.90	3.85	1.29	28.0	光沢部有り
Ⅱ-40	16	FS-83	87	M-10- 5	焼土	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	2.87	1.15	0.26	0.7	
Ⅱ-83	54		1	H- 5	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	4.61	0.98	0.25	1.1	
Ⅱ-83	54		2	M-12-11	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	2.48	1.63	0.18	0.7	
Ⅱ-83	54		3	J- 5- 4	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	2.00	1.31	0.22	0.5	
Ⅱ-83	54		4	L-13-11	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	2.32	(1.46)	0.22	0.7	
Ⅱ-83	54		5	O-12-15	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	3.16	1.46	0.26	0.9	
Ⅱ-83	54		6	O-12-15	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	3.51	1.49	0.29	1.2	
Ⅱ-83	54		7	L- 9- 4	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	(3.61)	1.21	0.34	1.5	
Ⅱ-83	54		8	M-14- 1	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	(6.14)	1.62	0.62	4.7	
Ⅱ-83	54		9	L-13-22	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	(2.92)	2.11	0.45	2.2	
Ⅱ-83	54		10	J-13- 7	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	3.15	1.49	0.47	2.0	黒色付着物
Ⅱ-83	54		11	G- 9- 7	撹乱	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	2.49	1.31	0.43	1.1	黒色付着物
Ⅱ-83	54		12	K-14- 3	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	2.89	1.51	6.3	2.1	
Ⅱ-83	54		13	H- 5-20	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	Ag	2.39	1.37	0.61	1.5	
Ⅱ-83	54		14	J-11-13	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	Ag	2.46	1.25	0.48	1.2	
Ⅱ-83	54		15	G- 6-19	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	2.40	1.28	0.32	1.0	
Ⅱ-83	54		16	I- 7-13	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	2.64	1.23	0.48	1.2	
Ⅱ-83	54		17	M-13-17	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	3.19	1.26	0.53	1.5	黒色付着物
Ⅱ-83	54		18	K-14-18	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	3.50	1.52	3.9	1.7	黒色付着物
Ⅱ-83	54		19	L-14	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	3.81	(1.37)	0.63	(2.8)	
Ⅱ-83	54		20	I-14- 5	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	3.21	1.35	0.44	1.6	
Ⅱ-83	54		21	M-13-16	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	4.04	1.54	0.41	2.4	
Ⅱ-83	54		22	O-13- 2	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	Ob	(3.66)	1.40	0.35	(1.7)	
Ⅱ-83	54		23	N-14-17	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	(4.45)	1.70	0.71	(5.3)	
Ⅱ-83	54		24	O-11-25	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	3.92	1.63	0.61	3.2	
Ⅱ-83	54		25	M-14-14	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	Ag	(3.61)	1.51	0.49	(2.5)	
Ⅱ-83	54		26	J-11-25	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	Ob	3.69	1.32	0.55	1.8	
Ⅱ-83	54		27	K-14-25	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	Ag	(3.16)	1.46	0.61	(2.5)	
Ⅱ-83	54		28	M-14- 2	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	(2.68)	1.03	0.30	(1.0)	
Ⅱ-83	54		29	M-14	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	Si	(3.84)	1.56	0.60	(2.9)	
Ⅱ-83	54		30	J-13- 9	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	30.3	12.2	5.1	1.7	
Ⅱ-83	54		31	M-14- 7	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	3.72	1.51	0.47	2.0	
Ⅱ-83	54		32	K-14-14	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	(3.19)	1.30	0.49	(1.6)	
Ⅱ-83	54		33	L-14	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	Si	(4.10)	1.34	0.59	(2.9)	
Ⅱ-83	54		34	L-14-17	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	3.30	1.28	0.46	1.8	
Ⅱ-83	54		35	L-13-16	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	3.86	1.38	0.47	2.4	
Ⅱ-83	54		36	N-11-14	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	2.40	0.96	0.35	0.6	
Ⅱ-83	54		37	H- 9-15	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	(4.17)	1.22	0.59	(2.5)	

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種	分類	石質	計測値				備考
									長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(cm)	
Ⅱ-83	54		38	L-13-14	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	(3.82)	1.11	0.43	(1.7)	
Ⅱ-83	54		39	N-10-25	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	(3.21)	1.17	0.52	(1.8)	
Ⅱ-83	54		40	M-12-14	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	1.19	0.85	0.24	0.4	
Ⅱ-84	54		41	H- 7-14	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	4.77	1.36	0.36	2.4	
Ⅱ-84	54		42	L-14-15	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	(4.04)	1.10	0.53	(2.3)	
Ⅱ-84	54		43	L-14-21	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	(4.62)	1.13	0.64	(2.8)	
Ⅱ-84	54		44	O-12-10	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	4.69	1.35	0.60	3.2	
Ⅱ-84	54		45	L-14- 5	Ⅲ	石鏃	Ⅰ群A類	SSh	3.95	1.18	0.65	2.7	
Ⅱ-84	54		46	M-13- 6	Ⅲ	石槍	Ⅰ群B類	SSh	8.98	2.88	1.42	38.0	
Ⅱ-84	54		47	L-13-24	Ⅲ	石槍	Ⅰ群B類	SSh	(8.74)	2.40	1.39	(18.0)	
Ⅱ-84	54		48	K-16-13	Ⅲ	石槍	Ⅰ群B類	SSh	(7.25)	3.61	1.01	(30.2)	
Ⅱ-84	54		49	M-14-18	Ⅲ	石槍	Ⅰ群B類	SSh	5.17	2.59	0.88	10.4	
Ⅱ-84	54		50	I- 7- 6	Ⅲ	石槍	Ⅰ群B類	Ob	7.52	3.35	1.22	25.9	
Ⅱ-84	54		51	K-14-10	Ⅲ	石槍	Ⅰ群B類	SSh	5.15	2.15	0.93	8.4	
Ⅱ-84	54		52	K-14-15	Ⅲ	石槍	Ⅰ群B類	SSh	6.00	2.20	0.90	8.9	
Ⅱ-84	54		53	M-14	Ⅲ	石槍	Ⅰ群B類	SSh	5.70	(2.24)	0.85	(10.1)	
Ⅱ-84	54		54	N- 9- 5	撹乱	石槍	Ⅰ群B類	SSh	11.08	4.05	1.36	50.3	
Ⅱ-84	54		55	M-13-21	Ⅲ	石槍	Ⅰ群B類	Ob	8.77	2.18	0.84	29.2	
Ⅱ-84	54		56	M-14- 8	Ⅲ	石槍	Ⅰ群B類	Ob	(7.74)	(4.32)	(1.32)	(43.2)	
Ⅱ-85	54		57	K-14-15	Ⅲ	石槍	Ⅰ群B類	Ob	(8.19)	(4.10)	(1.17)	(38.1)	
Ⅱ-85	54		58	J-13- 9	Ⅲ	石槍	Ⅰ群B類	SSh	(2.99)	(1.42)	(1.07)	(10.5)	
Ⅱ-85	54		59	L-15-10	Ⅰ	石槍	Ⅰ群B類	SSh	(3.44)	(2.21)	(0.82)	(6.0)	
Ⅱ-85	55		60	M-14-11	Ⅲ	石錐	Ⅱ群	SSh	5.26	4.20	1.16	18.1	
Ⅱ-85	55		61	H- 8- 7	撹乱	石錐	Ⅱ群	SSh	6.26	3.97	0.95	11.8	
Ⅱ-85	55		62	M-14- 7	Ⅲ	石錐	Ⅱ群	SSh	6.16	3.11	1.24	21.6	
Ⅱ-85	55		63	M-13-25	Ⅲ	石錐	Ⅱ群	SSh	5.06	4.23	1.56	24.5	
Ⅱ-85	55		64	J-11-23	Ⅰ	石錐	Ⅱ群	SSh	4.96	4.91	1.47	25.9	
Ⅱ-85	55		65	M-13-22	Ⅲ	石錐	Ⅱ群	SSh	3.77	2.29	0.85	7.0	
Ⅱ-85	55		66	N-18-14	Ⅲ	石錐	Ⅱ群	SSh	5.46	4.28	1.31	17.5	
Ⅱ-85	55		67	L-14-24	Ⅲ	石錐	Ⅱ群	SSh	3.49	1.86	0.85	2.9	
Ⅱ-85	55		68	L-14-13	Ⅲ	石錐	Ⅱ群	SSh	4.35	1.84	0.81	6.0	
Ⅱ-85	55		69	L-13-22	Ⅲ	石錐	Ⅱ群	SSh	3.70	1.44	0.61	3.7	黒色付着物
Ⅱ-85	55		70	L-13-20	Ⅲ	石錐	Ⅱ群	SSh	3.97	1.71	1.08	4.8	
Ⅱ-85	55		71	M-14-12	Ⅲ	石錐	Ⅱ群	SSh	5.50	2.17	0.93	9.9	
Ⅱ-85	55		72	I- 7-17	Ⅲ	石錐	Ⅱ群	SSh	(6.00)	1.36	0.87	(8.2)	
Ⅱ-85	55		73	L-14	Ⅲ	石錐	Ⅱ群	SSh	7.60	1.35	0.91	9.5	
Ⅱ-86	55		74	L-14- 9	Ⅲ	石錐	Ⅱ群	SSh	3.94	1.15	0.42	1.6	黒色付着物
Ⅱ-86	55		75	L-14-10	Ⅲ	石錐	Ⅱ群	SSh	3.21	1.35	0.44	1.6	
Ⅱ-86	55		76	F- 6-24	Ⅲ	石錐	Ⅱ群	SSh	3.89	1.53	0.88	4.5	
Ⅱ-86	55		77	L-14-10	Ⅲ	石錐	Ⅱ群	SSh	3.42	1.62	0.55	2.6	黒色付着物
Ⅱ-86	55		78	I-14- 6	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	6.15	2.82	0.74	8.7	光沢部有り
Ⅱ-86	55		79	J-14-14	撹乱	石匙	Ⅲ群A類	SSh	5.84	3.53	6.7	12.6	
Ⅱ-86	55		80	L-14-11	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	8.26	3.59	0.85	18.6	
Ⅱ-86	55		81	M-14	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	9.00	3.17	1.45	34.8	
Ⅱ-86	55		82	N-14-21	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	Ob	6.04	3.26	1.30	20.2	
Ⅱ-86	55		83	L-14-24	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	6.30	4.32	0.79	14.3	
Ⅱ-86	55		84	N-13- 1	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	4.45	1.43	0.55	3.2	
Ⅱ-86	55		85	L-13-20	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	5.45	5.38	0.86	19.7	
Ⅱ-86	55		86	H- 4-23	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	6.88	3.03	0.80	16.5	
Ⅱ-86	55		87	L-13-22	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	4.68	(7.14)	1.37	(37.0)	
Ⅱ-86	55		88	J-14- 5	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	4.13	4.81	1.01	17.1	
Ⅱ-86	55		89	L-14-20	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	3.82	4.92	0.48	9.2	光沢部有り
Ⅱ-86	55		90	J-12- 7	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	5.43	2.29	0.75	9.7	光沢部有り

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種	分類	石質	計測値				備考
									長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(cm)	
Ⅱ-86	55		91	M-14-12	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	6.50	2.37	0.50	7.5	
Ⅱ-87	55		92	M-14- 2	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	7.90	2.10	0.77	13.6	光沢部有り
Ⅱ-87	55		93	K-13-11	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	(6.54)	2.43	0.84	(11.9)	
Ⅱ-87	55		94	L-16- 4	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	(7.00)	3.36	1.27	(22.8)	
Ⅱ-87	55		95	I-14- 4	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	7.76	3.67	0.94	22.9	
Ⅱ-87	56		96	E- 9-25	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	5.82	3.46	0.66	16.7	
Ⅱ-87	56		97	M-14- 7	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	4.93	3.50	0.78	12.2	光沢部有り
Ⅱ-87	56		98	J-20- 4	撹乱	石匙	Ⅲ群A類	SSh	(5.62)	(3.93)	(7.6)	(12.2)	
Ⅱ-87	56		99	F- 7- 6	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	6.09	4.15	0.84	17.1	光沢部有り
Ⅱ-87	56		100	M-14- 7	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	8.73	2.01	0.81	14.0	光沢部有り
Ⅱ-87	56		101	M-14- 6	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	9.47	1.70	0.70	10.8	
Ⅱ-87	56		102	M-14	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	9.64	2.38	0.92	25.1	光沢部有り
Ⅱ-87	56		103	M-14- 7	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	9.59	2.52	1.12	29.3	
Ⅱ-87	56		104	H- 8-12	撹乱	石匙	Ⅲ群A類	SSh	7.10	2.78	1.15	18.3	
Ⅱ-87	56		105	M-13-22	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	8.37	3.55	0.70	20.2	光沢部有り
Ⅱ-88	56		106	L-14-13	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	8.08	2.90	0.56	13.6	
Ⅱ-88	56		107	L-14- 5	Ⅲ	石匙	Ⅲ群A類	SSh	7.75	3.68	0.68	19.0	
Ⅱ-88	56		108	L-12-20	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	6.41	4.90	1.44	44.6	
Ⅱ-88	56		109	K-14- 3	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	10.32	2.63	1.05	32.4	
Ⅱ-88	56		110	K-13-24	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	6.79	3.99	0.93	28.1	
Ⅱ-88	56		111	L-14-12	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	4.66	4.90	2.21	42.7	
Ⅱ-88	56		112	K-14- 1	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	5.53	5.03	1.43	40.9	
Ⅱ-88	56		113	L-14- 1	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	8.99	3.98	1.82	57.3	
Ⅱ-88	56		114	K-14- 3	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	7.30	3.20	0.99	27.4	
Ⅱ-88	56		115	J-14- 8	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	6.56	3.49	1.33	25.4	
Ⅱ-88	56		116	L-13-11	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	7.00	3.80	1.61	38.3	光沢部有り
Ⅱ-89	56		117	H-13-13	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	6.54	4.62	1.71	46.2	
Ⅱ-89	56		118	J-12-14	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	5.44	8.74	1.30	63.2	
Ⅱ-89	56		119	I- 8-19	Ⅰ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	5.50	9.20	1.79	56.5	光沢部有り
Ⅱ-89	56		120	K-16-15	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	4.99	6.19	1.87	45.6	
Ⅱ-89	56		121	L-13- 8	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	3.50	6.30	1.34	29.2	光沢部有り
Ⅱ-89	57		122	I-13-15	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	9.38	4.29	2.00	84.8	
Ⅱ-89	57		123	J-14- 8	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	6.61	3.87	1.20	42.8	
Ⅱ-89	57		124	L-13-20	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	9.37	2.61	1.41	23.9	
Ⅱ-89	57		125	K-13-10	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	9.4	3.8	1.12	42.2	光沢部有り
Ⅱ-89	57		126	L-14-17	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	8.74	5.50	1.71	90.7	
Ⅱ-89	57		127	J-14- 2	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	7.97	3.71	1.27	34.7	
Ⅱ-90	57		128	K-13-20	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	8.83	4.66	1.41	51.0	
Ⅱ-90	57		129	L-13-09	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	7.50	5.70	1.70	55.2	光沢部有り
Ⅱ-90	57		130	M-13-11	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	8.00	6.50	1.18	55.1	黒色付着物
Ⅱ-90	57		131	L-15- 5	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	7.41	4.01	1.37	38.5	
Ⅱ-90	57		132	H-13- 4	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	69.0	58.8	18.5	72.0	
Ⅱ-90	57		133	G- 7-17	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	7.10	3.90	1.25	37.7	光沢部有り
Ⅱ-90	57		134	M-14-18	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	7.04	4.83	0.93	41.9	光沢部有り
Ⅱ-90	57		135	k-13-20	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	9.25	5.67	1.15	61.3	光沢部有り
Ⅱ-91	57		136	L-14-15	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	7.30	3.30	0.98	27.0	光沢部有り
Ⅱ-91	57		137	L-13-19	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	8.30	4.50	1.03	63.3	光沢部有り
Ⅱ-91	57		138	L-13-25	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	6.70	3.80	1.04	29.4	光沢部有り
Ⅱ-91	57		139	G- 6-20	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	5.30	4.30	1.17	26.4	
Ⅱ-91	57		140	L-13-25	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	5.00	8.50	1.22	56.9	光沢部有り
Ⅱ-91	57		141	M-13-17	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	SSh	5.00	7.30	1.36	50.2	
Ⅱ-91	57		142	K-13-23	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群B類	Si	6.99	4.97	1.74	64.4	

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種	分類	石質	計測値				備考
									長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(cm)	
Ⅱ-91	57		143	L-14-17	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群Ｂ類	SSh	7.72	4.26	1.65	58.0	
Ⅱ-91	57		144	O-11- 1	Ⅲ	スクレイパー	Ⅲ群Ｂ類	SSh	7.94	4.36	1.24	46.3	
Ⅱ-92	58		145	F- 7- 6	Ⅲ	箆状石器	Ⅲ群Ｃ類	SSh	7.27	2.60	1.45	32.8	
Ⅱ-92	58		146	N-14-16	Ⅲ	箆状石器	Ⅲ群Ｃ類	SSh	9.38	3.60	1.99	68.9	
Ⅱ-92	58		147	J-13-19	Ⅲ	箆状石器	Ⅲ群Ｃ類	SSh	8.75	3.65	1.96	56.2	
Ⅱ-92	58		148	N-14-21	Ⅲ	箆状石器	Ⅲ群Ｃ類	SSh	7.08	3.87	1.08	36.6	
Ⅱ-92	58		149	J-14- 6	Ⅲ	箆状石器	Ⅲ群Ｃ類	SSh	8.29	2.89	1.49	38.7	
Ⅱ-92	58		150	M- 8-11	Ⅲ	箆状石器	Ⅲ群Ｃ類	SSh	5.83	3.55	0.95	16.7	
Ⅱ-92	58		151	L-13-17	Ⅲ	箆状石器	Ⅲ群Ｃ類	SSh	5.84	3.89	1.20	20.6	
Ⅱ-92	58		152	I- 9- 8	撹乱	箆状石器	Ⅲ群Ｃ類	SSh	5.71	5.17	1.17	18.5	
Ⅱ-92	58		153	P-12-25	Ⅲ	箆状石器	Ⅲ群Ｃ類	SSh	6.69	4.36	1.72	47.4	
Ⅱ-92	58		154	J-14-25	Ⅲ	箆状石器	Ⅲ群Ｃ類	SSh	7.27	3.85	1.20	29.5	
Ⅱ-93	58		155	J-12-13	Ⅲ	両面調整石器	Ⅴ群Ａ類	SSh	6.10	2.70	1.69	29.2	
Ⅱ-93	58		156	K-14-10	Ⅲ	両面調整石器	Ⅴ群Ａ類	SSh	5.68	2.51	1.57	18.5	
Ⅱ-93	58		157	K-13-22	Ⅲ	両面調整石器	Ⅴ群Ａ類	SSh	10.58	4.56	1.89	78.8	
Ⅱ-93	58		158	L-14-16	Ⅲ	石核	Ⅴ群Ｂ類	SSh	7.38	6.01	4.14	218.0	
Ⅱ-93	58		159	L-14-17	Ⅲ	石核	Ⅴ群Ｂ類	SSh	7.11	5.36	4.17	136.6	
Ⅱ-94	58		160	F-10- 1	Ⅲ	石核	Ⅴ群Ｂ類	SSh	6.55	5.84	4.65	181.4	
Ⅱ-94	58		161	L-14- 7	Ⅲ	石核	Ⅴ群Ｂ類	SSh	9.02	8.85	4.84	262.0	
Ⅱ-94	58		162	I-12-12	Ⅲ	石核	Ⅴ群Ｂ類	SSh	11.23	7.14	6.38	452.0	

(3) 礫石器

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種	分類	石質	計測値				備考
									長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	
Ⅱ- 4	7	PD-1	9	J-14-10	覆土	敲石	Ⅱ群Ｄ類	SI	10.5	7.1	6.7	690	
Ⅱ- 4	7	PD-1	10	J-14- 4	覆土	敲石	Ⅱ群Ｄ類	TMS	10.5	6.8	5.0	450	
Ⅱ- 4	7	PD-1	11	J-14- 4	床直	擦石	Ⅱ群Ａ類	TMS	13.7	6.0	5.3	540	
Ⅱ- 4	7	PD-1	12	J-13-24	床面	擦石	Ⅱ群Ａ類	HbAN	12.5	8.4	3.4	435	
Ⅱ- 4	7	PD-1	13	J-14- 4	覆土	擦石	Ⅱ群Ａ類	RY	12.8	7.4	3.3	240	
Ⅱ- 4	7	PD-1	14	J-14- 4	床面	擦石	Ⅱ群Ｃ類	RY	(7.6)	(6.3)	(4.5)	250	
Ⅱ- 4	7	PD-1	15	J-14-10	床面	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	HbAN	11.4	9.0	6.0	760	
Ⅱ- 5	7	PD-1	16	J-14- 4	床面	使用痕のある礫	Ⅴ群Ｂ類	TSS	(9.8)	(7.6)	(10.5)	830	
Ⅱ- 5	7	PD-1	17	J-14- 4	床面	石皿	Ⅳ群Ａ類	TSS	17.8	14.6	5.6	1,420	側縁に敲打痕・小型
Ⅱ- 5	7	PD-1	18	J-13-23	床面	石皿	Ⅳ群Ａ類	DA	(20.8)	(17.7)	(12.1)	5,100	被熱痕有り
Ⅱ- 5	7	PD-1	19	J-14- 5	床直	石皿	Ⅳ群Ａ類	HbAN	(25.3)	(20.6)	(6.2)	4,900	
Ⅱ- 5	7	PD-1	20	J-14- 9	床面	石皿	Ⅳ群Ａ類	HbAN	(38.0)	(21.4)	15.9	18,900	
Ⅱ- 8	8	PD-2	13	P-13-16	床面	敲石	Ⅱ群Ｄ類	SSH	6.1	4.9	5.1	210	
Ⅱ- 8	8	PD-2	14	P-13-16	覆土	擦石	Ⅱ群Ａ類	TSS	15.6	7.4	4.5	650	
Ⅱ- 8	8	PD-2	15	O-13-20	覆土(上)	擦石	Ⅱ群Ａ類	TSS	(11.4)	(9.1)	(3.4)	470	
Ⅱ- 8	8	PD-2	16	P-13-16	覆土	敲石	Ⅱ群Ｄ類	TSS	12.5	6.1	3.8	345	
Ⅱ- 8	8	PD-2	17	O-13-25	床直	使用痕のある礫	Ⅴ群Ｂ類	TSS	9.3	1.9	0.7	50	
Ⅱ-13	10	PD-4	13	N-10-21	覆土	擦石	Ⅱ群Ａ類	TSS	(14.2)	8.0	4.0	470	SP-2出土
Ⅱ-13	10	PD-4	14	M-10- 5	覆土	加工痕のある礫	Ⅴ群Ａ類	TSS	14.6	10.9	3.9	610	
Ⅱ-15	10	PD-5	4	L- 9-10	床直	敲石	Ⅱ群Ｄ類	SI	8.2	7.2	3.5	275	
Ⅱ-15	10	PD-5	5	L- 9-10	床直	敲石	Ⅱ群Ｄ類	BS	13.1	5.1	2.5	230	
Ⅱ-15	10	PD-5	6	L- 9-15	床面	擦石	Ⅱ群Ａ類	DO	17.1	9.9	5.5	1,180	石組炉、被熱痕有り
Ⅱ-15	10	PD-5	7	L- 9-15	床面	擦石	Ⅱ群Ａ類	TSS	15.9	8.3	3.7	750	石組炉
Ⅱ-15	10	PD-5	8	L- 9-10	床直	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	DA	(11.9)	(6.8)	(6.0)	520	
Ⅱ-15	10	PD-5	9	L- 9-15	覆土	砥石	Ⅳ群Ｃ類	TSS	(20.5)	(11.4)	(4.5)	1,550	
Ⅱ-16	11	PD-6	8	M-10-13	覆土	石斧	Ⅰ群Ａ類	AO	(6.9)	(5.0)	(3.2)	150	
Ⅱ-16	11	PD-6	9	M-10-13	覆土	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	DO	11.4	7.7	4.5	580	
Ⅱ-16	11	PD-6	10	M-10-13	床面	石皿	Ⅳ群Ａ類	DO	54.6	20.3	17.3	28,400	配石
Ⅱ-21	12	PD-8	20	K-11-15	覆土	石斧	Ⅰ群Ａ類	AO	8.5	5.0	2.3	190	
Ⅱ-21	12	PD-8	21	L-11- 6	床面	敲石	Ⅱ群Ｄ類	TSS	11.2	7.6	4.4	580	石組炉、被熱痕有り

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種	分類	石質	計測値				備考
									長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	
Ⅱ-21	12	PD-8	22	K-11-10	覆土	敲石	Ⅱ群D類	SI	10.0	6.1	5.5	490	
Ⅱ-21	12	PD-8	23	K-11-10	覆土	擦石	Ⅱ群A類	PxAN	16.2	8.4	3.2	610	
Ⅱ-21	12	PD-8	24	K-11- 9	覆土	擦石	Ⅱ群A類	TSS	(8.3)	(7.8)	4.2	360	
Ⅱ-21	12	PD-8	25	K-11-10	床面	使用痕のある礫	Ⅴ群B類	TSS	15.5	10.7	3.8	1,015	石組炉構成礫
Ⅱ-21	12	PD-8	26	K-11-15	床面	使用痕のある礫	Ⅴ群B類	TSS	18.3	10.4	4.5	990	石組炉構成礫
Ⅱ-21	12	PD-8	27	K-11- 5	覆土	砥石	Ⅳ群C類	TSS	(17.2)	(10.2)	(5.5)	1,230	被熱痕有り
Ⅱ-23	12	PD-9	4	K-13- 8	覆土	凹石	Ⅱ群E類	TSS	8.9	6.1	2.9	240	
Ⅱ-11	9	PD-3・10	11	O-11-10	覆土	敲石	Ⅱ群D類	DA	15.6	7.3	5.7	780	
Ⅱ-11	9	PD-3・10	12	P-10-22	覆土	敲石	Ⅱ群D類	TSS	7.3	0.3	4.8	300	
Ⅱ-11	9	PD-3・10	13	P-11- 1	覆土	擦石	Ⅱ群A類	TSS	(8.8)	(7.9)	(3.4)	310	
Ⅱ-11	9	PD-3・10	14	P-10-22	覆土	擦石	Ⅴ群A類	DO	24.2	5.6	2.7	365	
Ⅱ-34	12	P-8	6	I-11-23	覆土	擦石	Ⅱ群A類	TSS	16.6	10.6	3.8	730	被熱痕有り
Ⅱ-34	13	P-11	13	K-14-24	覆土	敲石	Ⅱ群D類	TSS	10.0	6.9	2.5	235	
Ⅱ-34	13	P-11	14	K-14	覆土	擦石	Ⅱ群A類	RY	8.8	5.9	1.5	115	SP-5
Ⅱ-34	13	P-12	15	I-11-15	覆土	凹石	Ⅱ群E類	DA	10.6	9.3	5.2	800	
Ⅱ-35	13	P-13	17	L-16-12	覆土	敲石	Ⅱ群D類	SI	9.2	6.2	6.3	490	
Ⅱ-35	13	P-13	18	L-16-12	覆土	擦石	Ⅱ群A類	RY	13.8	7.6	1.9	170	
Ⅱ-35	13	P-16	20	K-14-16	覆土	石皿	Ⅳ群A類	TSS	36.6	17.3	16.6	12,000	一部光沢面有り
Ⅱ-35	13	P-18	24	M-10-12	覆土	石皿	Ⅳ群A類	RY	20.2	(14.8)	(3.2)	1,050	付着物有り
Ⅱ-35	14	P-22	27	M- 8-12	覆土	擦石	Ⅱ群A類	RY	17.7	11.5	2.3	710	
Ⅱ-36	14	P-23	28	L- 8-22	底直	石皿	Ⅳ群A類	HbAN	(31.0)	(23.4)	(13.6)	10,200	付着物有り
Ⅱ-36	14	P-23	29	L- 8-22	覆土	石皿	Ⅳ群A類	TSS	(24.7)	(23.1)	(12.0)	8,900	
Ⅱ-36	14	P-25	37	Q-12- 7	覆土	使用痕のある礫	Ⅴ群B類	TSS	(14.6)	5.8	(3.8)	360	
Ⅱ-36	14	P-25	38	Q-12- 7	覆土	敲石	Ⅱ群D類	RY	9.6	6.6	4.7	370	
Ⅱ-37	14	P-26	43	Q-12-19	覆土	扁平打製石器	Ⅱ群B類	DO	(10.1)	(8.7)	(2.0)	230	
Ⅱ-37	14	P-26	44	Q-12-19	覆土	石皿	Ⅳ群A類	HbAN	26.5	18.0	13.0	7,600	被熱痕有り
Ⅱ-37	15	P-33	46	K-12-17	覆土	石皿	Ⅳ群A類	TSS	(27.6)	(16.5)	(10.0)	4,300	
Ⅱ-38	15	P-36	50	K-12- 6ほか	底面	石皿	Ⅳ群A類	TSS	(22.7)	(21.6)	(7.4)	4,700	被熱痕有り
Ⅱ-38	15	P-36	51	K-12- 6ほか	底面	台石	Ⅳ群B類	DA	42.5	30.5	13.3	19,300	
Ⅱ-38	15	P-37	53	K-10-18	覆土	擦石	Ⅱ群A類	TSS	(10.4)	(7.7)	(2.9)	240	
Ⅱ-38	15	P-40	55	K-12- 8	底直	台石	Ⅳ群B類	HbAN	(19.7)	(15.5)	(11.3)	4,200	
Ⅱ-38	15	P-44	57	K-11- 3	覆土	敲磨器	Ⅱ群F類	TSS	(5.7)	(4.9)	(4.7)	175	
Ⅱ-38	15	TP-1	59	I-11-23	覆土	使用痕のある礫	Ⅴ群B類	TSS	11.2	9.5	4.2	670	
Ⅱ-38	15	TP-2	62	J-12- 2	覆土	擦石	Ⅱ群A類	RY	12.9	7.7	2.1	290	
Ⅱ-39	15	FP-1	63	I-12-20	Ⅲ	台石	Ⅳ群B類	TSS	23.6	12.3	9.9	2,900	
Ⅱ-39	15	FP-2	64	K-12- 8	Ⅲ	砥石	Ⅳ群C類	TSS	16.1	10.8	9.6	2,300	付着物有り
Ⅱ-39	16	FS-21	69	K-16- 3	焼土	石斧	Ⅰ群A類	BKS	9.5	4.8	1.6	100	
Ⅱ-39	16	FS-24	70	J-14-19	焼土	台石	Ⅳ群B類	DA	(20.3)	(16.8)	(11.9)	4,700	顕著な被熱
Ⅱ-39	16	FS-25	71	J-14-19	焼土	敲石	Ⅱ群D類	TSS	7.7	5.4	2.9	160	
Ⅱ-39	16	FS-25	72	J-14-14	焼土	扁平打製石器	Ⅱ群B類	TSS	15.6	11.0	4.5	990	
Ⅱ-40	16	FS-33	76	K-14-19	焼土	北海道式石冠	Ⅱ群C類	RY	9.3	(8.8)	5.6	630	
Ⅱ-40	16	FS-33	77	K-14-19	焼土	石斧	Ⅰ群A類	AO	(6.6)	(4.5)	(1.3)	59	基部のみ
Ⅱ-40	16	FS-34	78	K-14-18	焼土	石斧	Ⅰ群A類	AO	(7.8)	(4.5)	(1.8)	106.6	
Ⅱ-40	16	FS-87	88	K-13-15	焼土	使用痕のある礫	Ⅴ群B類	RY	12.4	3.8	2.8	190	
Ⅱ-40	16	FS-87	89	K-13-15	焼土	加工痕のある礫	Ⅴ群A類	TSS	(14.7)	(10.0)	(1.3)	280	被熱痕有り
Ⅱ-95	59		1	M-14-15	Ⅲ	石斧	Ⅰ群A類	AO	(9.5)	(7.9)	(2.6)	340	
Ⅱ-95	59		2	N-15-17	Ⅲ	石斧	Ⅰ群A類	AO	9.2	4.2	1.2	55	
Ⅱ-95	59		3	G-11-19	Ⅲ	石斧	Ⅰ群A類	AO	(8.8)	4.3	2.6	150	
Ⅱ-95	59		4	K-14-20	Ⅲ	石斧	Ⅰ群A類	SSS	9.8	5.2	2.2	120	
Ⅱ-95	59		5	F-10- 3	Ⅲ	石斧	Ⅰ群A類	AO	10.6	4.0	0.7	90	
Ⅱ-95	59		6	I-14-21	Ⅲ	石斧	Ⅰ群A類	AO	8.6	5.2	2.4	150	
Ⅱ-95	59		7	K-14- 8	Ⅲ	石斧	Ⅰ群A類	AO	7.2	3.6	1.6	60	
Ⅱ-95	59		8	L-14-17	Ⅲ	石斧	Ⅰ群A類	GLS	7.1	3.1	7.0	20	

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種	分類	石質	計測値				備考
									長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	
Ⅱ-95	59		9	K-13-19	Ⅲ	石斧	Ⅰ群Ａ類	GLS	(8.0)	(3.7)	0.9	40	
Ⅱ-96	59		10	L-14-12	Ⅲ	石斧	Ⅰ群Ａ類	TSS	15.6	6.2	3.6	420	
Ⅱ-96	59		11	K-13- 2	Ⅲ	石斧	Ⅰ群Ａ類	GLS	9.9	4.1	2.4	190	
Ⅱ-96	59		12	J-14- 8	Ⅲ	石斧	Ⅰ群Ａ類	DO	9.8	4.8	1.4	80	
Ⅱ-96	59		13	L-14-11	Ⅲ	石斧	Ⅰ群Ａ類	AO	9.7	5.2	1.3	80	
Ⅱ-96	59		14	H- 6-24	Ⅲ	石斧	Ⅰ群Ａ類	AO	11.7	4.3	2.1	170	刃部二次使用
Ⅱ-96	59		15	L-14-22	Ⅲ	石斧	Ⅰ群Ａ類	GLS	11.2	5.8	3.6	240	
Ⅱ-96	59		16	L-14-23	Ⅲ	石ノミ	Ⅰ群Ｂ類	BKS	(7.2)	(2.9)	(0.8)	22	
Ⅱ-96	59		17	L-14- 6	Ⅲ	石ノミ	Ⅰ群Ｂ類	SSH	6.5	2.5	0.9	19	
Ⅱ-97	60		18	L-14-18	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	PxAN	(15.1)	8.7	8.4	910	断面三角形
Ⅱ-97	60		19	L-14- 1	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	TSS	17.1	8.0	3.5	710	
Ⅱ-97	60		20	K-14-13	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	RY	11.9	11.2	2.1	350	
Ⅱ-97	60		21	K-13-10	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	TfSS	16.7	14.0	2.5	750	
Ⅱ-97	60		22	M-14	撹乱	擦石	Ⅱ群Ａ類	RY	13.6	8.1	1.6	230	被熱痕有り、付着物有り
Ⅱ-97	60		23	M-14- 7	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	RY	10.0	6.6	1.8	180	
Ⅱ-97	60		24	M-13-20	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	RY	13.4	8.1	1.9	280	
Ⅱ-97	60		25	M-14- 6	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	RY	12.8	7.3	2.1	280	
Ⅱ-97	60		26	L-14-20	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	RY	9.6	6.6	3.3	250	
Ⅱ-97	60		27	L-14-10	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	TSS	8.5	7.8	1.2	100	
Ⅱ-97	60		28	M-14-10	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	RY	14.0	6.6	2.3	270	
Ⅱ-97	60		29	L-13-21	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	RY	14.0	8.0	3.5	670	
Ⅱ-97	60		30	L-13-24	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	DO	14.5	7.3	1.9	290	
Ⅱ-98	60		31	L-15- 1	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	TSS	(7.6)	(4.9)	(4.2)	230	被熱痕有り、74と接合
Ⅱ-98	60		32	L-14-12	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	RY	17.9	8.1	2.8	740	２点接合
Ⅱ-98	60		33	L-15- 5	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	MGB	(9.6)	(8.4)	(2.6)	350	88と接合
Ⅱ-98	60		34	M-14-19	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	RY	13.1	6.6	2.2	330	
Ⅱ-98	60		35	I- 5-18	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	TSS	14.4	11.4	2.4	420	
Ⅱ-98	60		36	K-15-10	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	15.8	11.2	2.4	430	
Ⅱ-98	61		37	K-14- 5	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	14.9	7.1	1.8	250	
Ⅱ-98	61		38	H- 8-10	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	16.7	10.8	2.2	590	
Ⅱ-98	61		39	K-13-24	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	15.5	10.2	2.2	390	被熱痕有り、604と接合
Ⅱ-98	61		40	M-14-11	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	12.1	9.0	3.0	430	
Ⅱ-99	61		41	M-14-25	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	15.8	7.8	2.0	270	
Ⅱ-99	61		42	M-13-21	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	TF	15.2	8.2	1.5	230	
Ⅱ-99	61		43	L-14- 5	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	DO	16.0	8.5	2.2	410	
Ⅱ-99	61		44	L-14-23	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	DO	13.8	9.0	2.3	340	
Ⅱ-99	61		45	J-15-20	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	15.3	9.2	4.4	730	
Ⅱ-99	61		46	F-10- 2	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	TSS	12.5	8.9	3.5	530	
Ⅱ-99	61		47	N-14-24	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	TSS	11.9	7.7	1.5	220	
Ⅱ-99	61		48	N-15- 2	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	13.4	10.7	2.0	250	
Ⅱ-99	61		49	J-14- 8	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	15.8	9.2	3.0	500	
Ⅱ-99	61		50	L-14-20	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	9.4	8.6	2.8	230	
Ⅱ-99	61		51	L-14- 9	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	12.6	10.1	1.8	310	
Ⅱ-100	61		52	K- 9	撹乱	擦石	Ⅱ群Ａ類	HbAN	9.5	7.0	1.7	150	
Ⅱ-100	62		53	M-14- 3	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	15.1	9.2	3.8	825	
Ⅱ-100	62		54	L-15-10	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	15.1	8.5	4.6	890	
Ⅱ-100	62		55	I-14- 5	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	DO	17.5	10.0	1.8	440	
Ⅱ-100	62		56	L-13-20	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	RY	15.4	9.9	2.1	360	
Ⅱ-100	62		57	M-14- 7	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	16.2	7.5	1.9	270	
Ⅱ-100	62		58	K-13-10	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	14.9	8.4	3.3	430	被熱痕有り
Ⅱ-100	62		59	M-14-18	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	14.2	7.0	2.9	320	
Ⅱ-100	62		60	N-14-21	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	7.3	5.9	1.2	65	小型
Ⅱ-100	62		61	O-14	撹乱	擦石	Ⅱ群Ａ類	RY	13.8	8.2	1.3	190	

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種	分類	石質	計測値				備考
									長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	
Ⅱ-100	62		62	M-13-21	Ⅲ	擦石	Ⅱ群Ａ類	RY	12.3	8.3	1.9	210	
Ⅱ-100	62		63	F- 7	Ⅰ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	7.5	4.8	1.4	50	
Ⅱ-100	62		64	L-14- 3	Ⅲ	扁平打製石器	Ⅱ群Ｂ類	RY	11.6	8.5	1.8	190	被熱痕有り
Ⅱ-101	62		65	L-13-23	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	PxAN	(12.5)	(11.0)	(5.5)	610	
Ⅱ-101	62		66	M-14	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	PxAN	(12.0)	(5.4)	(5.4)	345	
Ⅱ-101	62		67	L-14-16	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	TSS	(10.3)	7.2	3.6	350	
Ⅱ-101	62		68	H-11-25	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	DO	12.7	9.6	7.3	1,140	
Ⅱ-101	62		69	K-13-25	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	PxAN	13.8	9.2	6.3	1,170	
Ⅱ-101	62		70	L-14-24	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	PO	(10.5)	10.0	6.7	1,020	
Ⅱ-101	62		71	K-13-24	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	DO	13.7	9.2	6.5	1,060	付着物有り
Ⅱ-101	62		72	L-13-22	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	HbAN～DA	(12.9)	(8.8)	(6.5)	890	
Ⅱ-101	62		73	L-13-21	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	PO	8.9	7.4	6.1	580	
Ⅱ-101	62		74	G- 7- 8	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	MSS	11.7	7.2	5.4	440	
Ⅱ-102	63		75	N-14-22	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	MS	(8.4)	(4.9)	(4.0)	160	
Ⅱ-102	63		76	K-14-15	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	DO	9.5	5.8	5.3	380	
Ⅱ-102	63		77	F- 7-15	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	PxAN	9.3	7.4	5.4	490	
Ⅱ-102	63		78	J-15- 5	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	DO	11.6	6.9	6.2	595	
Ⅱ-102	63		79	K-14- 4	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	DO	12.7	8.2	5.3	720	
Ⅱ-102	63		80	N-15- 2	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	DO	14.2	10.8	5.3	942	２点接合、未成品か未使用品か
Ⅱ-102	63		81	J-14- 3	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	CSS	(14.1)	(8.3)	(7.3)	970	
Ⅱ-102	63		82	N-13-19	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	DO	14.0	8.7	5.1	865	
Ⅱ-102	63		83	L-13-20	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	PO	12.6	8.3	6.3	940	
Ⅱ-103	63		84	L-13-19	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	DO	12.3	9.4	6.2	1,130	
Ⅱ-103	63		85	L-14- 8	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	DA	11.6	8.3	7.2	800	２点接合
Ⅱ-103	63		86	L-13-24	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	DO	9.0	5.5	3.7	260	
Ⅱ-103	63		87	F- 7- 5	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	DO	9.9	8.7	6.4	810	
Ⅱ-103	63		88	M-14-22	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	DO	11.9	8.0	5.6	790	
Ⅱ-103	63		89	L-14- 3	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	DO	14.3	7.3	5.9	960	
Ⅱ-103	63		90	L-13-17	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	DO	14.4	7.5	5.7	980	
Ⅱ-103	63		91	L-14-25	Ⅲ	北海道式石冠	Ⅱ群Ｃ類	DO	12.1	8.0	5.8	830	
Ⅱ-104	63		92	M-14-14	Ⅲ	敲石	Ⅱ群Ｄ類	〔QZ〕	9.5	8.8	5.0	510	
Ⅱ-104	63		93	K-12-23	Ⅲ	敲石	Ⅱ群Ｄ類	MS	7.0	5.6	2.5	120	
Ⅱ-104	63		94	Q-12-25	Ⅲ	敲石	Ⅱ群Ｄ類	QZ	7.2	6.0	5.7	335	
Ⅱ-104	63		95	L-14- 8	Ⅲ	敲石	Ⅱ群Ｄ類	CH	13.1	6.4	1.8	120	
Ⅱ-104	63		96	M-13-11	Ⅲ	敲石	Ⅱ群Ｄ類	TSS	(5.3)	(5.0)	4.1	150	
Ⅱ-104	63		97	-	表採	敲石	Ⅱ群Ｄ類	MSS	10.2	7.3	3.1	340	
Ⅱ-104	63		98	N-11-10	Ⅲ	敲石	Ⅱ群Ｄ類	TF	10.1	8.8	5.9	590	
Ⅱ-104	64		99	P-13-21	Ⅲ	敲石	Ⅱ群Ｄ類	TSS	14.8	7.8	4.8	700	
Ⅱ-104	64		100	I-11- 4	Ⅲ	敲石	Ⅱ群Ｄ類	TSS	11.9	7.2	4.4	490	
Ⅱ-104	64		101	M-13-21	Ⅲ	敲石	Ⅱ群Ｄ類	RY	14.9	5.9	2.3	230	
Ⅱ-104	64		102	K-13-15	Ⅲ	敲石	Ⅱ群Ｄ類	RY	17.1	5.9	2.2	280	
Ⅱ-104	64		103	M-14- 8	Ⅲ	敲石	Ⅱ群Ｄ類	SSH	18.9	6.4	4.0	490	
Ⅱ-105	64		104	M-17- 7	Ⅲ	敲石	Ⅱ群Ｄ類	TSS	18.8	8.6	5.1	1,160	
Ⅱ-105	64		105	M-12-14	Ⅲ	敲石	Ⅱ群Ｄ類	RY	(12.5)	(11.7)	(6.0)	1,590	被熱痕有り
Ⅱ-105	64		106	L-14- 7	Ⅲ	敲石	Ⅱ群Ｄ類	CSS	17.3	10.2	3.5	900	
Ⅱ-105	64		107	O-11-10	Ⅲ	敲石	Ⅱ群Ｄ類	HbAN	(16.4)	(9.8)	(5.5)	1,200	被熱痕有り
Ⅱ-105	64		108	M-13- 9	Ⅲ	敲石	Ⅱ群Ｄ類	MSS	17.7	8.6	6.6	1,150	
Ⅱ-105	64		109	M-12- 8	不明	敲石	Ⅱ群Ｄ類	RY	(19.4)	(8.2)	(6.7)	1,460	被熱痕有り
Ⅱ-105	64		110	K-15-15	Ⅲ	凹石	Ⅱ群Ｅ類	TSS	11.5	6.8	3.5	360	
Ⅱ-105	64		111	M-14- 6	Ⅲ	凹石	Ⅱ群Ｅ類	RY	17.6	6.2	4.0	460	
Ⅱ-105	64		112	K-14- 1	Ⅲ	凹石	Ⅱ群Ｅ類	RY	14.0	4.3	3.1	240	
Ⅱ-105	64		113	M-14-15	Ⅲ	凹石	Ⅱ群Ｅ類	TfSS	11.9	4.8	2.3	180	
Ⅱ-106	64		114	M-15	Ⅲ	石鋸	Ⅱ群Ｇ類	RY	19.5	6.8	1.2	150	２点接合
Ⅱ-106	64		115	L-14- 8	Ⅲ	石鋸	Ⅱ群Ｇ類	TfSS	13.1	6.4	1.8	120	

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種	分類	石質	計測値				備考
									長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	
Ⅱ-106	65		116	K-13-10	Ⅲ	石錘	Ⅲ群	TSS	10.7	7.3	1.8	220	
Ⅱ-106	65		117	N-15	Ⅲ	石錘	Ⅲ群	RY	9.3	7.1	1.4	130	
Ⅱ-106	65		118	M-13-12	Ⅲ	石錘	Ⅲ群	DO	15.7	9.2	3.2	650	
Ⅱ-106	65		119	M-14- 3	Ⅲ	石錘	Ⅲ群	TSS	11.1	7.2	2.7	320	
Ⅱ-106	65		120	M-14- 2	Ⅲ	石錘	Ⅲ群	TSS	16.6	9.7	3.3	780	付着物有り
Ⅱ-106	65		121	M-14- 4	Ⅲ	石錘	Ⅲ群	TSS	12.3	7.0	1.9	220	
Ⅱ-106	65		122	M-14-10	Ⅲ	石錘	Ⅲ群	TSS	15.0	8.7	4.6	700	
Ⅱ-106	65		123	M-13-16	Ⅲ	石皿	Ⅳ群Ａ類	DA	24.2	(16.0)	4.0	1,550	
Ⅱ-107	65		124	M-14- 1	Ⅲ	石皿	Ⅳ群Ａ類	QPAN	(41.1)	(25.1)	(14.6)	13,900	２点接合
Ⅱ-107	65		125	K-13-21	Ⅲ	石皿	Ⅳ群Ａ類	DA	(17.6)	(14.5)	(8.0)	2,600	３点接合
Ⅱ-107	66		126	L-14-15	Ⅲ	石皿	Ⅳ群Ａ類	QPAN	(39.8)	(32.7)	(11.5)	13,300	２点接合
Ⅱ-108	66		127	K-13-14	Ⅲ	石皿	Ⅳ群Ａ類	PxAN	34.0	28.3	11.4	15,700	２点接合
Ⅱ-108	66		128	J- 5-14	Ⅲ	台石	Ⅳ群Ｂ類	PxAN	(28.5)	(27.4)	(10.8)	11,500	２点接合
Ⅱ-108	66		129	K-14- 9	Ⅲ	台石	Ⅳ群Ｂ類	DA	(20.7)	(15.2)	(9.1)	3,000	２点接合
Ⅱ-108	66		130	Q-12- 2	Ⅲ	砥石	Ⅳ群Ｃ類	CSS	21.0	19.5	4.1	1,830	
Ⅱ-109	67		131	M-13	Ⅲ	砥石	Ⅳ群Ｃ類	DMS	6.4	4.1	1.0	15	
Ⅱ-109	67		132	H- 5	撹乱	砥石	Ⅳ群Ｃ類	TSS	12.2	9.2	1.8	300	
Ⅱ-109	65		133	L-14-14	Ⅲ	砥石	Ⅳ群Ｃ類	DMS	16.6	10.0	1.7	420	
Ⅱ-109	67		134	N-15-24	Ⅲ	加工痕のある礫	Ⅴ群Ａ類	TSS	12.5	8.3	3.5	480	
Ⅱ-109	67		135	M-14-12	Ⅲ	加工痕のある礫	Ⅴ群Ａ類	TSS	(12.5)	(11.0)	(6.4)	780	
Ⅱ-109	67		136	M-14- 7	Ⅲ	使用痕のある礫	Ⅴ群Ｂ類	TSS	11.5	9.9	4.4	650	
Ⅱ-109	67		137	M-13-16	Ⅲ	使用痕のある礫	Ⅴ群Ｂ類	TSS	(15.5)	8.0	(5.0)	610	

(4) 土製品

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種	分類	計測値				備考
								長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	
Ⅱ-36	14	P-25	35	Q-12-12	覆土	土製品	Ⅰ群Ｂ類	8.6	(4.2)	2.4	22.4	匙形土製品
Ⅱ-110	67		1	M-14-12	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ａ類	(10.9)	(8.6)	1.95	108.5	土偶、２点接合
Ⅱ-110	67		2	M-14- 6	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ａ類	(7.1)	(5.8)	1.5	30	土偶、２点接合
Ⅱ-110	67		3	M-14- 6	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ａ類	(5.3)	3.41	1.25	22.2	土偶、脚部
Ⅱ-110	67		4	N-13	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ａ類	(5.3)	4.9	2.0	30.8	土偶、脚部
Ⅱ-110	67		5	N-11-15	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ａ類	4.0	(3.8)	1.6	11.7	土偶、腕部左右に貫通孔
Ⅱ-110	67		6	L-13-15	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ａ類	(2.56)	2.45	0.98	3.98	土偶、下部欠損、腕部左右に貫通孔
Ⅱ-110	67		7	L-13-23	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ａ類	(3.8)	(2.9)	0.8	6.0	土偶、腕部?
Ⅱ-111	68		8	I- 9- 3	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ｂ類	口径4.2	底径1.1	高さ5.1	26.6	ミニチュア土器、連弧状の沈線
Ⅱ-111	68		9	J-13-15	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ｂ類	口径(5.2)	底径(2.9)	器高(3.5)	40.3	ミニチュア土器、丸底
Ⅱ-111	68		10	J- 7-16	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ｂ類	口径(3.2)	底径(2.2)	高さ1.6	6.9	ミニチュア土器、底部のみ
Ⅱ-111	68		11	M-14	撹乱	土製品	Ⅰ群Ｂ類	(5.3)	3.7	(1.8)	15.3	匙形、２点接合、手づくね
Ⅱ-111	68		12	G- 6-19	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ｂ類	(5.7)	(3.2)	(2.3)	12.0　6点	匙形、６点接合、他同一物３点、舟形土製品
Ⅱ-111	68		14	M-14- 1	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ｂ類	(8.4)	(8.0)	(2.9)	(80.9)	舟形土製品
Ⅱ-111	68		15	M-14-20	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ｂ類	(3.0)	(2.7)	1.4	4.8	無文、匙形or舟形土製品
Ⅱ-111	68		13	L-13-24	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ｂ類	(4.0)	(2.4)	(1.7)	10.2	舟形土製品
Ⅱ-111	68		16	G- 6-18	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ｂ類	3.6	(3.2)	2.1	17.9	一部欠損、キノコ形？土製品
Ⅱ-111	68		17	L-14-23	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ｂ類	(3.4)	2.2	(1.9)	9.3	棒状土製品、指頭様、２点接合
Ⅱ-111	68		18	L-13-19	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ｂ類	(3.1)	(2.0)	(1.3)	7.0	棒状土製品
Ⅱ-111	68		19	G- 8-25	撹乱	土製品	Ⅰ群Ｂ類	(4.5)	1.0	1.0	4.2	棒状土製品
Ⅱ-111	68		20	M-13-11	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ｂ類	(4.3)	2.1	1.3	5.5	獣牙様、垂飾品、端部に貫通孔
Ⅱ-111	68		21	K-12	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ｂ類	3.11	2.97	1.61	9.2	環状土製品
Ⅱ-111	68		22	M-13-21	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ｂ類	5.3	5.23	1.58	35.4	環状土製品
Ⅱ-112	69		23	L-14- 5	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ｂ類	2.76	2.22	0.8	4.2	円形土器片版（有孔）、両方向からの尖孔あり
Ⅱ-112	69		24	I-13-15	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ｂ類	(3.58)	(1.92)	(0.78)	4.9	円形土器片版、中央に貫通孔あり
Ⅱ-112	69		25	O-13- 2	Ⅲ	土製品	Ⅰ群Ｂ類	4.16	3.2	1.08	11.5	円形土器片版

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種	分類	計測値				備考
								長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	
Ⅱ-112	69		26	L-14- 5	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	(5.88)	2.97	0.88	17.0	円形土器片版
Ⅱ-112	69		27	M-14- 7	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	3.96	3.51	1.01	13.5	円形土器片版
Ⅱ-112	69		28	J-12- 9	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	4.7	3.0	7.7	8.3	三角形土器片版、LR
Ⅱ-112	69		29	I-11-20	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	4.4	4.3	0.9	20.0	三角形土器片版、LR
Ⅱ-112	69		30	J- 5-21	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	4.8	4.6	9.2	17.8	三角形土器片版、LR
Ⅱ-112	69		31	O-12-22	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	7.2	6.19	1.17	54.9	三角形土器片版、RL、沈線、裏面に朱彩
Ⅱ-112	69		32	L-13- 1	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	3.8	3.49	0.79	8.7	三角形土器片版、LR
Ⅱ-112	69		33	L-13- 3	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	5.11	4.09	0.89	17.6	三角形土器片版、格子状
Ⅱ-112	69		34	L-13-15	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	3.2	2.83	0.72	6.5	三角形土器片版、LR
Ⅱ-112	69		35	L-13-18	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	4.36	4.16	0.7	11.8	三角形土器片版、LR
Ⅱ-112	69		36	L-13-20	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	4.73	4.29	0.89	12.4	三角形土器片版、LR
Ⅱ-112	69		37	L-14	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	4.72	(3.79)	1.17	18.5	三角形土器片版、LR
Ⅱ-112	69		38	M-14- 7	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	4.66	4.18	1.05	16.9	三角形土器片版
Ⅱ-112	69		39	M- 1- 7	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	4.96	4.38	0.90	20.7	三角形土器片版、LR
Ⅱ-112	69		40	M-14-12	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	4.89	4.02	1.0	16.4	三角形土器片版、RL
Ⅱ-112	69		41	M-13-16	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	3.18	2.92	0.73	6.5	三角形土器片版、LR
Ⅱ-112	69		42	M-14-12	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	6.93	5.53	1.38	34.3	三角形土器片版
Ⅱ-112	69		43	O-11-23	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	3.13	2.97	8.0	7.5	三角形土器片版、LR、炭化物付着
Ⅱ-112	69		44	M-13-17	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	5.85	5.44	1.1	24.9	三角形土器片版、RL
Ⅱ-112	69		45	L-13-25	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	4.3	3.75	0.98	12.4	三角形土器片版、RL
Ⅱ-112	69		46	M-14-14	Ⅲ	土製品	Ⅰ群B類	3.38	3.18	0.88	9.9	三角形土器片版、LR
Ⅱ-112	69		47	J-12	Ⅰ	土製品	Ⅰ群B類	2.5	2.26	6.2	4.3	三角形土器片版、LR、沈線
Ⅱ-112	69		48	K-12	Ⅰ	土製品	Ⅰ群B類	4.5	4.1	7.0	12.9	三角形土器片版、無文
Ⅱ-112	69		49	L-11	Ⅰ	土製品	Ⅰ群B類	3.68	3.17	0.74	9.3	三角形土器片版
Ⅱ-112	69		50	N-14	撹乱	土製品	Ⅰ群B類	5.0	3.8	0.99	18.9	三角形土器片版

(5) 石製品

図版	写真	遺構	番号	グリッド	層位	器種	分類	石質	計測値				備考
									長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	
Ⅱ-38	15	TP-1	58	I-11-23	覆土	石製品	Ⅱ群	RY	3.2	3.0	0.9	9.8	円形岩板、肉厚
Ⅱ-113	70		1	O-13-16	Ⅲ	石製品	Ⅱ群	AO	(4.9)	(3.5)	(2.3)	43.3	石斧擦切残片or石棒？
Ⅱ-113	70		2	G- 9	撹乱	石製品	Ⅱ群	MS	(6.5)	(3.9)	7.4	20.0	石刀類？
Ⅱ-113	70		3	L-13-20	Ⅲ	石製品	Ⅱ群	MS	(3.6)	2.1	0.85	7.5	垂飾品、有孔
Ⅱ-113	70		4	N-13-17	Ⅲ	石製品	Ⅱ群	TfSS	9.6	2.3	2.0	30.6	棒状石製品、２点接合
Ⅱ-113	70		5	L-13-22	Ⅲ	石製品	Ⅱ群	TF	11.2	8.1	4.1	475.0	石冠状石製品
Ⅱ-114	70		6	N-14-16	Ⅲ	石製品	Ⅱ群	RY	8.2	8.1	1.6	120.0	三角形石製品
Ⅱ-114	70		7	G-11	Ⅲ	石製品	Ⅱ群	CSS	5.2	5.1	2.2	50.0	三角形石製品、肉厚
Ⅱ-114	70		8	M-14-16	Ⅲ	石製品	Ⅱ群	RY	7.1	4.8	1.2	36.0	三角形石製品、肉厚
Ⅱ-114	70		9	K-15- 7	Ⅲ	石製品	Ⅱ群	RY	5.6	5.4	1.0	35.0	三角形石製品、肉厚
Ⅱ-114	70		10	沢	撹乱	石製品	Ⅱ群	MS	5.5	5.1	1.5	35.0	三角形石製品、裏面条痕有り
Ⅱ-114	70		11	M-14- 8	Ⅲ	石製品	Ⅱ群	DO	(10.8)	(8.5)	4.5	580.0	青龍刀形石製品
Ⅱ-114	70		12	M-12-10	Ⅲ	石製品	Ⅱ群	TfSS	26.1	7.7	4.5	860.0	石斧状石製品、２点接合

石器・石製品の石質略号は以下のとおりである。
流紋岩：RY　デイサイト(石英安山岩)：DA　石英斑岩：QP　安山岩：AN　角閃石安山岩：HbAN　輝石安山岩：PxAN　ひん岩：PO
玄武岩：BS　ドレライト(粗粒玄武岩)：DO　はんれい岩：GB　変はんれい岩：MGB　砂岩：SS　粗粒砂岩：CSS　中粒砂岩：MSS
細粒砂岩：FSS　泥岩：MS　珪藻質泥岩：DMS　凝灰質砂岩：TfSS　凝灰質泥岩：TfMS　凝灰岩：TF　めのう：AG　石英岩：QR
変形砂岩：TSS　変形泥岩：TMS　チャート：CH　アオトラ：AO　藍閃石片岩：GLS　砂質片岩：SSS　黒色片岩：BKS
珪質頁岩：SSH　強珪化岩：SI　晶洞石英：〔QZ〕

参考文献

青森県教育委員会 1995『上蛇沢(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 177 集
青森県教育委員会 1985『弥栄平(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 98 集
青森県教育委員会 1989『富ノ沢(1)・(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 118 集
青森県教育委員会 1993『野場(5)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 150 集
青森県教育委員会 2000『餅ノ沢遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 278 集
青森県教育委員会 2001『黒坂遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 306 集
青森県教育委員会 2006『新田遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 410 集
青森県教育委員会 2006『田代遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 413 集
青森県教育委員会 2007『三内沢部(3)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 426 集
青森県教育委員会 2007『宮田館遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 429 集
青森県教育委員会 2007『米山(2)遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 433 集
青森県教育委員会 2009『山田(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 469 集
青森県教育委員会 2009
『長久保(2)遺跡Ⅲ糠塚小沢遺跡Ⅱ中居林遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 470 集
青森市教育委員会 2004『江渡遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第 75 集
浦河町教育委員会 1999『西舎５遺跡発掘調査概要報告書』
上磯町 1975『上磯町史　年史編』
上磯町 1997『上磯町史　上巻』
上磯町教育委員会 1989『三ツ石遺跡』
上磯町教育委員会 1992『石倉野３遺跡』
上磯町教育委員会 1998『フコマ野遺跡』
上磯町史編纂委員会 1968『茂別郷土誌』
木古内町教育委員会 2004『蛇内遺跡』
伊達市教育委員会 1998『北黄金貝塚発掘調査報告書』
伊達市教育委員会 1999『北黄金貝塚発掘調査報告書』
戸井町教育委員会 1988『釜谷２遺跡Ⅰ』
戸井町教育委員会 1990『浜町Ａ遺跡Ⅰ』
戸井町教育委員会 1991『浜町Ａ遺跡Ⅱ』
戸井町教育委員会 1993『戸井貝塚Ⅲ』
八戸市教育委員会 2006『是川一王寺(1)遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 110 集
八戸市教育委員会 1986『八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ丹後谷地遺跡』
八戸市埋蔵文化財調査報告書第 15 集
函館市教育委員会 1997『湯川貝塚』
函館市教育委員会 2003『豊原４遺跡』
函館市教育委員会 2010『垣ノ島遺跡』
北斗市教育委員会 2009『ヤギナイ遺跡』
北斗市教育委員会 2015『茂辺地４遺跡』
北斗市教育委員会・特定非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団 2013『茂辺地４遺跡』
函館市教育委員会・特定非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団 2008『桔梗２遺跡』
（財）北海道埋蔵文化財センター1987『木古内町建川２・新道４遺跡』北埋調報 43
（財）北海道埋蔵文化財センター1998『茂別遺跡』北埋調報 121
（財）北海道埋蔵文化財センター2001『千歳市キウス４遺跡(8)』北埋調報 157
（財）北海道埋蔵文化財センター2007『北斗市館野遺跡(1)』北埋調報 237
（財）北海道埋蔵文化財センター2007『森町濁川左岸遺跡(3)』北埋調報 246
（財）北海道埋蔵文化財センター2012『木古内町蛇内２遺跡』北埋調報 281
（財）北海道埋蔵文化財センター2013『北斗市館野２遺跡Ｃ地区』北埋調報 303
（財）北海道埋蔵文化財センター2005『北斗市矢不来 6・矢不来 11 遺跡・館野 4 遺跡』北調埋報 235
（財）北海道埋蔵文化財センター2013『館野６遺跡』北埋調報 295
松前町教育委員会 1983『白坂国道 228 号線改良拡幅工事に伴う緊急発掘調査報告書』
南茅部町教育委員会 1996『大船Ｃ遺跡』
南茅部町教育委員会 2002『大船Ｃ遺跡・ハマナス野遺跡 vol.ⅩⅦ』
南茅部町埋蔵文化財事業団 1997『八木Ａ遺跡Ⅲ・八木Ｃ遺跡』
南茅部町埋蔵文化財調査団 1998『精進川Ｂ遺跡安浦Ｊ遺跡』南茅部埋蔵文化財調査団第７輯報告
森町教育委員会 2006『鷲ノ木４遺跡』
海峡土器編年研究会 2004『東北・北海道の縄文時代中期後葉の諸問題』

葛西　勵 2002『再葬土器棺墓の研究－縄文時代の洗骨葬－』再葬土器棺墓の研究刊行会
熊谷仁志 2001「北海道の縄文土器」『新北海道の古代 1 旧石器・縄文文化』北海道新聞社
小島朋夏 2005「縄文時代における軽石製模造品について」葛西勵先生還暦記念論文集刊行会　北奥の考古学
高橋　哲 2007「石匙の使用痕分析-植物加工具としての石匙についての考察-」『考古学談叢』
東北大学大学院文学研究科考古学研究室　須藤隆先生退任記念論文集刊行会　六一書房
千葉毅・高山理美「東北地方北部における縄文時代後期初頭から前葉土器編年研究の現状と課題」
『縄文時代』第 25 号
福島雅儀 2005「復元的視点による竪穴住居跡の発掘調査」『福島県文化財センター白河館研究紀要 2004』
山内清男 1979『日本先史時代の縄紋』先史考古学会